



# みんなで丹波の森

～丹波の森夢21委員会から丹波にかかわる皆さんへ～

私たちは、ふるさと丹波のかけがえのない美しい自然はもちろん、暮らしやなりわい、地域内外の人々との交流、生活空間、生活文化など、私たちを取り巻くすべての環境を「丹波の森」と考え、より良い地域づくりに取り組んできました。

この取り組みの基本理念となる丹波の森宣言が、1988年（昭和63年）に宣言され、この理念を具体化する指針として「丹波の森構想」が翌年につくられました。以後、12年の月日が経過する中で、住民主体の活動を推進する組織として（財）丹波の森協会ができ、活動拠点として丹波の森公苑をはじめさまざまなふれあい、交流、活動施設が整備されました。

これらの理念、組織、拠点を活用し、丹波地域の住民、団体、企業・事業者、行政などさまざまな人々が多彩な取り組みを展開しています。その成果の一端として、丹波の自然環境を守る気運の高まり、オーストリア・ウィーンの森やフランス・フォンテーヌブローの森との交流や多様な住民活動の広がりなどがあげられます。

21世紀を迎えた今、丹波で生きる私たち一人ひとりが新たな決意のもと、<sup>ふるさと</sup>丹波づくりに関わりたいと思います。

このため、丹波に住む人、訪れる人が「やっぱり丹波が好き！」と感じる地域づくりをめざして、多くの皆さんからいただいたたくさんの意見提案をもとに、丹波地域の夢ビジョンとなる「みんなで丹波の森」をとりまとめました。これをきっかけに、さらに夢実現のための議論を深め、みんなが行動していくことを提案します。まずは、それぞれの立場、役割の中で自分のできることから始めましょう。

丹波に関わるすべての人の<sup>ふるさと</sup>丹波への思いを結集して、素晴らしい<sup>ふるさと</sup>丹波を未来の子どもたちに手渡すために、さあ「みんなで丹波の森」!!

2001年（平成13年）2月

丹波の森夢21委員会

## 第1章 みんなで丹波の森

### 1 丹波に吹く風

丹波地域は、穏やかな山やまに囲まれた農山村地域です。総面積の約75%を森林が占める緑豊かな自然と日々の暮らしやなりわいのなかで素晴らしい文化がつくりだされてきた「森の国」です。

しかし、価値観が多様化し、生活の効率性や利便性を追求してきた20世紀後半は、今まで私たちが「丹波らしさ」と考えていた心のゆとりを持った暮らしや自然とのふれあいなどがなおざりにされた感があります。

一方で、ここ数年は、自然回帰、自然との共生など「森の国」丹波を再認識できる風潮が感じられるようになりました。ただ、自然や森林、農山村地域に対する人々の思いもさまざまです。

みんなで丹波づくりを進めるにあたっては、今一度、私たち一人ひとりが、時代の流れも含め「丹波の森」の現状や抱えている課題をしっかりと認識し、足元を見つめながら、長期的な視点に立って地球的規模で考え、行動する必要があります。

そのことが丹波を見つめ直すきっかけとなり、改めて丹波づくりにみんなが取り組む第一歩になると信ずるからです。

そこで、多くの皆さんの意見から明らかになった課題や私たちを取り巻く時代の流れについて、まず、考えてみました。

#### 丹波地域

- ・兵庫県の中東部に位置し、篠山市、氷上郡6町からなる。
- ・総面積：870.89km<sup>2</sup>。兵庫県の約10%を占める。
- ・人口：119,183人（平成12年国勢調査による速報値）
- ・丹波の地形：日本海側と瀬戸内海側に水系を分ける日本一低い水分れ分水界（94.45m）
- ・周囲は、標高500m～900m余りの山稜。標高80m～140mの氷上低地と標高200m前後の篠山盆地。
- ・京阪神大都市圏に近接：神戸から約50km、大阪、京都から約60km。
- ・基幹交通網の整備：JR福知山線の電化（昭和61年11月）、複線化（平成9年3月新三田～篠山口間）、近畿自動車道敦賀線（舞鶴自動車道）の開通（昭和63年3月）、北近畿豊岡自動車道（春日町～豊岡市）工事着手（平成8年8月）。

**丹波の森** 丹波の森宣言、丹波の森構想にもとづく地域づくりの理念。

丹波の自然や文化を大切にし、これらを生かしながら「人と自然と文化の調和した」地域づくりをめざす取り組み。（第5章の1丹波の森構想12年のあゆみを参照）

**丹波の森協会** 丹波の森づくり、地域づくりを住民主体で進める組織としてつくられた。丹波の森づくりのリーダーを養成する「丹波の森大学」やオーストリア・ウィーンの森やフランス・フォンテーヌブローの森との交流、地域の里山づくりの活動支援など、丹波の森構想実現のためさまざまな取り組みを進めている。丹波の森づくりのシンクタンク機能、コーディネート機能、人材養成機能など多様な機能を発揮している。

用語解説の出典は、imidas、広辞苑、国語辞典、漢和辞典、カタカナ語辞典などである。

## (1) 丹波に吹く固有の風～私たちの住む「丹波」の課題～

住民の皆さんからは、次のような課題が提起されています。

### 自然環境の保全

丹波は、加古川、武庫川、由良川の3大河川の最上流にあり、天の恵みを受けて、清浄な空気や貴重な水を生みだし、丹波はもちろん流域すべての生き物の命をはぐくんできました。しかし、水源を涵養<sup>かんよう</sup>し、地域の文化をはぐくんできた丹波の森林が今、手入れが行き届かず、荒廃の危機<sup>ひん</sup>に瀕し、丹波人のみならず、地域以外の人々との協力による保全が迫られています。

### 農林業の後継者育成

耕作放棄田、施業放棄林などの増加や担い手不足、担い手の高齢化の問題も顕在化しており、担い手の育成・定着が急がれます。

### 調和のとれた街づくり

複線電化したJR福知山線沿線（丹波地域南部）を中心に、都市部からの移住も進んでおり、丹波らしい景観の保全や自然と調和のとれた開発のあり方やルールづくりの必要性が提起されています。

### 互助精神の向上

隣近所や地域で助け合い、支え合ってきた互助の精神が、生活が豊かになり、価値観が多様化する中で、薄れつつあるのではないかと危惧<sup>きく</sup>されており、多世代が支え合う地域が望まれます。

### 若者の定着

丹波で生まれ、育った若者にとって、働く場や選択できる職業の種類が少ないことにより、地域での就職や都会に出ていった人が地域に帰って来ることが困難な状況が続いています。新しいなりわい、働く場の創造による若者の定着が待たれます。

---

**3大河川の流域** 加古川水系を通じて播磨、武庫川水系を通じて阪神、由良川水系を通じて京都に及ぶ。

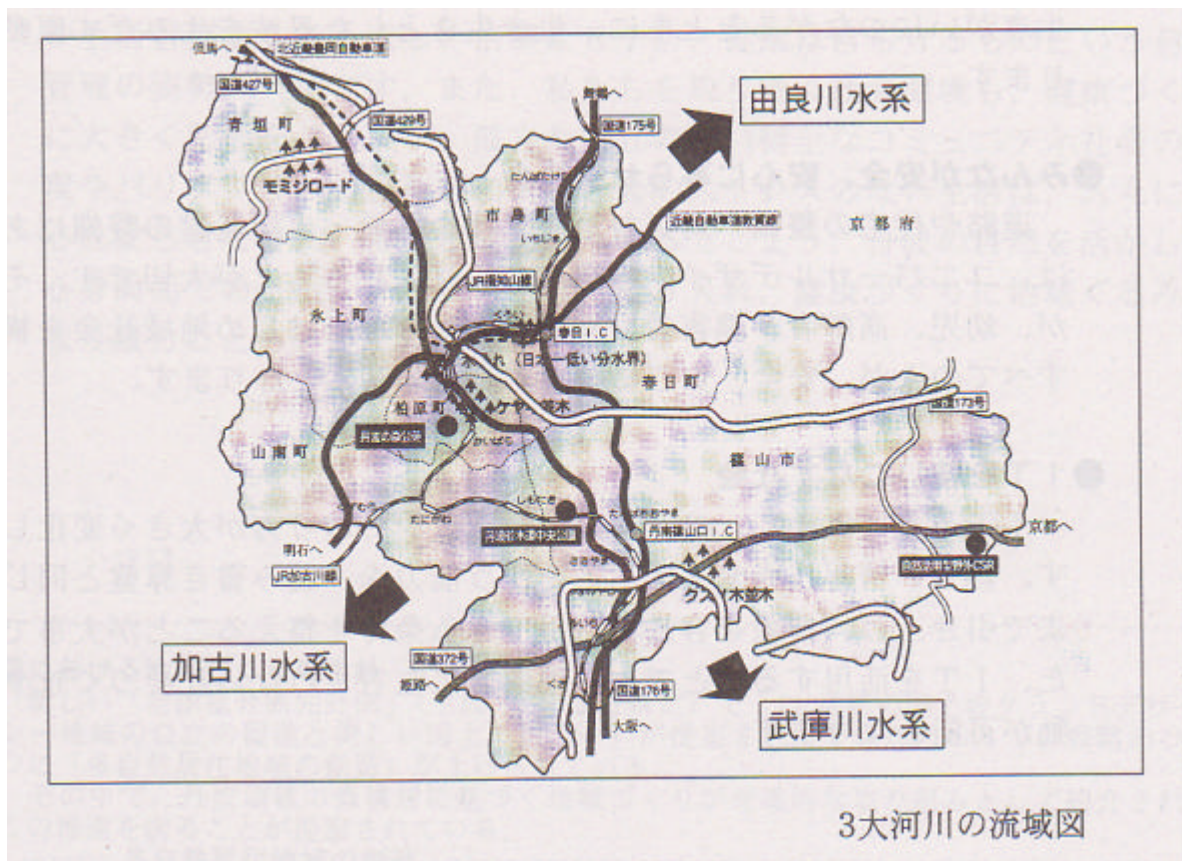
**丹波人** たんばびと。丹波に住む人、働く人の総称。

### 地域の活性化

先にあげた放棄田をはじめ空店舗の増加、工場誘致の頭打ちなどにみられるような地域の活力の低下も懸念されています。地域活性化のための対応策が必要です。

### その他

そのほかにも、丹波人が、「丹波の自然のすばらしさや実態を知らない」、「地域社会と子どものつながりが希薄になっている」という指摘もあります。また、女性が安心して子どもを産み育てられる環境や高齢者・障害者・外国人住民などがいきいきと安心して暮らせるまちづくりなども課題です。



## (2) 丹波に吹く時代の風

### ～ 社会の動きが丹波地域にも押し寄せています～

丹波にも時代を取り巻く大きな潮流が押し寄せています。ものの豊かさを享受していた成長の時代から、社会の構成員として責任を果たしていく成熟の時代へと価値観の転換が求められています。こうした流れを丹波に当てはめて考え、丹波の将来を見据えていくことが大切です。

#### 住民が主役

21世紀は、自分たちが住む地域のことは、自ら考え、議論し、実現のために具体的な提案をし、その実現のために行動するという姿勢が大切です。地域づくりの主役として私たち住民が責任を持つことが、自分自身の生きがいにつながるとともに、生き生きとした丹波を生み出す原動力になります。

#### みんなが安全、安心に暮らせる社会

道路や住宅の整備、防災対策など社会基盤・生活基盤の整備にあたっては、ユニバーサルデザインの視点を取り入れることが大切です。そのことが、幼児、高齢者、障害者や外国人住民などをはじめ地域社会を構成するすべての人が、安全、安心に暮らすことの基本となります。

#### ITを使いこなす社会

IT革命によって、コミュニケーションの取り方が大きく変化しています。新しい情報技術やメディアを使う能力を、読み書き算盤そろばんと同じくらいまで引き上げ、情報を容易に活用できる条件を整えることが大切です。また、ITを活用することで、立地環境に左右されない社会づくりや経済活動が可能となります。

---

**ユニバーサルデザイン** ハンディキャップの有無にかかわらず誰にとっても利用しやすい商品・施設的设计。

**IT** インフォメーション・テクノロジー。情報技術。コンピュータやインターネットを支える機器類やソフトウェアなどをさす。

## 地球環境優先のライフスタイル

ものの豊かさや利便性の追求は、大量生産・大量消費・大量廃棄を当たり前とする生活によって、そうした一人ひとりの暮らしが地球環境を悪化させてきました。

私たち人間も、自然界の一員として自然の大きなサイクルの中で生きていること、生かされていることを自覚し、私たちの価値観を変え、地球環境優先のライフスタイルを築くことが必要です。

## 心身ともに健康がすべての源

人生80年時代を迎えるなかで、健康について見直す時期が来ています。医療費が年々増大しているにもかかわらず、国民の有病率はいっこうに下がりません。生活習慣病の低年齢化が懸念されるなか、食生活のバランスや生活習慣病を考え直し、治療より予防、健康は自ら守るものという自己管理の姿勢が大切です。また、私たちを取り巻く社会環境も、健康づくりに大きく影響を与えます。孤立や対立のない健全なコミュニティ社会の実現やバリアフリーの実施等による社会的ストレスのない生活は、人々に安心と安らぎを与え、健康増進に寄与するでしょう。丹波の自然を活かし、心身両面での「癒し」を日常生活に取り入れ、健康づくりに地域ぐるみで取り組むことも必要です。

---

### 国における地域づくりの指針

新しい「全国総合開発計画」(平成10年3月策定)で「21世紀の国土のグランドデザイン 地域の自立の促進と美しい国土の創造」が提案され、そのための4つの戦略のひとつに「多自然居住地域の創造」が上げられている。

その中で、丹波地域の森構想に基づく地域づくりが先進的な取り組みとして紹介され、この推進を図ることが提案されている。

#### 多自然居住地域の創造

豊かな自然環境に恵まれた地域を、21世紀の新たな生活様式を可能とする国土のフロンティアとして位置付けるとともに、地域内外の連携を進め、都市的なサービスとゆとりある居住空間、豊かな自然を併せて享受できる誇りの持てる自立的圏域として「多自然居住地域」を創造する。

**ライフスタイル** 生活様式、暮らしぶり、生活に対する考え方や習慣。

**有病率** 検査時において集団のなかで疾病にかかっている人の割合。

**バリアフリー** 車いす利用者や高齢者のために段差をなくしたり、外国人のために母国語による表示をするなど心理的・物理的障壁を取り除くこと。

## 2 丹波の魅力の創造

丹波に吹く固有の風や時代の風を認識しながら、丹波の誇るべきところや丹波らしさなど丹波の魅力を再確認し、再構築すると同時に、新たな魅力を創造していくことが大切です。

そして、このようにして創造される丹波の魅力をみんなの共有財産として守り、育て、活かしていきましょう。

そこで、私たちが丹波にかかわる皆さんと一緒につくっていきたい、また一層高めたいと願う丹波の魅力をあげてみました。

### 都会に近い田舎

豊かな自然の中で暮らしていける都会に近い田舎として、丹波地域内外の人々や外国との交流が活発にできる。

### 多世代が支え合う豊かなコミュニティ

子ども・若者から高齢者まで各世代や男女、障害者、外国人住民などみんなが参加し、支え合い、助け合うところ豊かなコミュニティがある。子どもが豊かな自然や多彩な人々との関わりの中でこころ豊かに育てられている。

### 丹波のことは自分たちで決める仕組み

自分たちの地域のことは自分たちで決めて実行できる仕組みがある。みんなの合意で丹波らしいルールをつくることができる。

### 幅広い働き方・いろいろな職種・手応えを感じる社会活動

いろいろな職種を選べる、働き方を選べる、仲間を増やして活発な社会活動ができる。丹波の自然の恵みや伝統・文化、魅力を生かし、農林業や商工業のネットワークが広がる産業がはぐくまれる。

### 無意識のうちにつくられているバリアがない地域

意図せずにつくられているバリア（＝物理的・心理的障壁）がなく、心穏やかに安心して暮らせる真のバリアフリーの社会。



### 3 森の住民から「森の市民」へ

環境や健康、福祉、防災、若者の定着、高齢者の生きがいづくり、産業の活性化など生活に身近な地域課題の解決やよりよい地域づくりに取り組み、丹波の魅力創造していくために、まず、私たちが「森の市民」になりましょう。

#### 「森の市民」とは

単に「丹波に住んでいる人」ではなく、個人、団体、企業・事業者、行政の枠を取り払い、以下の事項に一つでも当てはまる人々

川の上流域「丹波の森」に住んでいることを自覚する

丹波に誇りと愛着を持つ

丹波をよくしたい、そのために役立ちたいと責任を持って行動する

そのことに喜びを感じる

自律している

丹波地域の夢ビジョンでは、丹波に関わる人々の理想像として「森の市民」をこのように定義づけました。

まずは身近なところから始め、丹波ファンとともに、住んでよかった、住んでみたい、訪れてみたいと言える丹波<sup>ふるさと</sup>づくりにみんなで行きまわることが大切です。

「森の市民」が主役としてお互いに力を合わせて実践していきましょう。

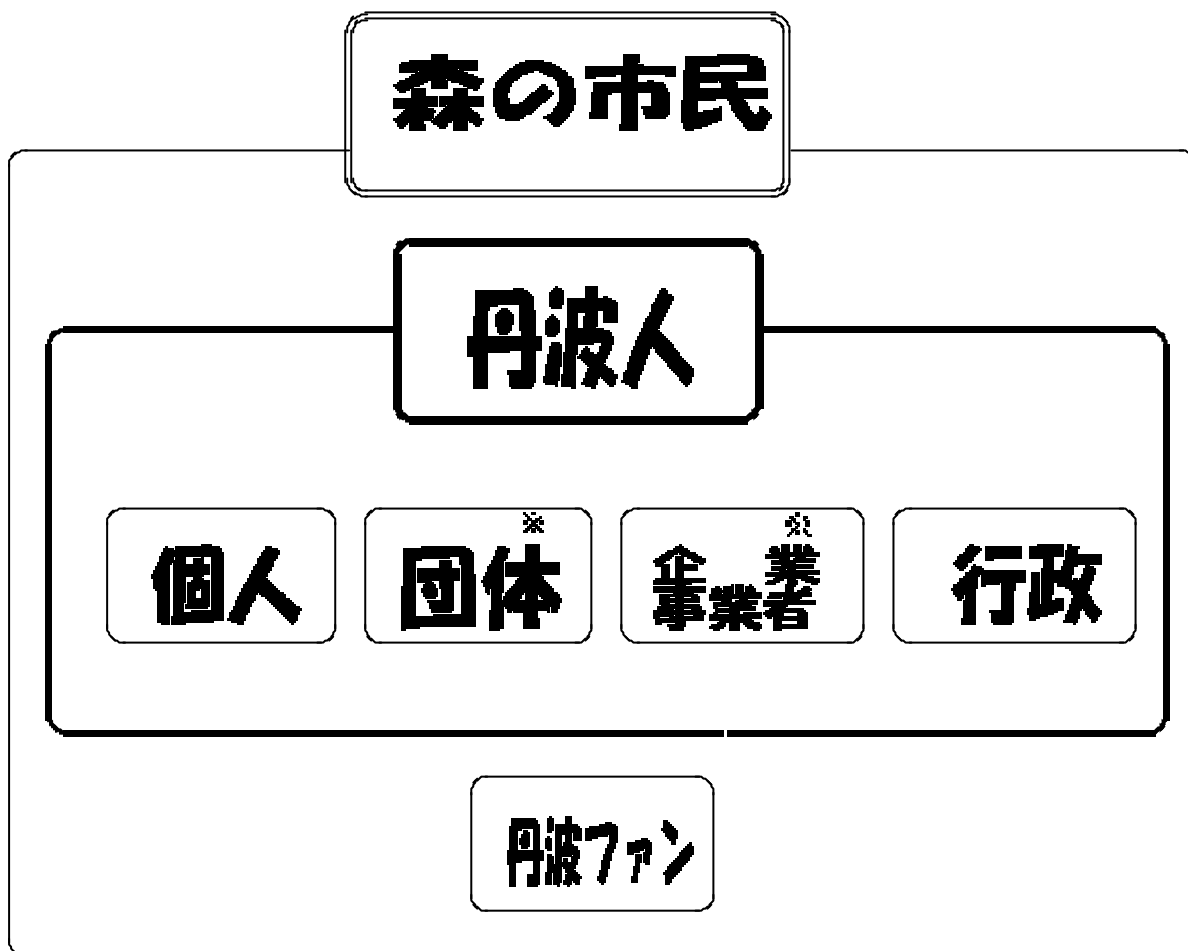
市民社会 個人の自由、平等、独立が保証されている社会

市民運動 社会的な問題意識に基づいて、目的を持って自発的、継続的に行う活動

自律 他から強制されず、自分の意思と自己責任の基に、守るべき基準に従って行動すること。（他律：自分の意思判断に基づかず、他から強制されて行動すること）

丹波ファン 丹波地域外に住む人々で、仕事、交流、趣味、レジャーなどで丹波を訪れる機会のある人。丹波に興味や愛着を持っている人。丹波出身者。

図：「森の市民」構成図



「森の市民」としてのかかわり方は

できることから始めましょう。

課題解決やよりよい地域づくりに積極的に取り組みましょう。

自分が持っている資源（知識、経験、技術、資金、労力、人脈など）を活かしましょう。

「森の市民」としての意識を持てる仲間を増やしましょう。

「森の市民」になるためには

「森の市民」になるためには、難しいことは必要ありません。日ごろの生活の工夫によっていつでも「森の市民」になることができます。

まず、ふるさとが持つ顔を一人ひとりがよく知ること、そして、<sup>ふるさと</sup>丹波の歴史、文化、環境、自然等の学習を総合的に、かつ、継続して行うことが大切です。

-----  
団体 自治会、婦人会、PTA等の地縁組織や趣味の会、サークル、実践活動グループなど各種活動グループの総称

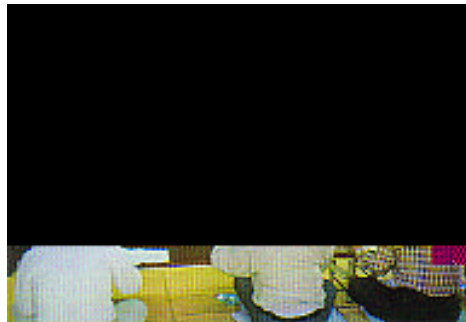
企業・事業者 事業を営んでいる個人、団体、法人

#### 4 みんなで丹波づくり

21世紀の丹波においては、「森の市民」として個人や団体、企業・事業者、行政が丹波づくりの理念を共有し、お互いの信頼関係の上に立ってパートナーシップを深めることが大切です。

今までのように、行政が課題解決や地域づくりに取り組み、個人や企業・事業者は「私」の活動のみに関わっていればよいという考え方では丹波づくりはできません。

だれのための、何のための丹波づくりかを、まず、考えてみましょう。一人ひとりが「森の市民」として総合的な視点で考え、行動することが何より大切です。そして、その総和がよりよい丹波づくりにつながります。



---

パートナーシップ お互い対等な関係で、目的実現のために連携・協力すること

## 第2章 <sup>ふるさと</sup>丹波をはぐくむ

田んぼや里山、そして家々が織りなす丹波の田園風景は、日本人だれもがこころの中に持っている「自分のふるさと」の風景と重なり合い、「日本のふるさと」の原風景を呈しています。

丹波の自然は、丹波に住む人々はもちろん、隣接する阪神都市圏や播磨、さらには京都丹波に住む人々にとっても、清らかな空気や貴重な水をはぐくむ母体として大変重要な役割を担っているのです。そして、万物の「いのちをはぐくむ」自然の宝庫であり、美しいふるさと景観を生み出す基本です。この大切な丹波の自然を一人ひとりが、守り、育て、活かしていかなければなりません。

昔から自然とともに生きてきた丹波の人たちは、日常生活とのかかわりを通して自然の摂理を学び、美しさを愛で、森からの贈り物に感謝しながら、こころ豊かに丹波の地域文化をはぐくんできました。

21世紀の成熟社会を迎えるにあたり、多くの人々が、丹波の森で学び、働き、遊び、交流し、森の文化をつくる<sup>ふるさと</sup>丹波づくりの担い手となることが望まれます。

丹波の自然は多くの特産物や特産品を生みだし、農林業や商工業を中心とした産業をはぐくんできました。

今後は、丹波の人材や資源を活かすことはもちろんのこと、丹波に吹く時代の風やITなどの新しい視点も入れながら、多様な、魅力ある就労の機会を提供することも必要です。活力ある、他の地域にも開かれた産業づくりなど、丹波らしい「なりわい」をはぐくんで行きたいと考えます。

---

**特産物** 黒大豆、山の芋、マツタケ、栗、薬草、大納言小豆、茶、なす、丹波材、地酒などの丹波らしい農林産物。

**特産品** 丹波立杭焼、王地山焼、釣具、丹波布、丹波木綿などの地場産品・伝統工芸品。

**IT** インフォメーション・テクノロジー。情報技術。コンピュータやインターネットを支える機器類やソフトウェアなどをさす。

## 1 3つの「環」<sup>わ</sup>

丹波の魅力を創造するためには、丹波のいのち（＝自然）、ひと（＝人間）、なりわい（＝産業）をはぐくむ（「守り」「育て」「活かす」）と同時に、3つの「環」<sup>わ</sup>が持つ意味を考え、行動することが大事です。

### いのちをはぐくむ・自然の環<sup>わ</sup>

「丹波の森」では、動物も植物もあらゆる生き物が、太古の昔から回り続けてきた大きな自然の循環の中で、「いのち」の循環という「環」を先祖から受け継ぎ、子孫に引き継いできました。しかし、近年その一部が損なわれ、野生生物との新たな共生のあり方を問い直す必要が生じています。人間も自然界の一員であることを正しく認識し、自然や人への思いやりのこころを持って行動することが求められています。

### ひとをはぐくむ・人間の環<sup>わ</sup>

また、地域内外の人々が手を携え、つながっていくことが、丹波の森づくりの大きな原動力となります。

一人でできることから始め、立場が違うさまざまな人々が一緒に汗をかくことが継続した丹波<sup>ふるさと</sup>づくりにつながります。こうした活動が地域づくりのネットワークを広げます。

### なりわいをはぐくむ・産業の環<sup>わ</sup>

産業については、それぞれの分野で完結するのではなく、農業や林業、商業、工業などの分野を越え、また、地域を越えて生産・加工・流通過程でつながるなど多様な関係を構築することが丹波の産業の活力にとって重要です。

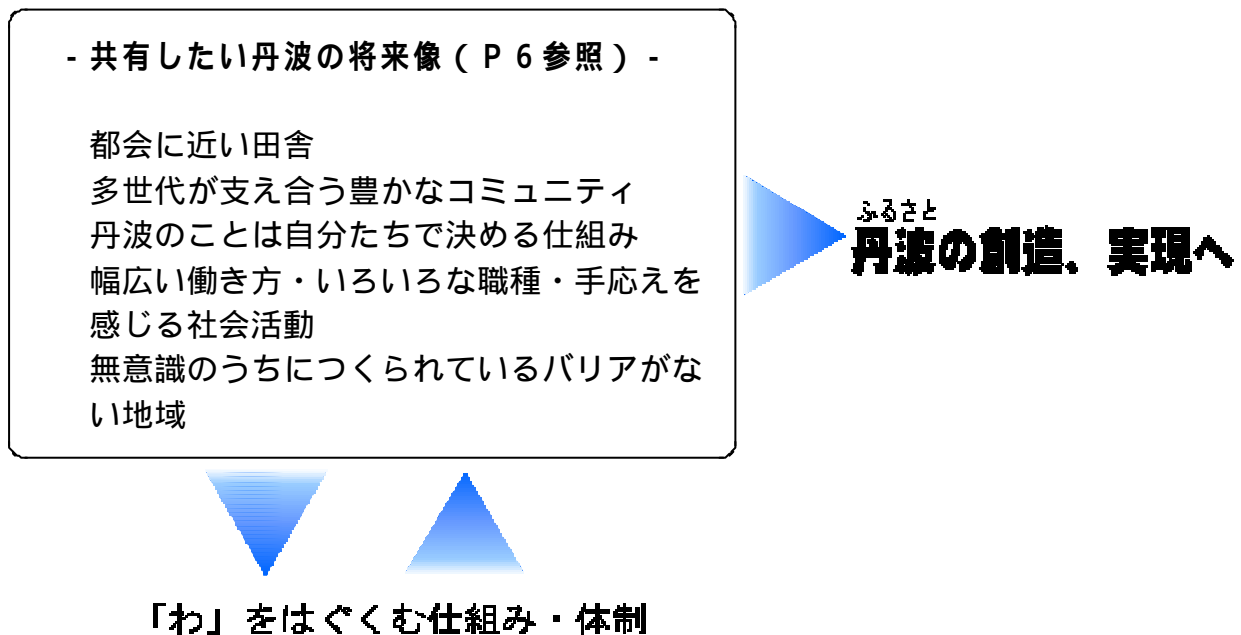
さらに、ネットワークを広げていくためには、ITなどの新しい動きや世界の動きにも目を向けていくことが必要です。

## 2 「わ」をはぐくむ

丹波の魅力を生み出すためには、3つの「<sup>わ</sup>環」が持つ循環や連携について考え、行動することが大事だと提案しました。しかし、さらに重要なことは、これらの「<sup>わ</sup>環」をつなぎ、結び、成長させることです。この『「わ」をはぐくむ』ことが、より魅力的な丹波をはぐくむことにつながると考えます。そのために、多様な活動主体や多彩な取り組みをコーディネートする仕組み・体制が必要となります。

そこで、このための仕組み・体制として、活動主体となる団体、NPO、ボランティア、企業・事業者等をコーディネートする新しい組織や農業を核として異業種間をネットワークする新しい機能などを考え、多様で柔軟な発想のもとに具体化に取り組むことを提案します。

図：丹波の魅力の創造



<sup>わ</sup> 自然の「<sup>わ</sup>環」、人間の「<sup>わ</sup>環」、産業の「<sup>わ</sup>環」が重なる部分。丹波地域の夢ビジョンでは、3つの「<sup>わ</sup>環」が結びつき、それを実現する仕組みをつくり、行動することにより、さらにわを大きく広げ、丹波がはぐくまれることをめざす。「わ」は、「輪」「和」「環」の総称。

**コーディネート** 個人、団体（地域活動団体、実践活動団体、NPO、グループ、趣味の会など）、企業・事業者、行政の活動をつなぎ、結びつけること。仲介。あっせん。

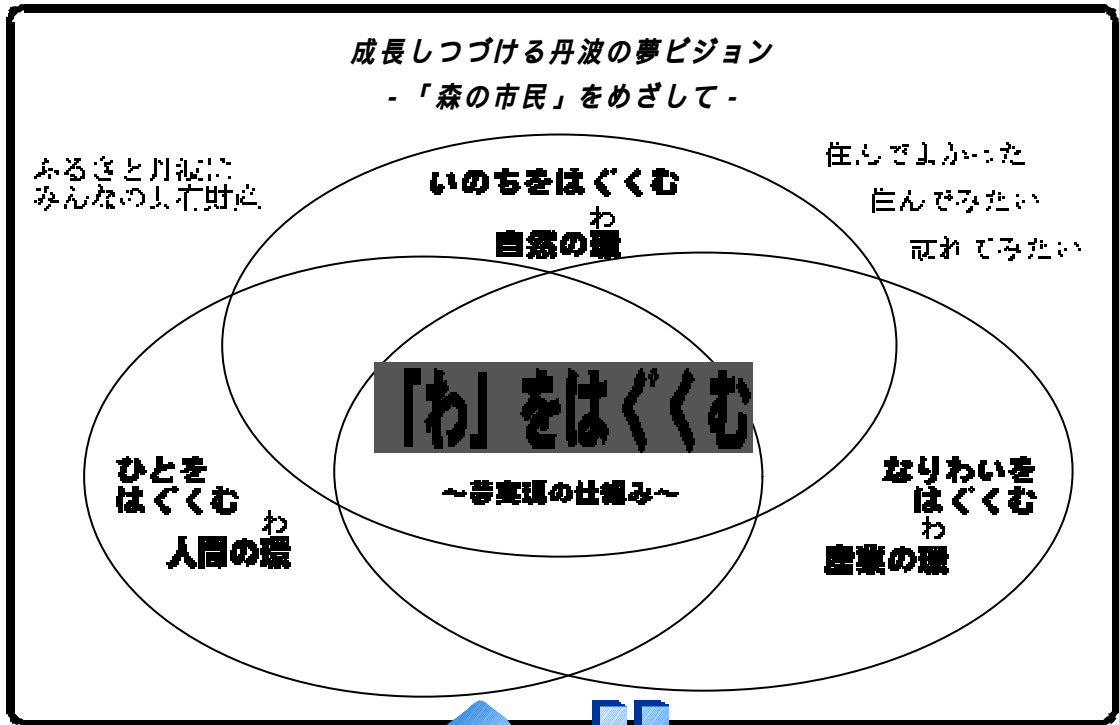
**NPO** 医療、環境、福祉、教育、国際交流などさまざまな分野で活動を行う民間の非営利団体。政府のコントロールを受けないことが基本。

**ボランティア** さまざまな領域や分野の社会的な課題を解決するために自ら進んで自分の能力を役立てる人々またはその行為。

図：丹波をはぐくむ3つの「環」

<みんなで丹波の森>

丹波をはぐくむ



- 丹波に吹く固有の風
- ・ 自然環境の保全
  - ・ 農林業の後継者の育成
  - ・ 調和のとれた街づくり
  - ・ 互助の精神の向上
  - ・ 若者の定着
  - ・ 地域の活性化 など

- 丹波に吹く時代の風
- ・ 住民が主役
  - ・ みんなが安全、安心に暮らせる社会
  - ・ IT（情報技術）を使いこなす社会
  - ・ 環境優先のライフスタイル
  - ・ 心身ともに健康がすべての源

## 第3章 夢実現に向けて

丹波の森夢会議でみなさんからいただいた意見を集約し、丹波の魅力を創造する取組提案例をとりまとめました。これらはほんの一部ですが、実践に向けての大きなヒントになると考えます。

### 1 いのちをはぐくむ・自然の「環」

万物のいのちをはぐくむ豊かな「丹波の森」を守り、引き継ぎ、自然との共生のもとに、安心・快適に暮らせる丹波づくりをめざしましょう。

#### 丹波の自然をはぐくむ水

すべての生き物の「いのち」をはぐくむ清らかな水は、75%を占める丹波の森林によって保たれ、丹波の森に息吹を受けた水は、3大河川の水系に大いなる恵みと実りをもたらし、やがて、瀬戸内海と日本海に注いでいます。

丹波地域は、日本で一番低い水分れ分水界を有する最上流の地に位置することから、常に下流域に住む人々への影響にも配慮しながら、豊かな水量と清らかな流れを維持する必要があります。

この良質な水と豊かな森にはぐくまれた谷地の水源環境こそが、多様な生き物の生息を保証してきたと言えます。そして、いのちをはぐくむ「丹波の森」を健全な状態で守り、循環させることが、私たちの丹波での生活にとって重要なことです。

---

**丹波の森夢会議** この丹波地域の夢ビジョン「みんなで丹波の森」を丹波の森夢21委員会がとりまとめるにあたり、丹波人、丹波ファンの皆さんの意見を聞くために開催したワークショップ、ヒアリング、アンケート調査の総称。



## 丹波版循環型社会

私たち人間も自然界の一員であることを認識し、等しく森の恩恵を受けていることを謙虚に受け止め、素直に自然から学ぶ姿勢を持つことが必要です。それは自らの「いのち」の尊厳にかかわることであり、すべての生き物の将来の「いのち」に決定的な影響を与えかねないからです。

しかし、そのいのちをはぐくむ「自然の環」が壊れようとしています。また、丹波人だけでは森を守ることができないような事態にもなっています。

豊かな「丹波の森」を守るためには、「森の市民」として、自然と共に生き、丹波がいつまでも丹波であり続けることを考え、環境に適合したライフスタイルや丹波版循環型社会の実現をめざさなければなりません。丹波の自然を知り、自らが積極的に、仕組みづくりやルールづくりに参加し、行動することが、「いのちをはぐくむ」ことの意味を再確認することになるのではないのでしょうか。

丹波をすっぽりとやさしく包む丹波霧のように、「丹波の森」がすべての「いのちをはぐくんでいる」ことを認識してほしいのです。

---

**循環型社会** 地域で排出される廃棄物を最小限にとどめ、排出された廃棄物を資源として再利用していく社会。生ゴミの有機農業への活用など。

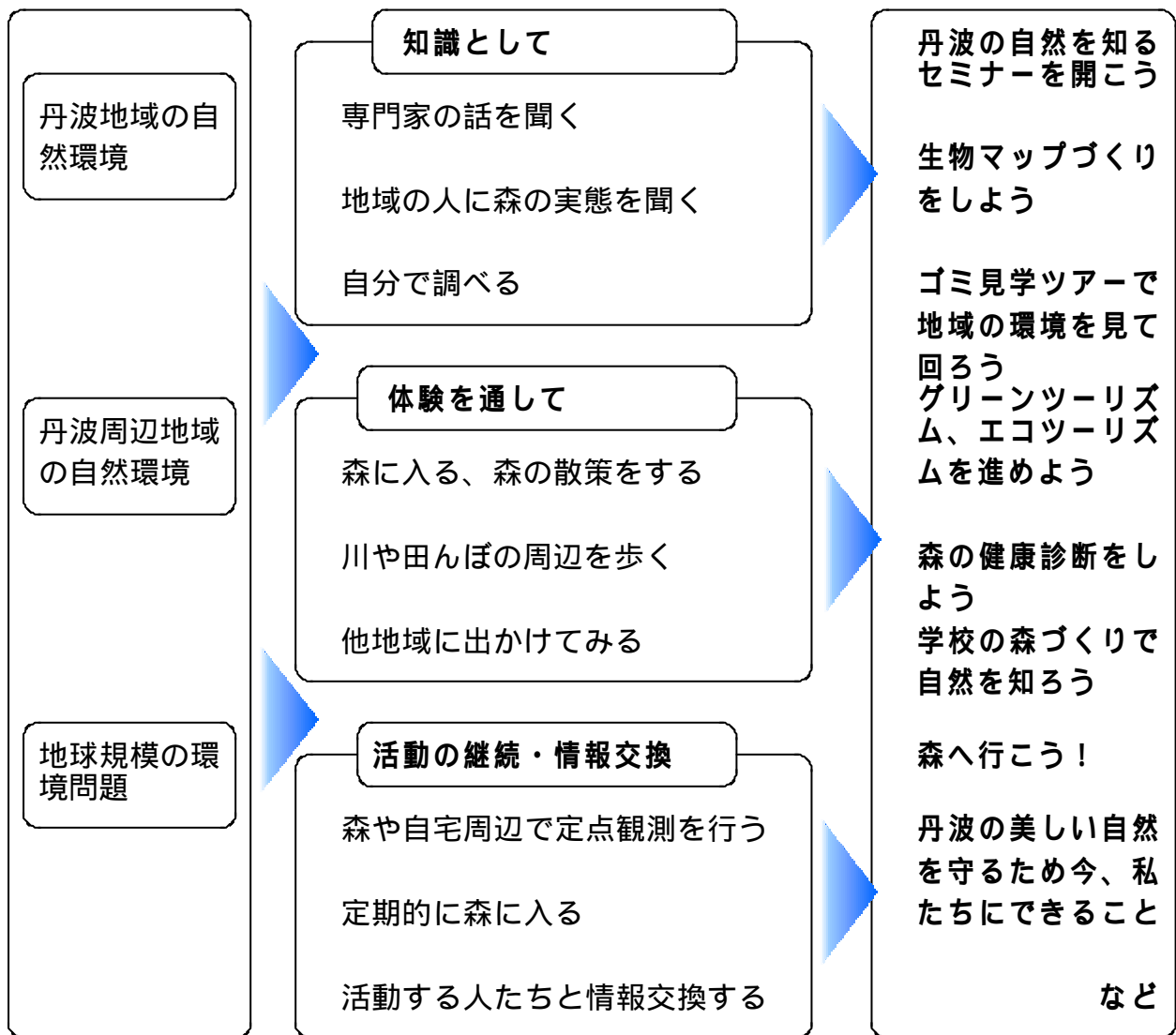


## 実現に向けて

### アクション1 自然環境を知ろう

「何が絶滅の危機に瀕しているのか」、「何を守らなければならないのか」、「丹波は、他の地域とつながる3大河川の源流域である」といった丹波の自然環境を知ることから始めましょう。

【何を「知る」のか】      【どんなことをするのか】      【具体的な取り組み提案例】



定点観測 決まった位置で連続的に行う気象などの観測

### 丹波の自然を知るセミナーを開こう

丹波内外の人々を対象に、丹波地域の里山、河川などの自然の状況について、学習する機会をつくる。

### 森の健康診断をしよう ( P 3 8 参照 )

### 生物マップづくりをしよう

丹波地域で生息している生物の生息域を把握することを通じて、生き物のいのちの大切さや絶滅の危機に瀕している生物の保護の大切さを考える。

### 丹波の美しい自然を守るため今、私たちにできることを ( P 3 8 参照 )

### 丹波版グリーンツーリズム、エコツーリズムを進めよう

都市住民に、丹波の特産物の種まき、収穫といった農作業を体験してもらったり、丹波の里山のなかで自然観察の体験学習や山林・河川の環境保全活動を行うことなど丹波との交流を通して、自然や環境の大切さを知ってもらう。

### ゴミ見学ツアーで地域の環境を見て回ろう ( P 3 9 参照 )

### 学校の森づくりで自然を知ろう

地元から借りた里山を自然体験林として子どもたちと一緒に整備し、自然とのふれあいのなかで森が友達のたくましい丹波っ子を育てる。自然を学ぶカリキュラムの一つとして位置づけ実施する。

### 森へ行こう！ ( P 3 9 参照 )

#### 丹波で絶滅の危機に瀕している生物

( A ランク：日本版絶滅危惧種に相当するもので丹波に分布 )

動物：ホトケドジョウ、ゲンゴロウ

植物：オグラコウホネ、ヌカボタデ、ヤナギイノ、コズチ、ルリミノキ、クロホサシクサ、ムサシモ 等

カリキュラム 児童・生徒の発達段階に合わせて系統立てた履修課程、教育課程

#### 里山体験で、森の大切さを学ぶ

森に入っただけすがすがしい空気の中で深呼吸すると本当に気持ちがいい。普段は建物の中で働いているせいかな。森に入ると心の洗剤ができるんですね。そんな森とかかわりたくて小学生の息子に誘われて「小学校の森づくり」にボランティアで参加しています。いろんな実のなる木を植えたり、間伐やしば刈りなどの森の手入れをしたりしています。昔から人が程よく手をかけた里山は、人々に多くの恵みを与えてくれましたが、森のことを知れぬほど、地球にならす人間として私たちがしなければいけないこと、避けてはいけないことが増えてくるような気がします。息子「森に入っただけ、たくさんの生き物や植物のことを知ることができたよ。それに、森が水をつくるんだって。森ってすごいだね。」

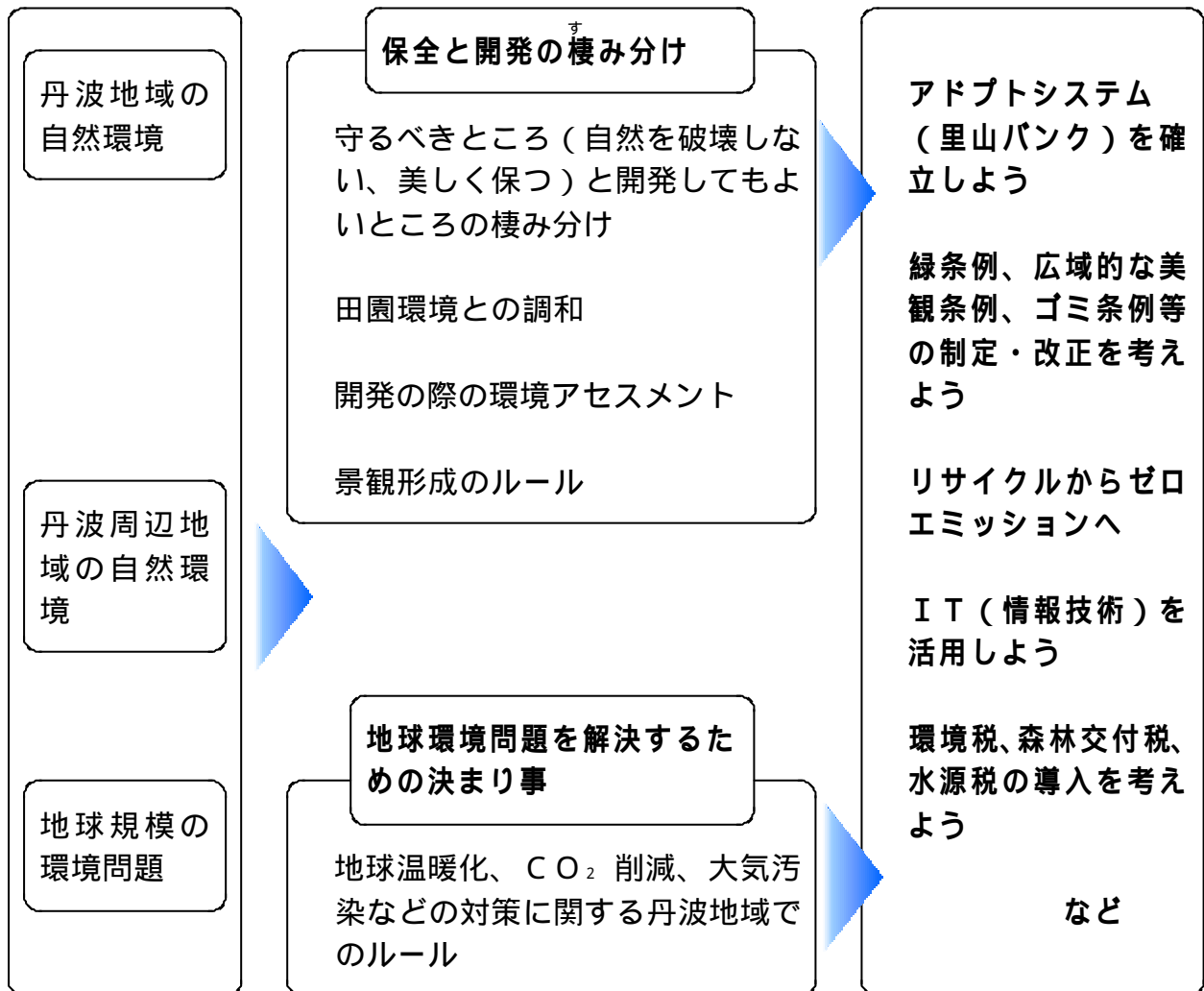
(市島町・男性・40歳代)

## アクション2 ルールを考えよう

自然を守るために、私たちが自然を知ったうえで守るべきモラル・マナーを考えましょう。

【何を「知る」のか】 【どんなことをするのか】

【具体的な取り組み提案例】



**アドプトシステム** 公共施設や道路、河川敷などの管理を行政などの管理者と企業・団体・市民が協定を結んで、清掃などの維持管理を行う制度。アダプションプログラムともいう。

**ゼロエミッション** 廃棄物を再資源化し、ゴミを出さない取り組み。また、そのように製造する技術。

### 緑条例、広域的な美観、ゴミ条例等の制定・改正を考えよう

現在制定されている関係条例にとどまることなく、時代の流れ、地域の必要に応じ新たな条例を制定又は改正する。

### アドプトシステム（里山バンク）を確立しよう（P 60 参照）

#### リサイクルからゼロエミッションへ

マイバッグ運動やコンポストの利用、EM菌の活用を推進し、ゼロエミッションをめざして、廃棄物をリサイクルする以前に、廃棄物の発生を抑える社会づくりに取り組む。

#### IT（情報技術）を活用しよう

ITを活用し、紙を使わない、移動燃料を節約するという生活習慣、業務慣行を創りあげる。

#### 環境税、森林交付税、水源税の導入を考えよう

二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出を抑制するための丹波版の仕組みを考える。また、水源の涵養、酸素供給、大気浄化など丹波の森林の多面的公益的機能の維持・保全のために、森林交付税や水源税の導入を検討する。財源は環境保全などに充てる。

---

コンポスト 家庭の生ゴミなどを原料としてつくる堆肥。

EM菌 環境面では、生ゴミを発酵させ堆肥化を促したり、水をきれいにするなどに役立つ微生物を混ぜた培養液

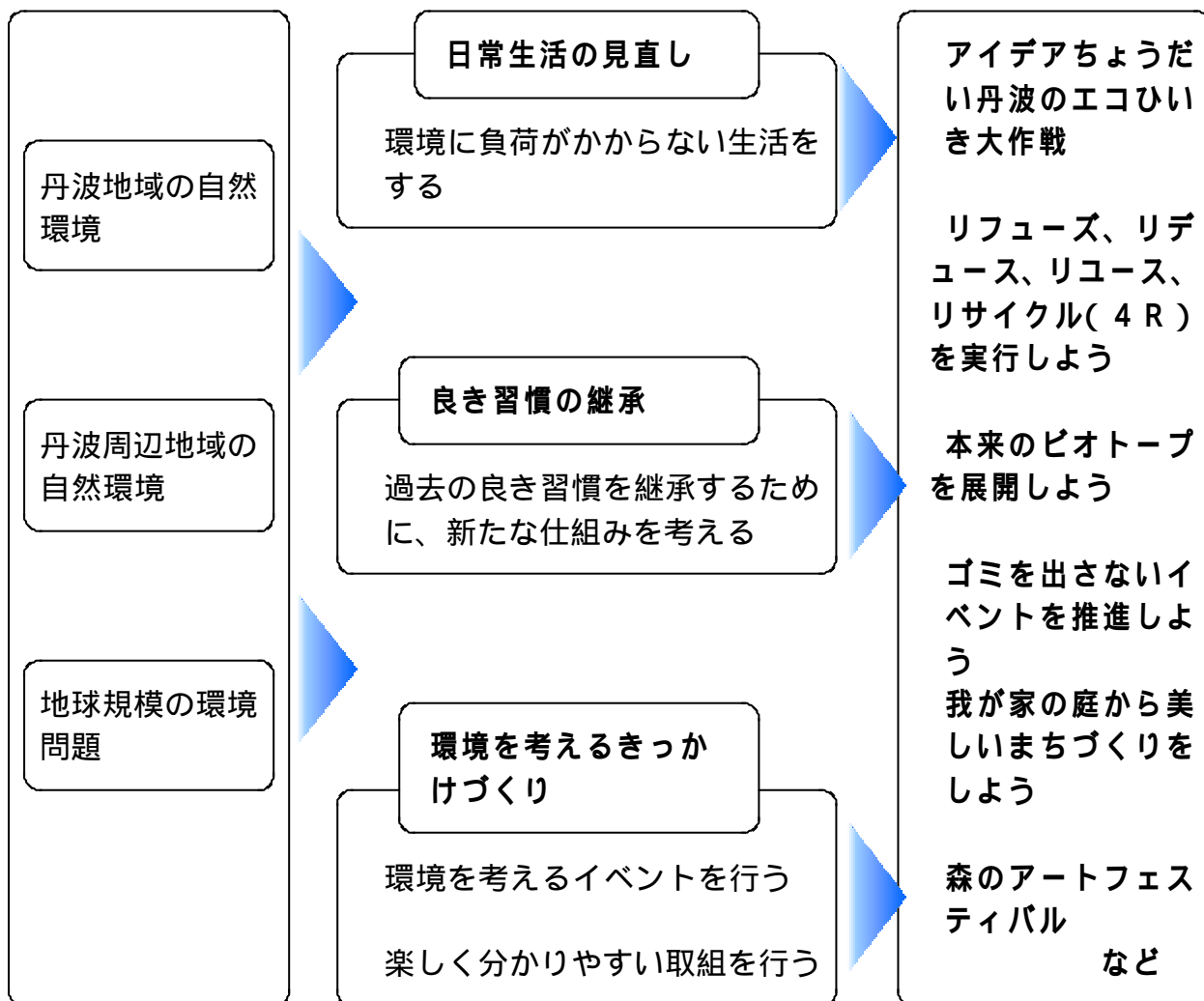
### アクション3 環境にかかわる取り組みをやってみよう

行動しないと始まりません。私たち自身の手で、自然環境を守り、復活させ、新たに創造しましょう。

【何を「知る」のか】

【どんなことをするのか】

【具体的な取り組み提案例】



4 R (リフューズRefuse、リデュースReduce、リユースReuse、リサイクルRecycle)

リフューズ 不要なものを買わない、いりませんと断ること。(例：スーパーでレジ袋をもらわない。)

リデュース いらぬものやゴミを減らす努力をすること。(例：詰め替え用シャンプーを選ぶ。)

リユース 使用済み製品を回収して、形を変えずに再使用すること。(例：瓶ビールを買って、瓶を返す。)

リサイクル 使用済みのものを形を変えて再使用すること。(例：ペットボトルを回収して、服にする。)

ビオトープ 生物が生息する空間(または、そのように人工的・モデル的につくったもの)

## アイデアちょうだい丹波のエコひいき大作戦（P40参照）

### ビオトープを展開しよう

生物生息空間の保全と創造をめざして、自然に配慮した工事の実施や休耕田や学校の敷地の一部を利用してビオトープ公園づくりに取り組む。

### リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル（4R）を実行しよう

人間の行動がいかに関環境に負担をかけているかを身をもって感じさせる機会を積極的につくり、リフューズ、リデュース、リユース、リサイクルの考え方に沿った買い物をするなど、暮らしの中で実践する。

### ゴミを出さないイベントを推進しよう

イベントなどで再使用可能な専用の食器の貸し出しと洗い場の設置、商品の無包装など、ゴミを出さない取り組みを推進する。

### 我が家の庭から美しいまちづくりをしよう

みんなが、家の周りに花を植える、庭の木の手入れをすることで、緑や花で楽しめるまちづくりを進める。

## 森のアートフェスティバル（P40参照）

### わが家の庭を「たんばガーデンに」

趣味と美しいまちづくりを兼ねてガーデニングを楽しんでいます。自然がいっぱいの庭は、「丹波の森」の入り口だと思うんです。わが家では、塀はつくらず、エシャゴやカエデなどの落葉樹やレモン、桃など実のなる果樹を植えて楽しんでいます。鳥たちがやってきて、バードウォッチングも楽しめるんですよ。3年ほど前に丹波悠遊の森（柏原町）で拾って植えたドングリ（クヌギ）は、すでに1メートルほどの木に成長しました。また、四季折々に楽しめる花も植えて、色鮮やかな庭にしています。近所の人や通りがかりの人が、「きれいだねえ」と言ってくれるのがうれしくて……。わたしはそんな庭を「たんばガーデン」と呼んでいるんですけど、どうでしょうか？

（篠山市・女性・50歳代）

## 2 ひとをはぐくむ・人間の「環」

「丹波の森」の中で学び、働き、遊び、交流し、文化を守り、<sup>つ</sup>創る「森の市民」<sup>を</sup>育てましょう。

### みんなが生き生きと暮らすために

地域は人が支えるものです。「森の市民」が丹波<sup>ふるさと</sup>づくりの理念を共有し、丹波を取り巻く社会の変化をいち早くつかみ、守るべきことと変えるべきことを見据えたうえで、柔軟に対応できる仕組みづくりとその担い手づくりが急がれます。

障害者や高齢者、子ども、今まで、地域へのかかわりが希薄だった若者や都市圏に通勤・通学する人々、新住民や外国人住民が積極的に地域社会へ参加できる丹波<sup>ふるさと</sup>にしたいものです。

そして、真の男女共同参画による地域づくりが実現できる場所として名乗りを上げたいものです。

### 次世代を育てる = 生きがいづくり

丹波に若者を定着させ、近隣の都市からの転入者を増やすためには、生活の場や職場の確保が大きな課題となります。また、少子高齢社会、成熟社会においては、大きな収入には結びつかなくても生きがいを持てる活動や、社会的活動に対する評価の仕組みが必要です。

活動の場・機会の提供、人の育成、評価の仕組みを考え、それらを活かし、生き生きと地域で活動することが大切です。丹波の森づくりの基盤として整備された丹波の森公園などの機能を活用するとともに、知識と体験豊かな高齢者などの人材を活用して活発な活動や交流が広がることが求められます。

### コミュニティの継続をめざして

また、昔ながらのコミュニティが残る丹波地域においても、日々の暮らしの中で日役が大変、慣習がわずらわしいなど地域をみんなで支える意識の低下がみられます。

そうした中で、穏やかな顔の見える関係が成り立ち、人々との支え合い、助け合いを基本に、こころ豊かに暮らせるコミュニティの新たな仕組みを考えなければなりません。

---

コミュニティ 地域や学校などの共同社会。個人がかかわれるあるまとまり。共同体。



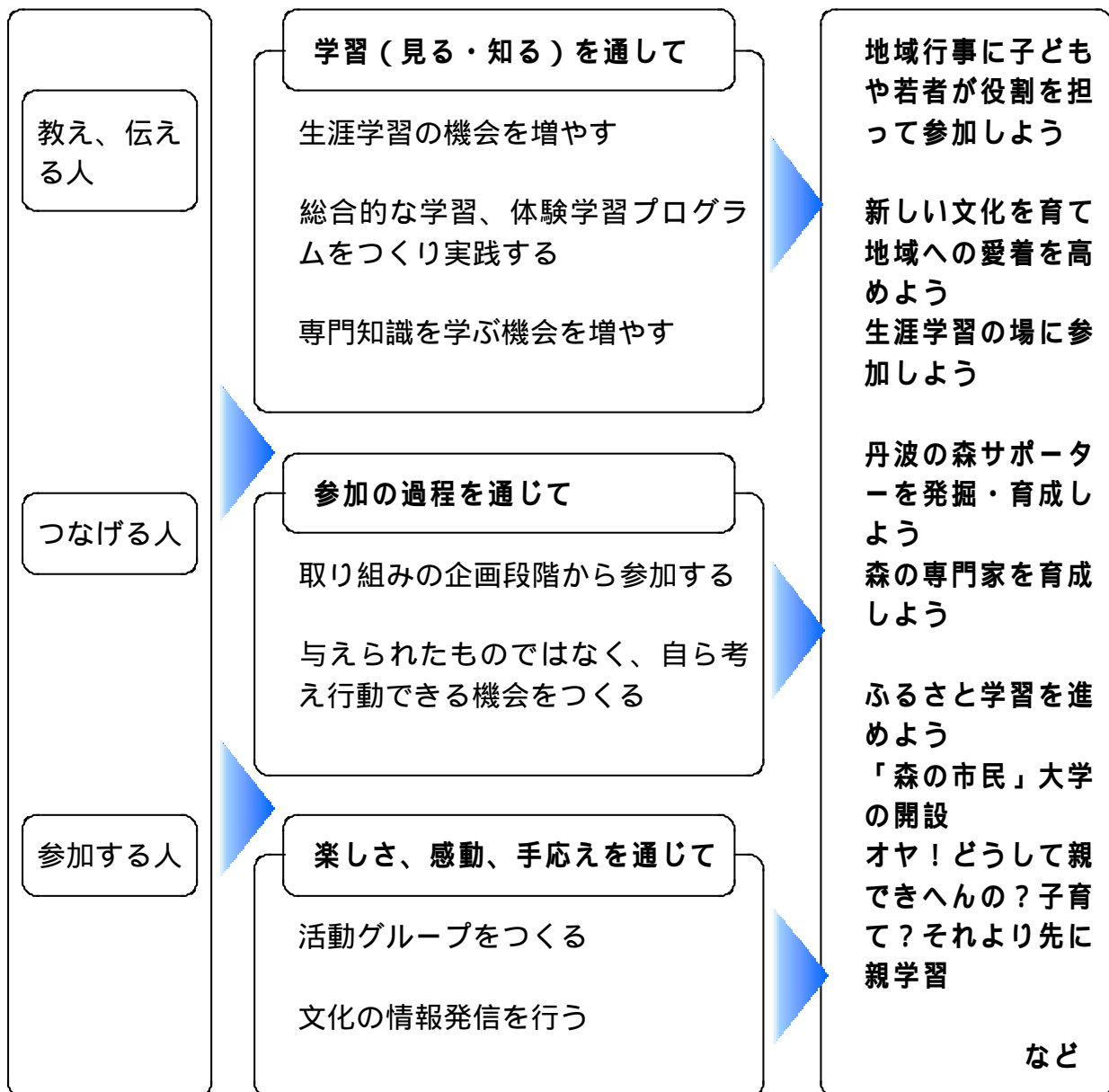


## 実現に向けて

### アクション1 地域を支える人を育てよう

地域・家庭・学校が連携を深め、地域を支える人材を育てましょう。今ある地域の魅力を継承し、新しい魅力を創造する人材を育てましょう。自らも成長するため自分育てを行いましょ。

【どんな人を「育てる」のか】【どんなことをするのか】 【具体的な取り組み提案例】



- ・ **地域行事に子どもや若者が役割を担って参加しよう**  
子どもや若者は祭や清掃作業など地域行事に参加することで、地域への関心や親しみを持つ。その芽をつみ取らないように、子ども・若者の意見を地域行事に取り入れ、みんなで行事の役割を担い、地域づくりの一員だという意識を養う。
- ・ **新しい文化を育て、地域への愛着を高めよう**  
“シューベルティアードたんば”や民話、俳句、パラグライダーなど、丹波の魅力を活かし、新しい文化を育て、地域への愛着・誇りを高める。
- ・ **生涯学習の場に参加しよう**  
学校の空き教室を活用し、高齢者等地元の人材が持っている経験・知識・技を生かすことにより、自分を高める生涯学習の機会をつくり、参加する。
- ・ **丹波の森サポーターを発掘・育成しよう**  
自然観察会や環境づくり活動に参加を呼びかけ、丹波の自然を守ってくれる人々を発掘し、仲間を増やす。
- ・ **森の専門家を育成しよう**  
丹波の自然の保護や自然に配慮した取り組みをする人を増やすため、樹医、薬草・ピオトープのスペシャリスト、有機農業家など、助言・指導できる人材を育てる。
- ・ **ふるさと学習を進めよう（P 41 参照）**
- ・ **「森の市民」大学の開設（P 41 参照）**
- ・ **オヤ！どうしてオヤできへんの？子育て？それより先に親学習（P 42 参照）**

シューベルティアードたんば シューベルトの音楽を核にした丹波の森国際音楽祭。街角や里山、社寺、ホールなどでの演奏会を開催している。シューベルティアードとはシューベルトとその仲間たちという意味。

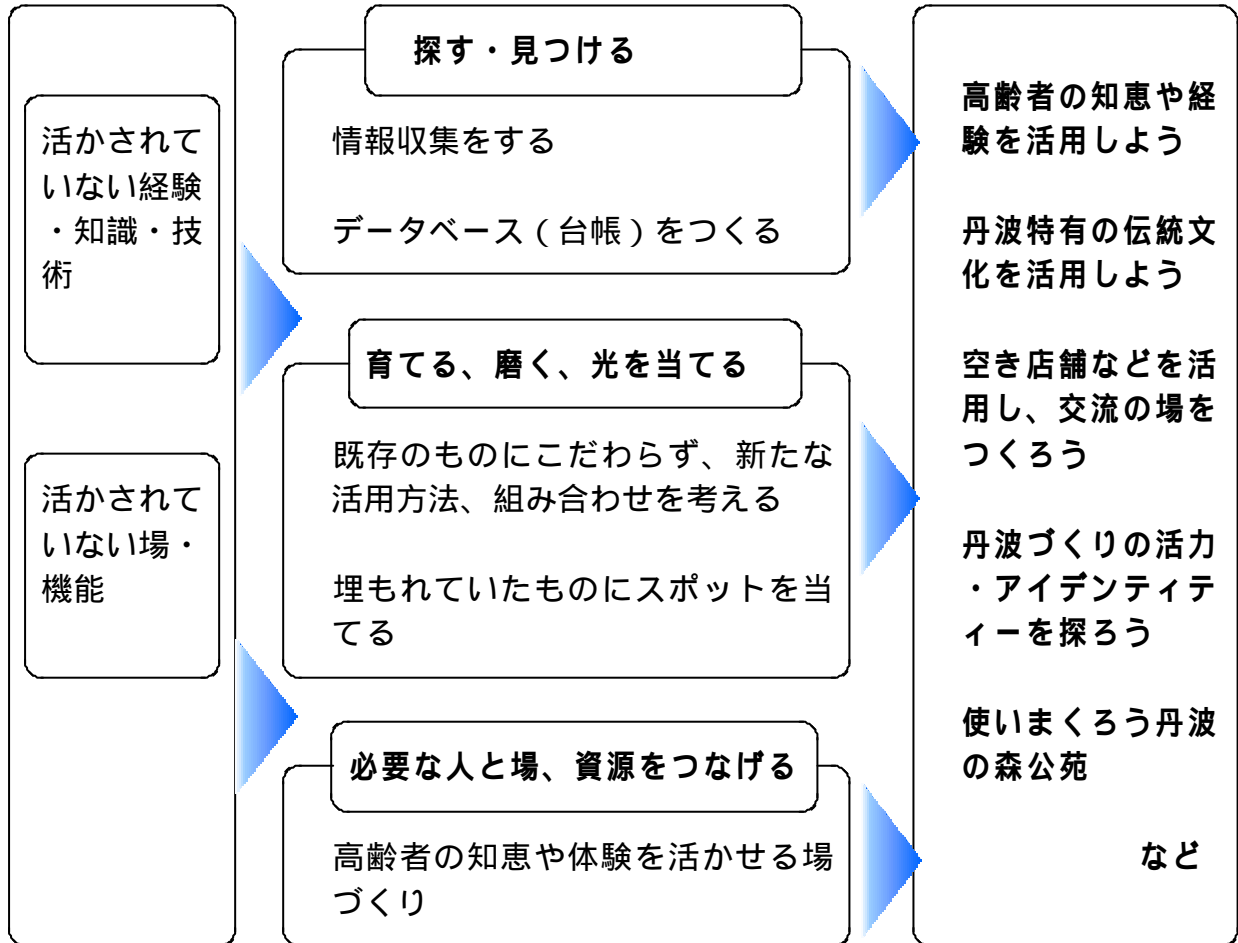
まさに、「森の音楽会」です

都市部から引っ越してきて、一番うれしかったのは、素敵な音楽が気軽に楽しめるということ。毎年開催されている「シューベルティアードたんば」の「街角コンサート」は本当にユニークですね。遠くに出かけなくても、近所の神社やお寺、それに里山でもコンサートが開催されていて、大いに楽しんでいます。まさに、「森の音楽会」。豊かな森に囲まれた丹波ならではのことでないでしょうか。コンサートの運営も手づくりという感じがしていいですね。  
今度は私もお手伝いしたいです。（柏原町・女性・30歳代）

## アクション2 人や場を活かそう

高齢者などの豊かな経験や素晴らしい伝統文化、休耕田・空き店舗などの遊休地・施設などを有効に活用しましょう。

【どんな人を「活かす」のか】【どんなことをするのか】 【具体的な取り組み提案例】



データベース 情報を構成する事実を効率的に集めたもの

アイデンティティー 自分とはこのような人間であるという明確な存在意識。主体性

**高齢者が多い丹波で地域づくりに高齢者の経験や知恵を活用しよう**

豊かな地域づくりのために、学校の地域講師や野菜づくり・祭事・伝統芸能・伝統技術・専門技術の指導者に、経験や知識を持った高齢者を活用する。また、高齢者の知恵や技術を活かす「人材派遣組織」や「コミュニティ・ビジネス」を創設するなど若者も一緒に働ける場をつくる。

**丹波の魅力づくりに丹波特有の伝統文化を活用しよう**

丹波の魅力を再確認し、新たな魅力を創造するため、学校や地域で王地山焼や丹波立杭焼、丹波布や丹波木綿などの丹波特有の伝統文化に触れる機会をつくる。

**空き店舗などを活用し、交流の場をつくろう**

地域内外の人々がいつでも交流できる場として、休耕田・空き店舗・空き教室などの遊休地・施設を活用する。

**丹波づくりの活力・アイデンティティーを探ろう（P 42 参照）**

**使いまわろう丹波の森公苑（P 43 参照）**

---

**コミュニティ・ビジネス** 地域の自立発展をめざして、地域の人々によって設立、所有、管理、運営する有償事業。

**王地山焼** 江戸時代、篠山藩で確立された陶芸。

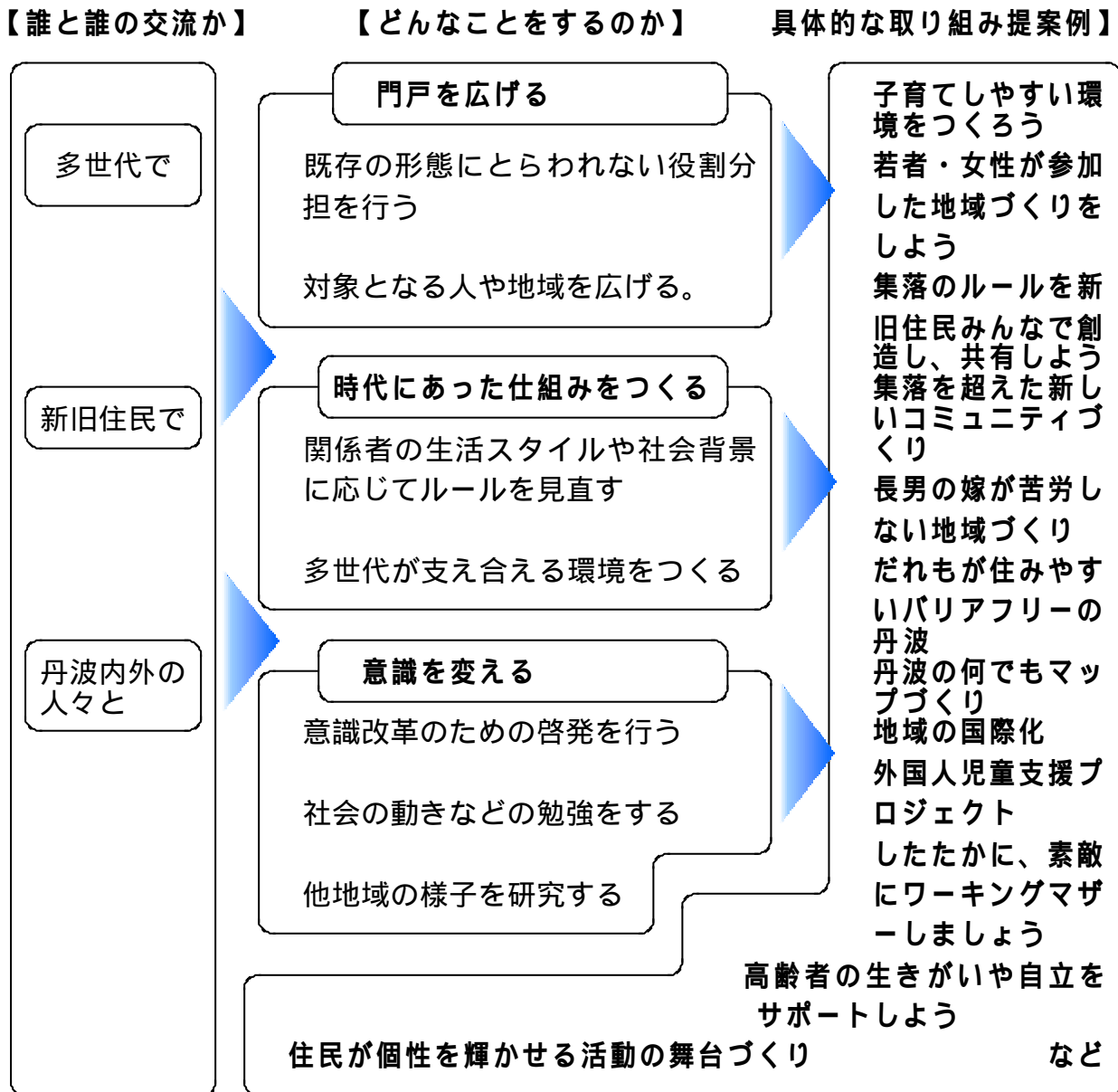
**丹波立杭焼** 日本六古窯（瀬戸、常滑、信楽、備前、越前、立杭）のひとつ。

**丹波布** 青垣町に伝わる手織の綿織物。

**丹波木綿** 篠山市の旧西紀町地域に伝わる綿を手織りした織物。

### アクション3 みんなで交流し、支え合おう

同じ地域に住む者として、お互いの顔が分かり、人々の活動が見えるという地域特性を活かし、世代・性別・新旧住民、外国人住民などの立場を越えて、交流し、支え合うコミュニティを作りましょう。



#### 子育てしやすい環境をつくろう

多世代が近居している地域特性を活かして近くの高齢者が若い父親や母親の子育てを支援したり、地域内の身近なところに子どものたまり場をつくったり、子育ての勉強会・交流会を開くなど、地域で子育てに協力する。

### 若者・女性が参加した地域づくりをしよう

自治会活動に、若者や女性が参加したり、役員になることができるなど、若者や女性が自治会活動へ参画する機会を保障し、老若男女みんなが知恵を出し合い、地域を支える。

### 集落のルールを新旧住民みんなで作成し、共有しよう

集落のルールや慣習を新旧住民、外国人住民が「みんなが生き生きと暮らせる地域を共に作る」という視点から見直し、みんなで作成するとともに、楽しく長続きする取り組みなどで交流を深めることも企画し、地域のルールを共有する。

### 集落を越えた新しいコミュニティづくり

小・中学校区の空き教室などを活用し、集落以外の人々とスポーツなどを通して交流し、新しいつながりを広める。

### 長男の嫁が苦労しない地域づくり

一部に残る男性中心の地域社会の構造や封建的な地域のあり方を見直し、すべての人が支え合える地域づくりをする。“当たり前”を見直していく。

### だれもが住みやすいバリアフリーの丹波

「ボランティア体験まつり」などのイベントを通じて、さまざまな立場の人々への理解や地域の現状への考察を深め、行動し、だれもが住みやすい地域にする。

### 丹波のなんでもマップづくり (P 4 3 参照)

### 地域の国際化 (P 4 4 参照)

### 外国人児童支援プロジェクト (P 4 4 参照)

したたかに、素敵にワーキングマザーしましょう (P 4 5 参照)

高齢者の生きがいや自立をサポートしよう (P 4 5 参照)

住民が個性を輝かせる活動の舞台づくり (P 4 6 参照)

ボランティア体験まつり 障害者や高齢者の立場に立った体験を通して、ボランティアそのものに対する理解を深め、ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけるイベント。

### いつかはみんなが通る道

今、給食配達ボランティアをしています。週に1回ですが、充実しています。自分のしたことによって、誰かが笑顔になるというのは嬉しいものです。この前、娘が学校で「車いす体験」をしたと言っていました。実際乗ってみると、大変さが分かったようで、「普段歩いているときには気がつかなかったけど、通りにくいところが意外と多かった。」と言っていました。  
「いつかはみんなが通る道」なんていいますけど、私もいつか車いすが必要になるかもしれない、杖をつく日が来るかもしれない、そういう日で考えられるようになったと思います。

(春日町・女性・40歳代)

### 3 なりわいをはぐくむ・産業の「環」

「丹波の森」の恵みが生かされ、みんなが生き活きと働ける産業を創造しましょう。

#### なりわいを支える農林産品

自然とのかかわりの中で、なりわいをはぐくんできた丹波は、その恵みを受けたさまざまな農林産品の宝庫です。また、丹波立杭焼、釣具などの伝統産業・地場産業も息づいてきました。この丹波ではぐくまれてきた特産物や特産品を活用し、農林業や商工業を中心に日々の暮らしを紡いできました。

#### 産業構造の変化

しかし、若者の都市への流出、一方では都市部や外国からの移住などの影響を受けて、丹波の産業構造が変化し、大きな転換期を迎えています。

そこで、自然豊かで、都市に近いという特性を活かした産業の創造が求められます。安全・安心・信頼の上に成り立った生産者と消費者の顔の見える産業の展開、農林業や商工業の分野を越えたネットワークなど、新しい時代にふさわしい仕組みを大胆な発想ときめ細かな対応でつくっていかねばなりません。

#### 新しい産業・仕組みの創造

そのために、丹波の人材や特産物・特産品などを見直し、さらにそれらが生きる産業づくりや、農林業・商工業以外の新たな産業の創造などが求められます。「丹波の森」の恵みをベースに新しい視点も加えながら、多様な魅力ある就労の機会の提供や、活力のある、都市部にも開かれた産業の創出など、丹波ならではの「なりわい」がはぐくまれることが期待されます。

---

**ネットワーク** 個人やグループなどでの人と人との輪、つながり。交流や相互の情報交換が行われる。

**特産物・特産品** 黒大豆、大納言小豆、なす、山の芋、薬草、立杭焼、王地山焼など

**新たな産業** 健康、IT、体験観光など

**ベース** ものごとに取り組むときによりどころとする土台、基礎、基盤



## 実現に向けて

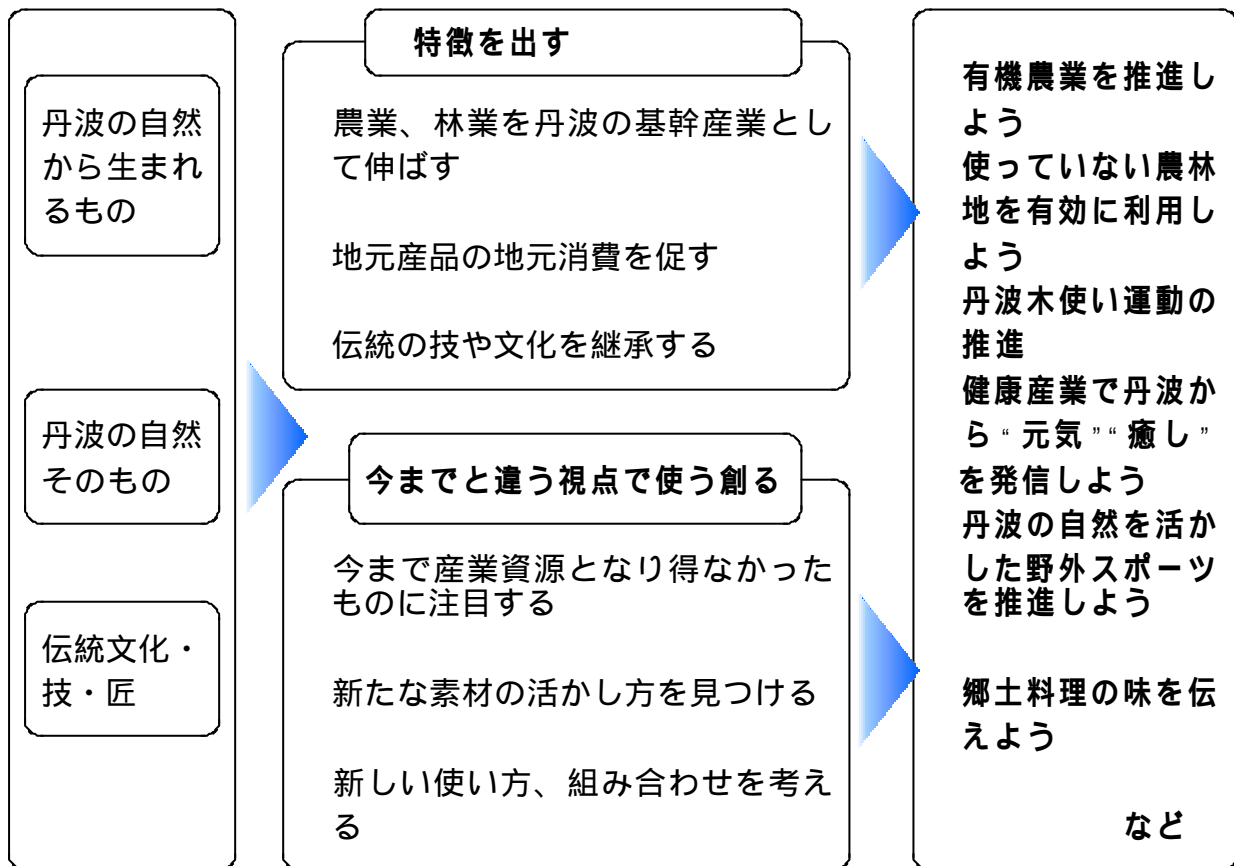
### アクション1 資源や素材を活かそう

丹波黒大豆や丹波大納言小豆・丹波立杭焼・丹波茶・丹波材など丹波の資源、伝統文化、技術を活かした元気な産業づくりに取り組みましょう。

【何を「活かす」のか】

【どんなことをするのか】

【具体的な取組提案例】





### 有機農業を推進しよう

これまで以上に、丹波地域の特色として、安心して食べることができる 有機農産物の生産に取り組む。

### 使っていない農林地を有効に利用しよう

休耕田、山林などの丹波の貴重な財産を遊ばせないために、新規就農者の訓練の場や都市住民の体験農園・貸し農園、森林浴の場として活かす。

### 丹波木使い運動の推進

学校の机や建築物など公共施設等に、丹波材の活用を進め、木材の需要を増加させ、林業を活性化させるとともに、新たな植林により、二酸化炭素を削減する。

### 健康産業で丹波から、“元気”“癒し”を発信しよう

薬草や黒大豆の効用、東洋医学を取り入れた産業を起こし、豊かな自然と併せて、健康づくりに適した地域としてアピールする。

### 丹波の自然を活かした野外スポーツを推進しよう

ロッククライミング、パラグライダー、ハイキングなど丹波の自然を活用したスポーツの発展に取り組む。

### 郷土料理の味を伝えよう

丹波の特産物を使った郷土料理や家庭料理の味を、子どもたちが体験する機会をつくり、伝えていく。

---

**ロッククライミング** 岩山を、安全ロープをつけ、岩につかまりながらする登山。  
**パラグライダー** パラシュートを、山の斜面から飛び出せるように改良し、エンジンを使わずに風や上昇気流に乗って空を飛ぶスポーツ。

#### 丹波の味を子どもたちに

「文化は食から」というのが私の持論、子どもが生まれ、探検や食品に気を配るようになってから特にそう思うようになりました。だから、私は子どもたちに「ふるさと丹波」を伝えるため、母や祖母から教わって丹波の食材を使ったお料理に挑戦しています。黒大豆、粟、山の芋、ふるさとの食材でつくった母の味を伝えることは、どこかで丹波の森づくりにつながるのではないかと思います。材料の野菜や卵は、朝市で買います。新鮮でおいしいし、何より三産している人の顔が見えるのが安心でいいですね。こういう朝市も川波の大切な資源なんですよ。

(氷上町・女性・50歳代)

## アクション2 新しいなりわいを創ろう

丹波の人材や特産物などの資源を活かし、全国的に発信できる産業づくりや地域に還元できる産業づくりに取り組みましょう。

### 【どんな分野か】

少子高齢化  
に対応

IT革命に  
対応

環境問題に  
対応

### 【どんなことをするのか】

#### 新しい働き方

様々な働くかたちをつくる。  
ITなどの新しい技術を採用する。

#### 新しい仕組みと働く場

新しいなりわいを支える、循環させる新しい仕組みをつくる。  
社会貢献や地域に役立っている、という手応えを感じる仕事をする。  
若者、高齢者が働ける場をつくる。

#### 新しい分野

丹波にない分野の産業を起こす。

### 【具体的な取り組み提案例】

みんなで楽しく  
コミュニティ・ビジネス  
介護・子育てサポートなどのコミュニティビジネス  
ITを活用したSOHO、e-コマース丹波版を支援しよう  
丹波ブランドで丹波を全国に知ってもらおう  
エコビジネスをつくろう  
健康のまち（元気回復のまち）丹波体験学習的のホームステイができる農家民宿の経営  
いきいきAgri  
いけいけTANBA  
など

- 
- コミュニティ・ビジネス** 地域の自立発展をめざして、地域の人々によって設立、所有、管理、運営する有償事業。
- SOHO** Small Office Home Office。パソコンと通信回線を使うなどして、自宅や小規模な事務所で仕事をする。
- e-コマース** eメールやインターネットなどの電子通信を使った仕事や知的活動
- ブランド** さまざまな商品売り出すときに使用する商標
- エコビジネス** 環境保全に貢献する商品・サービスを提供する仕事・事業

### みんなで楽しくコミュニティ・ビジネス（P46参照）

#### 介護・子育てサポートなどのコミュニティ・ビジネスを立ち上げよう

子育てや介護をしながら働き続けられる環境をつくるため、高齢者の介護や子育てサポートのコミュニティ・ビジネスを立ち上げる。得た利益を地域に何らかの形で還元する。

#### ITを活用したSOHO、e-コマース丹波版を支援しよう

自然に恵まれ、地価が安く事務所の開設が比較的容易な丹波で、狭いスペースでもでき、在宅ワークも可能にする情報技術を活用した働く場をつくる。

#### 丹波ブランドで丹波を全国に知ってもらおう

丹波地域が一体となって、統一の名称・マーク・基準をつくり、特産物・特産品を丹波ブランドとして丹波内外に売り出す。

#### エコビジネスをつくろう

菜の花油やひまわり油、間伐材などの森林資源などを利用したバイオマス発電、林業廃材を利用した木炭づくりなどに取り組む。

### 健康のまち（元気回復のまち）丹波（P47参照）

#### 体験学習的ホームステイできる農家民宿の経営（P47参照）

#### いきいきA<sup>あくり</sup>gr<sup>たんば</sup>i いけいけTANBA（P48参照）

---

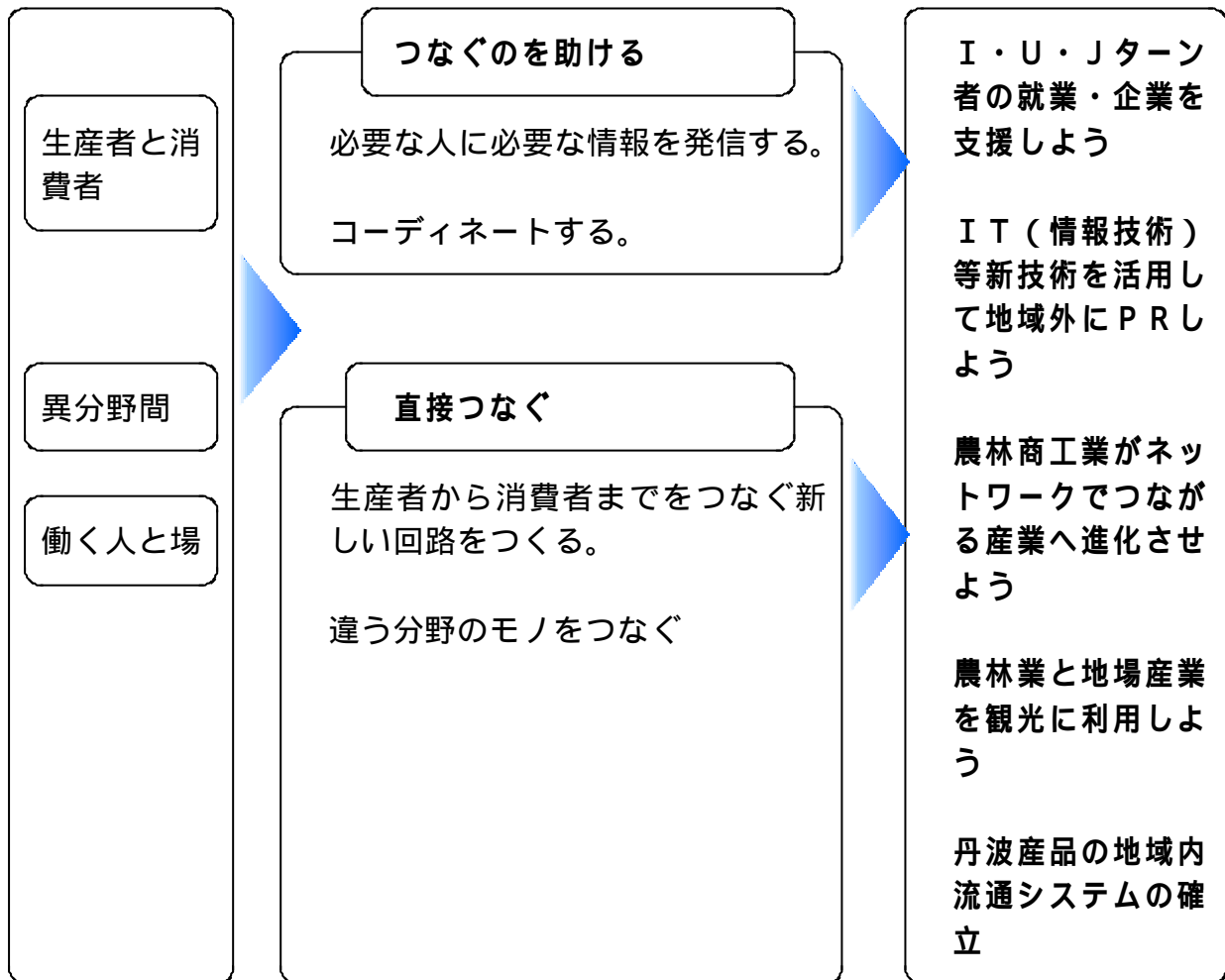
バイオマス エネルギーに利用される木材などの生物資源。  
木炭 消臭、浄水、防虫にも効果がある。

### アクション3 さまざまなひと、モノ、コトをつなごう

農業、林業、商業、工業の分野をネットワークし、また、生産者と消費者が直結した産業づくりに取り組みましょう。

【何を「つなぐ」のか】 【どんなことをするのか】

【具体的な取り組み提案例】



I・U・Jターン 人々が住む場所を移動することを以下の3つに分類できる。

- Iターン 今まで住んだことがない地域に移り住むこと（例：大阪 丹波）
- Uターン いったん都市部にてしてから地元に帰ること（例：丹波 大阪 丹波）
- Jターン 地元に帰る途中の中間地域で定住すること（例：丹波 大阪 三田）

### **I・U・Jターン者の就業・起業を支援しよう**

丹波へ移住してきた人、都市部から丹波へ帰ってきた人などが、地域で働けるよう、新規就業や事業を起こすための研修・訓練の場づくりを支援する。

### **IT（情報技術）等新技术を活用して、地域内外にPRしよう**

インターネットや携帯電話を活用して、丹波内にとどまらず、丹波外に丹波の特産物など地域の魅力を発信する。

### **農林商工業がネットワークでつながる産業へ進化させよう**

農林業や商工業の分野、生産・流通・消費の枠を超えた情報のネットワークを形成し、それぞれの意見を生産・販売に反映させることにより、あらたな丹波の産業の可能性を発揮する。

物の動きの例：酒米生産 酒造 酒販 広告 消費者（流通）

情報の動きの例：酒米生産 酒造 酒販 広告 消費者（意見）

### **農林業と地場産業を観光に利用しよう**

例えば、立杭焼と酒を組み合わせた「酒蔵見学・試飲と立杭焼の陶芸・創作」や黒大豆を利用したお菓子づくりなど丹波の資源や素材の活用により、気軽にできる観光コースを設定し、単に「見る」だけでなく、丹波を「体験・体感」してもらおう業者間ネットワークを構築するとともに、新たな観光をめざす。

### **丹波産品の地域内流通システムの確立**

地場生産・地場消費を推進するため、小売店で地元産の商品を販売するなど、地元の人が、地元で採れたものを消費できるようにする。

---

インターネット 得たい情報を、パソコンと電話回線などの通信網をつかって、画面やスピーカーに映像や文字、音で情報をとり出す。携帯電話でできるものもある。

## 夢実現のための具体的取り組み提案例

丹波の森夢会議において、丹波の森夢21委員会が開いたワークショップでいただいた提案の中から実現性が高いと考えられるものを上げてみました。

### いのちをはぐくむ・自然の環<sup>わ</sup> アクション1 自然環境を知ろう

提 案	<b>森の健康診断をしよう</b> 一部始まっています (P16参照)
ね ら い	住民参加で「丹波の森」の実態を調査することにより住民自らが丹波の自然の現状を実感するとともに、今後の保全と活用策を共に考え、実践する
具体的取り組み	自然保護・環境づくりの活動実践者を増やすため、調査隊を編成する ・森のホタル調査隊、水辺のビオトープ調査隊、マツの健康調査隊、森のSOS調査隊など 実態調査、データ収集・分析・現況把握 保全と活用の取り組み、仕組みを検討・実践
課 題	保全と活用の合意づくりと実践 保全と活用のための人材、資金の確保

### いのちをはぐくむ・自然の環<sup>わ</sup> アクション1 自然環境を知ろう

提 案	<b>丹波の美しい自然を守るため今、私たちにできること</b> ~これからの丹波での環境学習のあり方を考えよう~ (P16参照)
ね ら い	学校や地域での身近な自然を活かした環境学習を広げ、丹波を愛する子どもをはぐくんでいく
具体的取り組み	学校と地域の連携 ・丹波地域の250の環境団体が学校に入っていく 学校は文化の拠点でもあるべき。地域住民も学校に入っていく。環境学習の地域講師 大人の役割 ・大人自身がいろいろな体験をする。そして、子どもたちとともに体験し、美しいもの、不思議なものへの感動を分かち合う メダカを親子で一緒に育てる ・子どもの研究活動に大人の持っている能力、知識を提供する ・自然の中のちょっとした変化に目を向ける(水が濁った、生き物が少なくなった等)
課 題	家庭、学校、地域がつながっていく仕組み

**ワークショップ** さまざまな課題解決をテーマに参加者一人ひとりが対等な立場で話し合うこと。参加型学習と呼ばれている

いのちをはぐくむ・自然の環<sup>わ</sup> アクション1 自然環境を知ろう

提 案	<b>森へ行こう！</b> ( P 1 6 参 照 )
ね ら い	荒廃している里山に入ることにより、自然を守ることの大切さを知り、自然に親しみ、子どもにとって里山を身近なものにし、丹波の森を守っていく
具体的取り組み	学校の総合的な学習や地域行事として取り組む 登山や山歩き、アジトや秘密基地を創り、里山を楽しむ 里山に植林をする(クヌギ・カエデ等)
課 題	里山に入りやすい道の整備(遊歩道を設ける) 里山がある地域や所有者の協力

いのちをはぐくむ・自然の環<sup>わ</sup> アクション1 自然環境を知ろう

提 案	<b>ゴミ見学ツアーで地域の環境を見て回ろう</b> ( P 1 6 参 照 )
ね ら い	ゴミの分別の必要性だけを説いても、環境問題の実感がわからない。実際にゴミ処理場に行き、「見て、聞いて、知る」ことにより、行動につなげる
具体的取り組み	学校の参観日(土・日)を利用し、教師と親子でゴミ処理場を見学、体験する メーカー(企業)など、商品を作り出す人もゴミ問題を知るために、体験ツアーに参加する
課 題	参観日(土・日曜日)にツアーを実施できるよう、ゴミ処理場を土・日に一般公開する(行政の協力) ツアーの結果を報告する機会を確保 行政がゴミ問題のビジョンを定める

いのちをはぐくむ・自然の環<sup>わ</sup> アクション3 環境にかかわる取組をしてみよう

提 案	<b>アイデアちょうだい、丹波のエコひいき大作戦</b> ( P 2 0 参照 )
ね ら い	環境問題に取り組むアイデアを集め、環境に配慮したライフスタイルづくりや環境適合型社会実現のためにできることから実行する
具体的取り組み	リサイクルできるものを買うルールづくり ゴミの野焼きをやめる 「菜の花プロジェクト」や風力発電のクリーンエネルギーの取り組みを行政、夢会議参加者で進める エコビジネスとして「木炭」を見直す ・木炭を防虫剤、入浴、脱臭剤に活用する ・木炭バスを走らせて観光に活かす ゴミを減らす工夫づくり
課 題	住民・企業の意識の改革と活動への参画 住民と行政との役割分担 実施に向けた合意づくり

いのちをはぐくむ・自然の環<sup>わ</sup> アクション3 環境にかかわる取組をしてみよう

提 案	<b>森のアートフェスティバル</b> ( P 2 0 参照 )
ね ら い	里山に対する子どもの関心を引くきっかけとして、遊びを通して里山に親しんでもらう
具体的取り組み	里山で木を切ったり枝を集めたりして、イーゼルなど、好きなものを創る 里山は楽しい表現世界であることを子どもに体験させる 森のアートフェスティバル実行委員会の設置
課 題	木のおもちゃづくりや竹細工ができるボランティアの協力 子どもが安全に入れるような里山の整備 里山を提供してくれる里山所有者の確保



### ひとはぐくむ・人間の環<sup>わ</sup> アクション1 地域を支える人を育てよう

提 案	<b>ふるさと学習を進めよう</b> (P24参照)
ね ら い	「森の市民」になるためには、ふるさとをよく知ることが必要であり、小中学校の授業に「ふるさと学習」を取り入れ、ふるさとに愛着を持つ子どもを育てる
具体的取り組み	平成14年度から完全学校週5日制が実施される。それに伴う新しい教育課程による「総合的な学習の時間」などに地域の伝統産業・伝統文化、自然、人材等の教育資源を取り入れる 地域の人に講師として「人材バンク」に登録してもらう
課 題	「丹波の森構想」・「夢ビジョン」を踏まえた取り組みの意識づけ 学校と地域連絡会などの組織づくり

### ひとをはぐくむ・人間の環<sup>わ</sup> アクション1 地域を支える人を育てよう

提 案	<b>「森の市民」大学の開設</b> (P24参照)
ね ら い	地域住民に多様なキャンパスライフを提供し、さまざまな学習プログラムが選択でき、充実した生涯学習の機会を得られるようにする 座学から研究活動主体のカリキュラムにし、実践することを目的とする
具体的取り組み	森の市民大学開設準備委員会を設置 環境、文化など身近な分野の講座を開講する 地域講師の発掘、登録、活用
課 題	丹波の森大学や丹波の森公苑、公民館、民間研修と連携、互換システムの検討 大学との協力体制の確立 運営に参加するボランティアスタッフの確保 講座の運営資金、事務局の確保

ひとをはぐくむ・人間の環 <sup>わ</sup> アクション1 地域を支える人を育てよう

提 案	<p>～オヤ！どうして親できへんの？ 子育て？それより先に親学習～ (P24参照)</p>
ね ら い	<p>少子化、核家族化の中で、子どもが自然や子ども同志や地域で遊び、育てられることが少なくなっている。地域での子育て、親育てを考える</p>
具体的取り組み	<p>残された自然を活用して、子どもの遊べる場所にしていく 伝統行事、地域行事に参加して丹波のよさを見直し伝えていく 親子、3世代、地域と一緒にできる体験を考え、実践する</p>
課 題	<p>家庭、地域、学校の連携による子育て・親育ての推進体制づくり</p>

ひとをはぐくむ・人間の環 <sup>わ</sup> アクション2 人や場を活かそう

提 案	<p>丹波づくりの活力・アイデンティティーを探ろう (P26参照)</p>
ね ら い	<p>丹波にも都市化の波が押し寄せており、生活、文化に影響を与えつつある 丹波の人が、丹波らしさやアイデンティティーを知り、育て、活用する(地元が地元をわかっていない)</p>
具体的取り組み	<p>丹波人が丹波を知り、丹波を愛する ・丹波人が丹波ファンに紹介できるようにする ・「知る」「誇りを持つ」「伝えていく」が大切 ・自分の足で歴史を勉強する。知っている人を探す ・横のつながりを持ち、隣の町も紹介できること 地元の取り組みを広くPRしていく 川、峠、里山の5選、10選で地域情報を発信する 丹波をこころのふるさととして、誇りを持ち、文化などを子どもたちに伝えていく。学校の「総合的な学習」や高齢者の経験、知恵を活用する</p>
課 題	<p>地域や学校でできる「ふるさと学習」の仕組み 丹波全域の取り組みへの広がり 教材、人材、資金の活用と確保</p>

### ひとをはぐくむ・人間の環 アクション2 人や場を活かそう

提 案	<b>使いまくろう 丹波の森公苑</b> ( P 2 6 参照 )
ね ら い	「丹波の森」づくりの拠点である丹波の森公苑を目いっぱい活用し、地域づくり、人づくり、なりわいづくりに活かす
具体的取り組み	<p>キャッチコピー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夢がかなう丹波の森（公苑）</li> <li>・やる気、元気、もりもりセンター</li> </ul> <p>使いまくろう（使い方あれこれ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こうのとりの会の結婚式場（ロジも活用）</li> <li>・地酒パブ（丹波の地酒が楽しめる）</li> <li>・里山活用（炭焼き、シイタケ栽培、イカダづくり）</li> <li>・野外コンサート</li> <li>・ルールなしキャンプ</li> </ul> <p>売り込み方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹波カードの発行（固定客、リピーターの確保）</li> <li>・招待イベントの開催（利用ボランティアが主催）</li> <li>・営業活動を展開（口コミ、しゃべり人を作る）</li> <li>・住民企画による事業の実施（何でもしなはれ日）</li> <li>・観光ツアーと連携（JRと連絡したバスの運行）</li> <li>・宣伝活動の実施（ローソン等にチラシ）</li> </ul>
課 題	<p>公設民営のルールづくり</p> <p>運営スタッフの確保（ボランティア等を含む）</p> <p>関係者、機関とのネットワーク</p>

### ひとをはぐくむ・人間の環 アクション3 みんなで交流し、支え合おう

提 案	<b>丹波の何でもマップづくり</b> ( まずは車いすマップから始めています ) ( P 2 8 参照 )
ね ら い	買い物、福祉、交流、人材のマップをつくり、丹波のセールスポイント、ウィークポイントを知り、人の暮らしや今後のまちづくりに活用する
具体的取り組み	<p>住民参加の車いすマップづくり、車いすお出かけ隊を編成</p> <p>小学校区毎に丹波全域で実施</p> <p>公共施設のバリアフリーの取り組み推進</p> <p>必要な人に配布</p>
課 題	必要なマップを速やかにつくる体制づくり(協力者や資金の確保など)

ひとをはぐくむ・人間の環 <sup>わ</sup> アクション3 みんなで交流し、支え合おう

提 案	<b>地域の国際化</b> (P28参照)
ね ら い	丹波地域において増加している外国人住民も、同じ地域に住む住民として、さまざまな情報が得られ、楽しく暮らせる環境をつくる
具体的取り組み	外国人住民が必要とする情報の伝達システムの確立 (行政の窓口、自治会の防災対策など暮らしへの対応) 外国人住民の意見を反映できるシステムの確立 (外国人住民会議) 外国人住民の地域生活をスムーズにする相互理解 (日本に來られた背景などを知る) 選挙権など参政権について意見を聞く 公共施設などの外国語表記、ガイドするチラシの作成
課 題	国際理解を進めている団体と行政との連携、人的・物的な支援体制

ひとをはぐくむ・人間の環 <sup>わ</sup> アクション3 みんなで交流し、支え合おう

提 案	<b>外国人児童支援プロジェクト</b> (P28参照)
ね ら い	丹波各地域に暮らしている外国人児童の学校や地域での生活を各市町の国際交流協会、国際交流グループ、学校、PTA、地域住民が協力し、サポートをしていく
具体的取り組み	日本語のサポート 学習のサポート 母国語のサポート 悩みごと相談 など
課 題	各市町の国際交流協会、国際交流グループ、丹波日本語ボランティアネットワーク、篠山国際理解センターと住民等を巻き込んだ支援体制

### ひとをはぐくむ・人間の環 わ アクション3 みんなで交流し、支え合おう

提 案	<b>したたかに、素敵にワーキングマザーしましょう</b> (P28参照)
ね ら い	女性の多様な生き方、多様な選択肢が認められる地域づくり、認め合える受け皿をつくる <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事をしたい人は仕事をする</li> <li>・家庭で妻として母としてしっかりやっていきたい人はそうする</li> <li>・介護やボランティアしたい人は介護やボランティアをする</li> </ul> 女性が、昔のしがらみにとらわれることなく、人間として自分の人生を選択できる地域をまず丹波からつくる。
具体的取り組み	育児、仕事、生きがいをサポートするネットワークをつくる
課 題	同じ悩みを持つ女性が自由に話せる出会い、つながる場を確保する 子育て、仕事、生きがいづくりの取組みへの支援システム

### ひとをはぐくむ・人間の環 わ アクション3 交流し、支え合おう

提 案	<b>高齢者の生きがいや自立をサポートしよう</b> (P28参照)
ね ら い	地域の元気な高齢者を孤独にさせないため、地域の人々と子どもたちとのふれあいの場をつくり、高齢者の生きがいや自立をサポートする。
具体的取り組み	地域で支え合う、交流する宅老所の設置
課 題	地域のさまざまな人々が参加、支援できる仕組み 地域で自主運営できる仕組みづくり

ひとをはぐくむ・人間の環 アクション3 みんなで交流し、支え合おう

提 案	<b>住民が個性を輝かせる活動の舞台づくり</b> (P28参照)
ね ら い	「街はみんなの夢舞台」を基本に、住民が個性を輝かせる活動の舞台をつくり、舞台に上がった時の気持ちよさを味わってもらうことで、丹波をもっと潤いのある、居心地のよい地域にしたい。
具体的取り組み	顔の見えるあったかさ、お隣さんを大切にしていこう 小学生と集落マップをつくろう 地域の顔となる「元気な人」を見つけよう 地域の仕掛け人のたまり場をつくろう 異世代で交流し、生きがいネットワークを構築しよう 高齢者の集まれる場所をつくろう
課 題	住民が出会い、つながる場の確保 地域づくりの仕掛け人の発掘、実践、合意づくり

なりわいをはぐくむ・産業の環 アクション2 新しいなりわいを創ろう

提 案	<b>みんなで楽しくコミュニティ・ビジネス</b> (P34参照)
ね ら い	丹波をもっとよくするため、丹波人による、丹波人のための事業を私たちが主体となって生み出す。
具体的取り組み	異業種、団体等の横のつながりを強くする 縦割りの活動は、膠着している。異業種、個人、団体・グループの横のつながりを強くしていき、商品開発・生産、情報発信、流通、販売で協力し合う コミュニティ・ビジネスを起こす ・シイタケのホダ木をカプトムシの育成用に使用する ・病院の診察券出しなど高齢者の暮らしを支える便利屋 ・若者がいやがる日役も請け負いの商売にするフォレストレンジャー（森林管理業務の代行）の創設
課 題	起業のための情報、技術、人材、融資等の支援 異業種間のネットワークの構築

なりわいをはぐくむ・産業の環<sup>わ</sup> アクション2 新しいなりわいを創ろう

提 案	<b>健康のまち（元気回復のまち）丹波</b> (P34参照)
ね ら い	「非日常性における精神の開放」やストレスの多い現代人の心身のバランスを取り戻すため、地域資源である自然、文化、スポーツ・レクリエーション、医療、保養、宿泊等、滞在型の健康づくりシステムを地域全体で確立し、ストレスを持った人々にさまざまなメニューを提供する
具体的取り組み	健康や元気回復を進めるため、各機関や分野が連携し、利用者の希望にあったメニューを提供する ストレス解消コース（短期滞在型） 運動不足解消コース（中期滞在型） 元気回復コース（中・長期滞在型）
課 題	中核施設としての管内病院の健康づくり機能の活用 1市6町の持つ健康づくりに役立つ地域資源の活用（施設、既存産業、特産物） 各健康づくり機関や分野の相互連携の仕組みづくり

なりわいをはぐくむ・産業の環<sup>わ</sup> アクション2 新しいなりわいを創ろう

提 案	<b>体験学習的ホームステイができる農家民宿の経営</b> (P34参照)
ね ら い	農業をやりたい人と、余っている農地をマッチングする手段として、昔ながらの農家を活用し、都市部の人々に農林業の手伝いをしてもらい、農林業の振興や、農林業従業者の確保を図る。 また、農林業と観光業を一体化し、丹波の自然の良さを売り込み、丹波ファンの増加を図る。
具体的取り組み	農林業体験や林業の枝打ち体験（宿泊代が半分になるなどの特典がある）ができる農家民宿 農家での生活を体験する
課 題	農家民宿の経営システムづくり 農業者と森林所有者との連携

なりわいをはぐくむ・産業の環 <sup>わ</sup> アクション2 新しいなりわいを創ろう

提 案	いきいき <sup>あ</sup> <sup>ぐ</sup> <sup>り</sup> Agri いけいけ <sup>た</sup> <sup>ん</sup> <sup>ば</sup> TANBA (P34参照)
ね ら い	農業をいきいきとさせ、元気な丹波をつくる
具体的取り組み	<p>丹波のものを丹波で食べること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内流通 地場農産物を丹波の中で流通させていく 給食は丹波の物を使う 丹波内での循環</li> <li>・地域に支持される農産物づくり 安全・安心な農産物をつくる 子ども達に丹波の農産物のおいしさを伝える</li> </ul> <p>やりたい人がやりたい農業をできるシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もうかる農業 ベンチャー経営</li> <li>・自給自足農業 自分の食糧を自分で確保する</li> <li>・自然保護のための農業 生産性、収益にとられない自然を保護する農業</li> </ul> <p>グリーン人材営農センター          (「わをつなぐ仕組みづくり」で提案・・・P54参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業をやりたい人と余っている農地をマッチングさせる</li> <li>・農業をやりたい人を大規模農家に送りこんで勉強してもらおう</li> </ul>
課 題	丹波の農作物を丹波地域内で流通させる体制づくり



## 第4章 わをはぐくむ～夢実現の仕組み

いのち(自然)・ひと(人間)・なりわい(産業)をはぐくみ、より有機的に結びつけるためには、新しい視点と柔軟な仕組み、支援の体制が必要です。

### 1 「森の市民」が力を発揮できる丹波をめざそう

夢実現のためには、丹波にかかわるすべての人々が「森の市民」となり、丹波づくりの主演として、その力を発揮できる社会をつくるのが大切です。それは、若者や子ども、女性、外国人など丹波地域への移住者といった今まで地域づくりの中心に参画しにくかった人々が積極的にかかわれるバリアのない社会ともいえます。

異なる価値観や生活文化を持った人々の意見に耳を傾けることは、今まで何気なくやり過ごしてきた集落の慣習の見直しや新たな取り組みにつながります。特に、集落の行事では、若者に企画から運営まで任せてみる、行政施策においては、積極的に若者の発想や力を取り入れることで、地域の活性化が図られるでしょう。

また、いまだに男性中心で進められている集落づくりに女性の声が反映されることも急がれます。

若者や女性などが積極的に参画し、高齢者や子どもたちなど多世代でかかわりあえる仕組みをつくることで、「森の市民」が真に力を発揮し、それが「わをはぐくむ」原動力となっていくことでしょう。

### 2 情報インフラを活かそう

インターネット、携帯電話をはじめとするIT(情報技術)が20世紀末から爆発的に普及しました。また、携帯端末によるインターネットも普及しました。今後、より高度な情報ネットワークが形成されると思われます。

このような情報インフラによって、丹波では「都市部から遠い」、「情報が素早く得られない」という地理的・物理的制約がなくなります。

そして、さまざまな情報発信・情報収集、電子商取引(e-コマース)、SOHOなどに活用し、丹波から発信する情報活動や経済活動を行うことも可能です。

このような、機能を活かせば、「車などの移動手段がない」、「体の調子が悪く、外出できない」といった、これまでいろいろなことに参加できなかった人々でも、気軽に参加できるようになります。

また、さまざまな情報が行き交うことで、都市部でなければ情報は得られないという状況を解消し、若者の都市部への流出の歯止めにもなると考えます。

---

**有機的** 多くのものが集まり、組織化され、一定の目的のもとで結びつき、統一されること。それぞれの部分と全体が深く関係していること。

**インフラ** infrastructure の略。基盤となる電気、通信などの施設。

**インターネット** 各地に散在するコンピュータ等のネットワーク同士を電話回線などの専用回線によって接続した巨大なネットワーク。ネットワークのネットワークといわれることもある。

(提案例)

- ・丹波の特産物をすぐに注文できる「インターネット市場」の開設

- ・携帯端末でインターネットとつながろう

パソコンを持っていない人でも、最近は、インターネット対応の携帯電話を持っている人は多いようです。iモードを手はじめに新しい情報手段を考えてはどうでしょうか。

### 3 丹波ファンの「わ」を広げよう

丹波は、丹波人と丹波ファン、そして丹波の自然がもたらす恵みを受けるすべての人の共有財産です。この丹波の自然を、丹波に住む私たちや熱心な丹波ファンだけでは守れない状況が生じています。

丹波を守り、育て、活かしていくためには、さらに阪神地域をはじめとする都市部の人の知恵と力を借りる方法を考える必要があるでしょう。

近畿自動車道敦賀線（舞鶴自動車道）やJR福知山線の複線化により、阪神大都市圏とのつながりもより密接になっています。北近畿豊岡自動車道により但馬、東播丹波連絡道路により東播磨との交流も活発になることが予想されます。

丹波の魅力と現状を丹波外の人々にも認識してもらうためには、まず、丹波を訪れてもらう機会をつくることです。新しい観光、交流の形であるグリーンツーリズム（農村滞在型旅行）やエコツーリズム（環境観光）などを通し、じっくりと丹波ファンのわを広げることが大切です。

(提案例)

- ・生産者の苦労話を聞きながら気軽に買い物ができる「朝市」の拡充
- ・丹波の特産物を身近に買える「アンテナショップ」の開設
- ・豊かな自然の中での「スポーツ合宿」の実施

iモード 1992年2月からNTTドコモが提供を開始した携帯電話による文字や映像による情報サービス。インターネットに接続して、電子メールの送受信やホームページのアクセスができる。

電子メールとは、インターネットを経由して行われる文字や映像、データなどのやりとり。

ホームページとは、インターネットによって表示されるすべてのページ（web site）。本来は、そのトップページのことをさす。

アクセスとは、この場合、インターネットを利用することをいう。

グリーンツーリズム 農村にゆっくり滞在し、農業体験をする旅行。

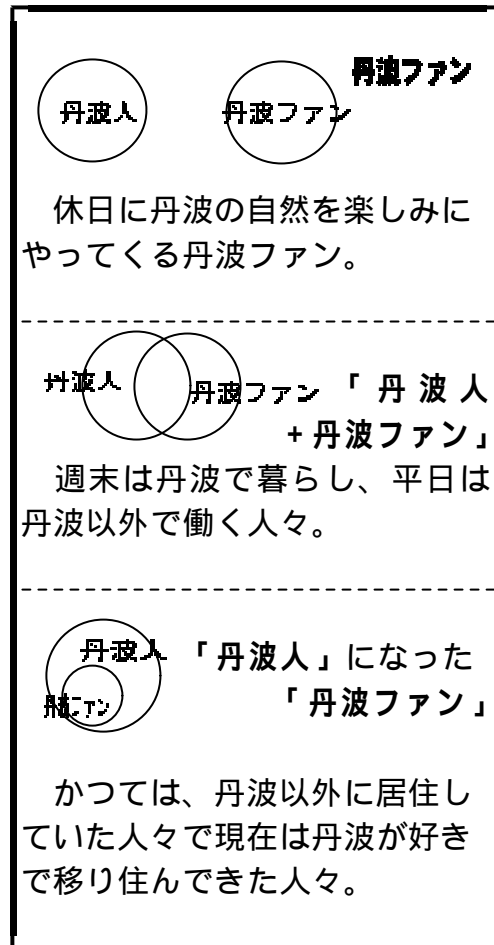
エコツーリズム 環境保護、自然保護の理解を深める旅行。

アンテナショップ 新商品などの需要把握や新しい売り方・業態を試すために、テスト的に売り出し、消費者の需要動向を探ったり、宣伝効果を計るために設ける実験的店舗。

### 丹波ファンの「わ」の広がり

都市に近接する丹波には、休日は都市部から丹波に来て丹波の自然を楽しむといった人々（丹波ファン）や豊かな自然とのふれあいを求め、週末は丹波で住み、平日は都市で働く人々（丹波人+丹波ファン）、若いときに自然豊かな地域での子育てを求めて移り住んで来る人々、また逆に、若いときは都市部で働き、定年退職した後に豊かな自然の中での生活を求めてくる人（丹波人になった丹波ファン）などさまざまな交流人がいます。

京阪神地域に隣接し、自然に恵まれた地域である丹波では、多くの人々のニーズにこたえることができます。



#### ----- 丹波の森夢会議での提案の実現例 -----

都市と農村の交流を図るとともに、丹波の魅力を再発見するため、丹波の森夢会議（ドリカムたんば2）で提案のあった「どっぷり丹波！特派員ツアー」を平成12年11月に実施しました。～都市との交流の新たな試み～

- 概要** 都市部を中心に特派員を募集。28名の「どっぷり丹波！特派員」が誕生。新聞記者を講師に招き、特派員養成講座を開催。
- どっぷり丹波！特派員が丹波を取材（丹波人との交流）
- ツアー企画を作成
- 丹波内外の人の投票の結果、最も人気のあった企画をもとにバスツアーを実施。

## 丹波ファンの「わ」を広げよう・提案例

提 案	<b>自然を守る切り口が文化からでもいいんじゃない</b> ～文化等の交流を通じた「丹波ファンづくり」～
ね ら い	川下に住む都市部の人たちにとっても丹波の自然は自分たちの共有財産として認識し、文化等異なる分野からのアプローチを通じた自然を守る丹波ファンを増やしていく
具体的取り組み	<p><b>丹波の森大学付属丹波の森尋常小学校の設置</b> 丹波のおじいさんやおばあさんが講師となり、丹波の歴史、文化を勉強する。</p> <p><b>「おさん茂兵衛」を題材とした演劇の開催</b> 地域の歴史、文化を活用した演劇を通じ、おさんの里をPRするとともに、丹波の自然の素晴らしさを都市部の人にも認識してもらう。</p> <p><b>「おさん茂兵衛」をオペラに</b> 創作オペラを作曲し、春日町出身の足立さつきさんに主演していただく。</p> <p><b>文楽や演劇の交流</b> 「おさん茂兵衛」の作者近松門左衛門のゆかりの尼崎と交流する。また、文楽人形を使って上演されていたこともあるので淡路とも交流したい。これらが集まりプロ、アマを問わない演劇祭を開催したい。</p> <p><b>演劇街道の延長</b> 演劇街道は近松の町、尼崎を出発し、最終が篠山であったが柏原まで来てほしい。但馬、大阪、京都まで伸ばしてほしい。 このことで丹波を知ってもらって「丹波ファン」を増やしたい。</p>
課 題	理解者、協力者、支援者、資金の確保

提 案	<b>サイクリングバスを走らせて丹波観光巡り</b>
ね ら い	サイクリングバス（自転車を乗せたバス）を走らせ、丹波の民話や歴史、社寺や食文化を活かした交流を図り、丹波ファンを増やす。
具体的取り組み	<p>自転車を乗せたバス（サイクリングバス）で、丹波の名所巡りバスの中で、丹波の民話を語り部が懐かしくお話しする</p> <p>商店街や朝市の人が観光客に丹波を紹介する（口コミ）</p> <p>観光巡りの中で交流を深める</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営システムの構築</li> <li>・スタッフ、資金の確保</li> <li>・放置自転車の活用</li> </ul>

## 4 「わ」をつなぐ仕組み

人々がますます活発に活動する丹波をめざして

丹波づくりについて、今までいろいろな人が数多くの意見、提言を行ってきました。このビジョンでも夢会議の場を通じて取り組み提案をいただけてきましたが、こうした提案を単なる意見表明に終わらせないこと、絵に描いた餅にしないためには、具体的な仕組みを考えたいと、実践する人や組織が必要です。資金や人材を集め、実現の機会をつくるためには、多くの課題やクリアすべきハードルがあります。それをみんなで考え実行して行くための中心として、この夢ビジョンでは、「たんばぐみ」や「アグリビジネス・サポートセンター」、「グリーン人材営農センター」などの仕組みを提案しています。

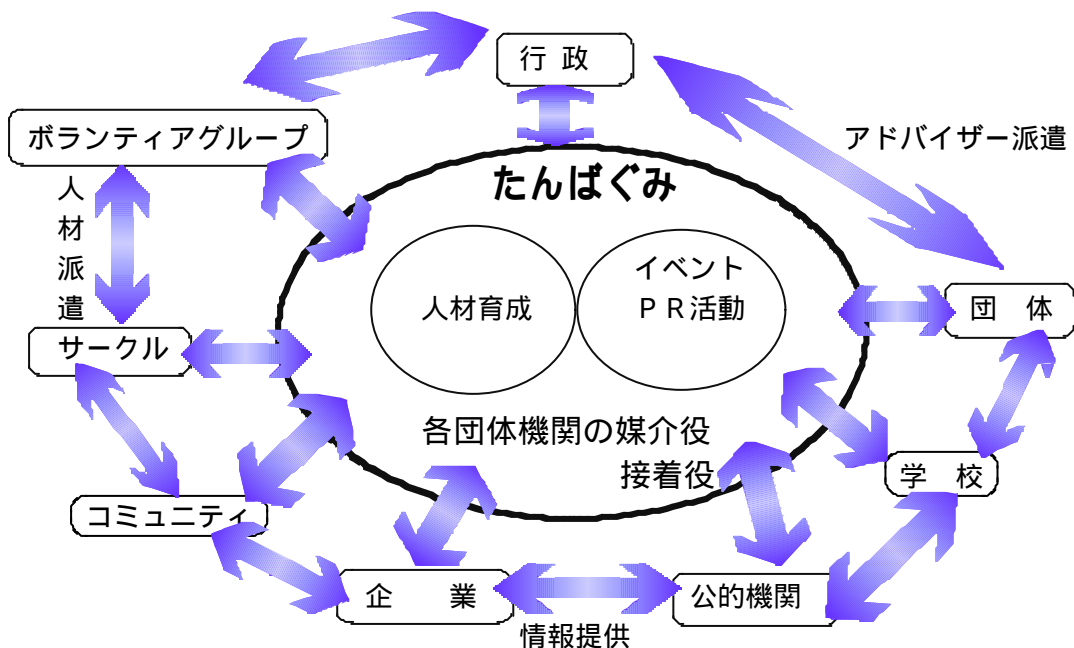
みんなの知恵とエネルギーを結集し、これが実現できるかどうか夢実現の成否にかかわることです。さらに多方面からの深く熱い実現に向けた真剣な議論が求められています。

## 「わ」をつなぐ仕組み提案例

名称	たんばぐみ
ねらい	<p>丹波地域で活動する個人、グループ、各種サークル、ボランティア、NPO、各種団体、企業、行政を含む公的機関などを相互に結ぶネットワークを持ち、それらをコーディネートすることによって、新たな活動を展開するボランティアやNPO、地域産業やベンチャービジネスを生み出し、地域に活力を与える組織である。</p>
考え方	<p><b>役割</b></p> <p><b>1 新たな活動・組織化の仲介役</b></p> <p>これまでの行政が主体となった各組織やボランティアとのネットワークは縦方向で一方通行の活動であったため、ボランティア同士やボランティアと既存団体との交流も少なく、同じ方向の考えや活動をしたり、同じ悩みを持ちながら別々に活動している例が多く見られる。</p> <p>それらのグループのアイデンティティーを尊重しながらも、持っている情報を公開または交換し、また違うルートからの情報や人材などによって活動をサポートしたり、こちらから問題提起やアイデアを出してグループ同士が協力して新たな行動の糧とする。</p> <p>人材の異種なグループへの派遣や企業への紹介で新たな活動や組織が生まれるきっかけをつくり、それらを支援して育てる。たんばぐみは、情報を集積・発信してそれぞれの仲介役をする組織である。</p> <p><b>2 行政、団体、企業の接着役・コア組織</b></p> <p>社会的背景として、環境問題をはじめとする循環型社会の構築、福祉問題や高齢社会、生きがいつくり、行政の財政危機などが上げられる。</p> <p>また、丹波地域では、集落崩壊、農林業問題等で行政だけでは対応し切れない課題が山積している。</p> <p>これらは、行政とボランティアやNPOの協力だけではなく、地元の企業・商工業者も含めて協力・支援がなくては乗り切れないものである。言い換えれば、行政 NPO（ボランティアを含む） 企業の均等なトライアングル体制をいち早く強かに組織できた地域のみが生き残れると考えられる。</p> <p>たんばぐみは、それらのトライアングルの接着剂的な要素と中間機能を持ち、公的機関、他の団体、個人を結ぶ扇の要のコア組織である。</p> <p><b>取り組み内容</b></p> <p><b>1 丹波の夢ビジョンの実現</b></p> <p>たんばぐみは、「丹波の森夢ビジョン」が絵に描いた餅にならないようそのフォローや積極的に支援、推進する組織である。</p> <p>各種の取組みは、柔軟かつ迅速に対応する。住民主体の組織として、自分たちが計画した事業の進行度や成果を自ら厳しく見守り、チェックしその結果を公表する。</p> <p>当面は、丹波の森夢21委員会を中核とし、情報提供を行っている約800の活動団体、行政で組織された「丹波の森夢ビジョン推進ネットワーク会議」の機能を活かしながら実現可能な次の取組を設置が予定されている地域ビジョン委員会と連携しながら進めていく。</p>

	<p>夢ビジョン・県民行動プログラムの策定と推進                  夢ビジョン実現の取組状況の把握と評価                  夢ビジョン実現に向けた実践活動団体等への働きかけ、コーディネート                  夢ビジョン実現に向けた住民の取組と行政の取組支援との仲介役</p> <p>2 自主事業                  人材育成                  たんぱぐみの会員の自己啓発、自己修練、自己開発のための勉強会・研修会を行い他地域の情報収集や個人のレベルアップを図る。(既存の生涯学習の機会も活用)                  イベント、PR活動                  自然、環境、健康、安全・安心、交流、産業、福祉文化などの創造を目的にイベントや講演、フォーラム、ワークショップ等の実践的な活動を通し、積極的に社会に貢献し、丹波の活性化を図る。</p>
具体的取り組み	<p>情報誌の発行                  アグリビジネス・サポートセンター、子育て支援センターの具体化検討                  コミュニティ・ビジネス、エコビジネス、ポイント制導入等の検討                  活動資金確保方策の検討                  元気印丹波村・夢まつりの実施                  どっぶり丹波！特派員ツアーの実施</p>
構成メンバー	丹波の森夢21委員会を中心に、住民、活動団体により構成
つながる団体・分野	自然環境や福祉、教育、農林業、国際交流をはじめとするさまざまな活動分野
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局体制の確立と会員の確保</li> <li>・活動拠点、運営資金の確保</li> <li>・行政との連携（委託事業の受け入れ等の働きかけ）</li> </ul>

図：「たんぱぐみ」のしくみ

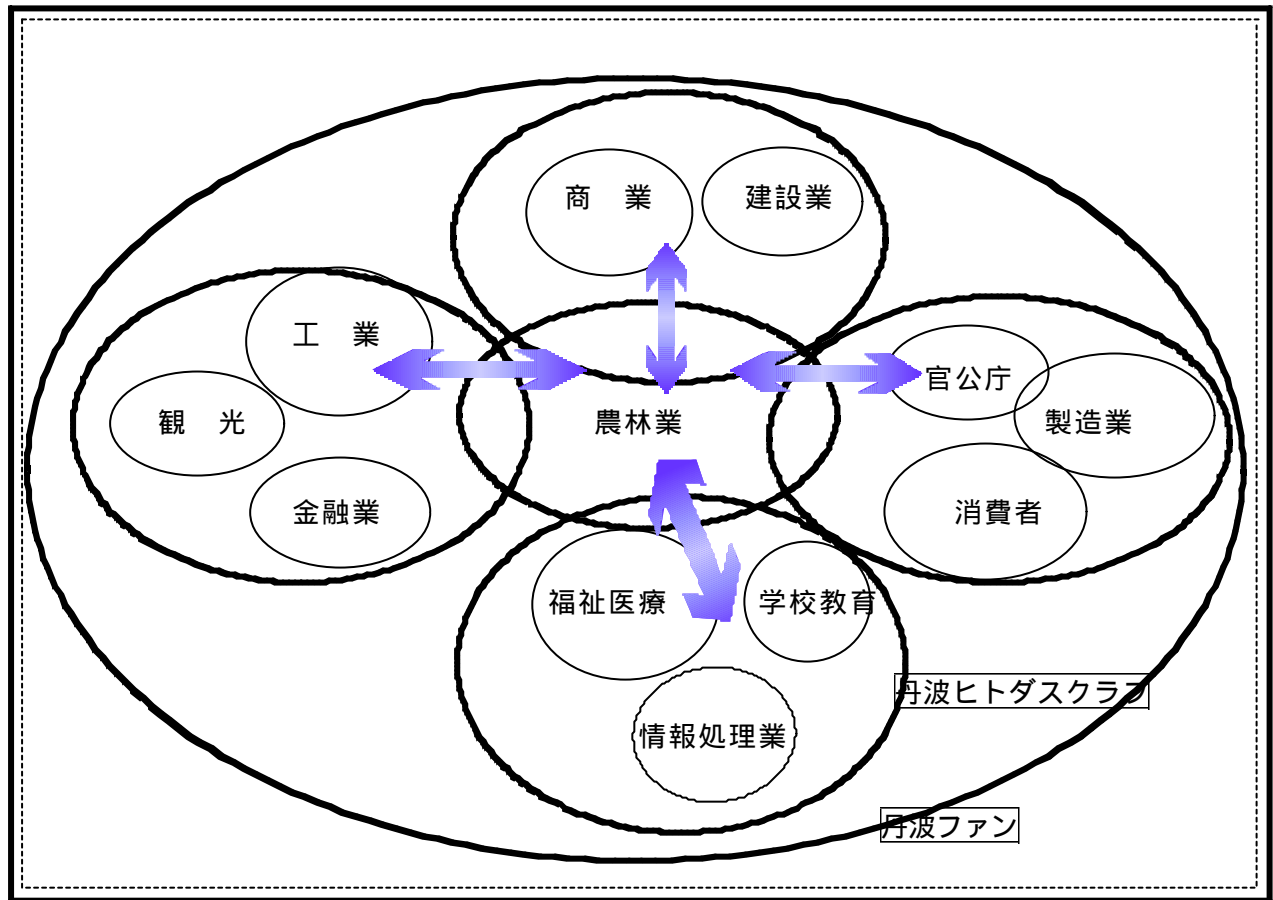


名 称	アグリビジネス・サポートセンター
ね ら い	<p>丹波地域の農業を活性化するためには、農業の枠内だけの取り組みだけでは限界にきている。</p> <p>これまでの農業の枠を超え、商工業等の他の業種との交流や連携、ネットワーク化を図り、新しいビジネス展開を図ることが重要になってきており、アグリビジネス・サポートセンターでは、農業を核とした異業種間のネットワーク化を支援する。</p>
具体的取り組み	<p>問題解決のための相談、斡旋、紹介  異業種間連携によるアグリベンチャービジネスの支援  ・市町と連携した事業化の推進（資金創設、補助事業化）  ・ノウハウの提供  新たな「たんば特産」のコンセプト設定、認定と支援  情報の集積、発信  人材育成（ グリーン人材営農センター）  人材（アドバイザー、コーディネーター）の派遣</p>
構成メンバー	<p>農林漁業・鉱業 建設・不動産業 金融・保険業 商社・卸・小売業  情報処理業 製造業 流通業 医療事務 広告・放送・出版 サービス業 官公庁 学校教育 自由業 その他趣旨に賛同する者、団体</p>
つながる 団体・分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TV等マスコミ、販売メーカー、菓子メーカーなどの異業種間交流、連携</li> <li>・農協</li> <li>・商工会</li> <li>・農協以外の農業団体</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備委員会の設置</li> <li>・情報をうまく使って商品を販売していくシステムづくり</li> <li>・生産者と加工業者等、異業種間のつながり</li> <li>・農協以外の農業団体の連携、組織化</li> </ul>

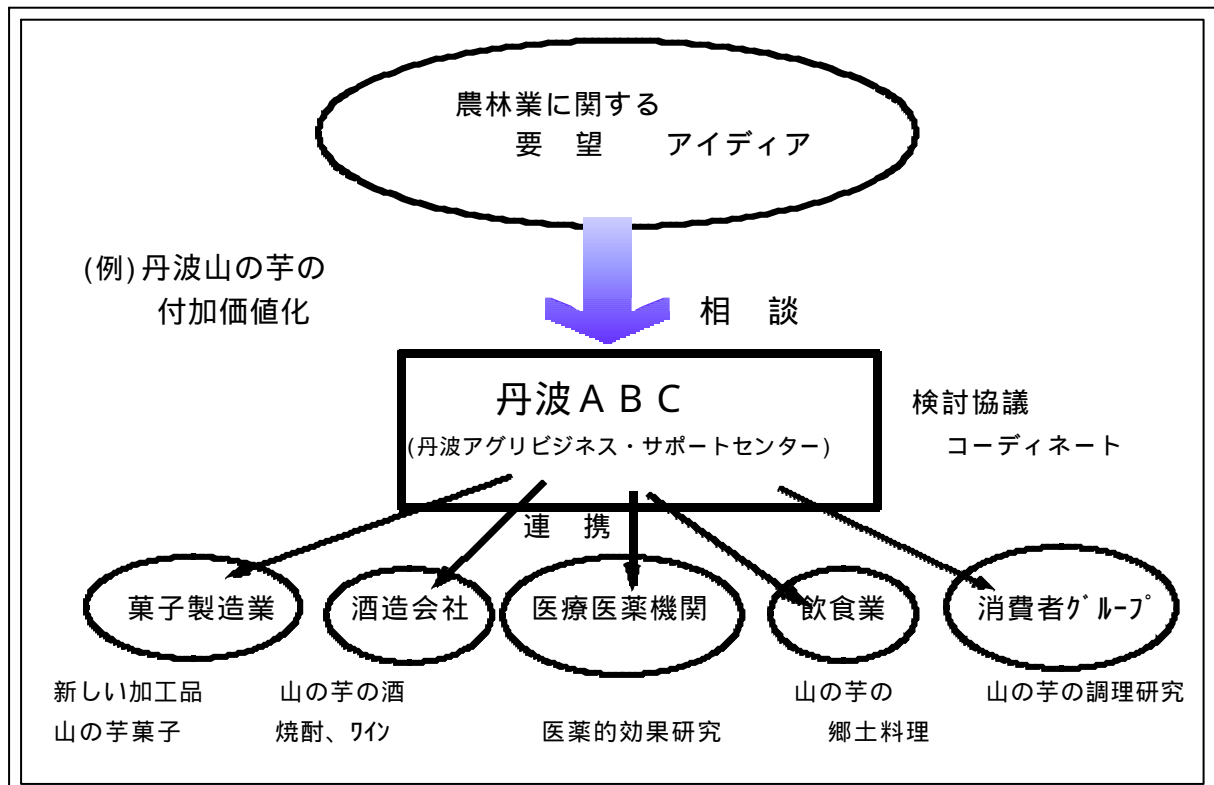


図：アグリビジネス・サポートセンター

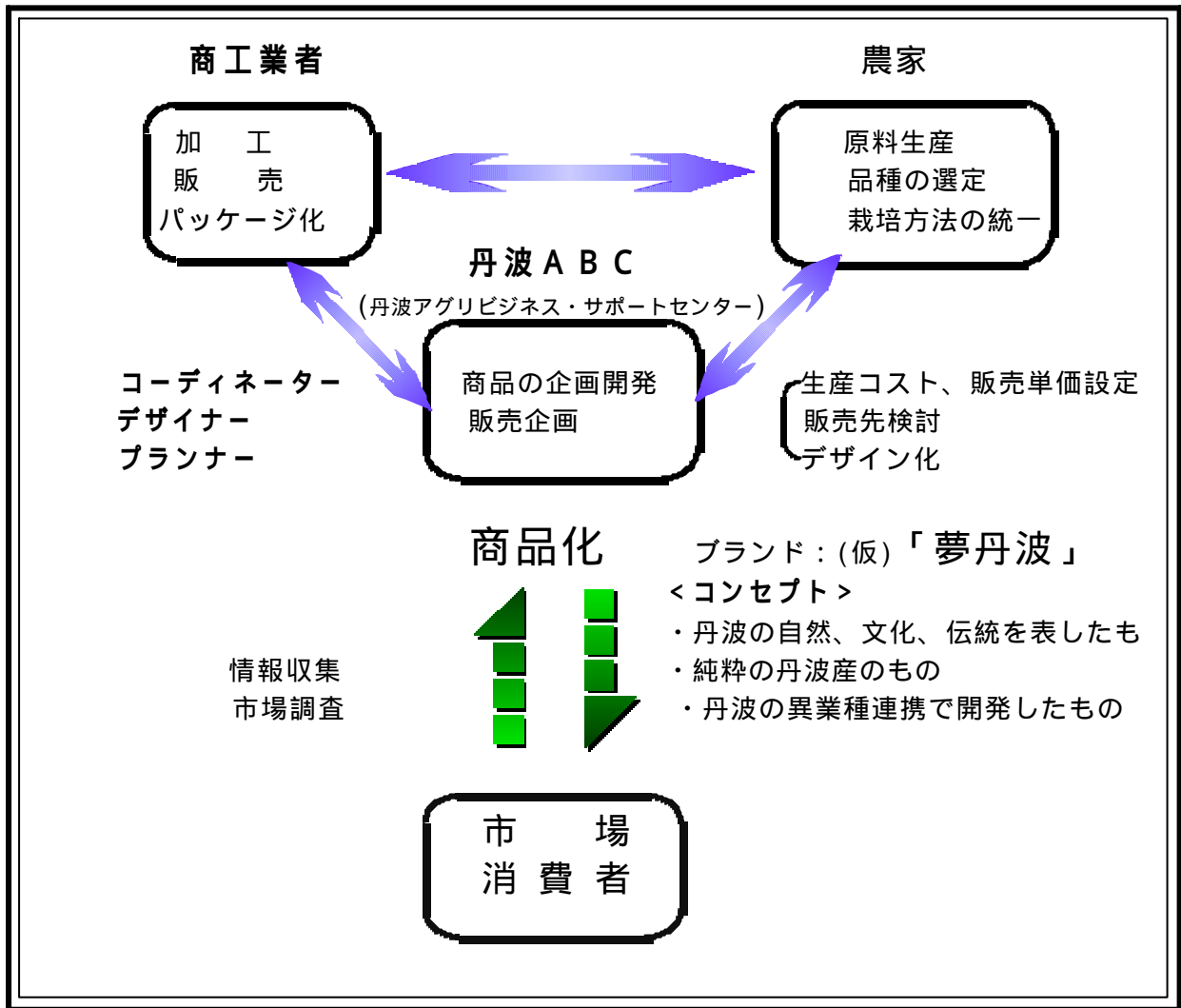
(農業と他の業種をリンクさせ、それをつなぎ、ネットワーク化する)



図：アグリビジネス・サポートセンター 問題解決のための相談、斡旋、紹介体系図



図：アグリビジネス・サポートセンター 新しい丹波ブランド化への体系図

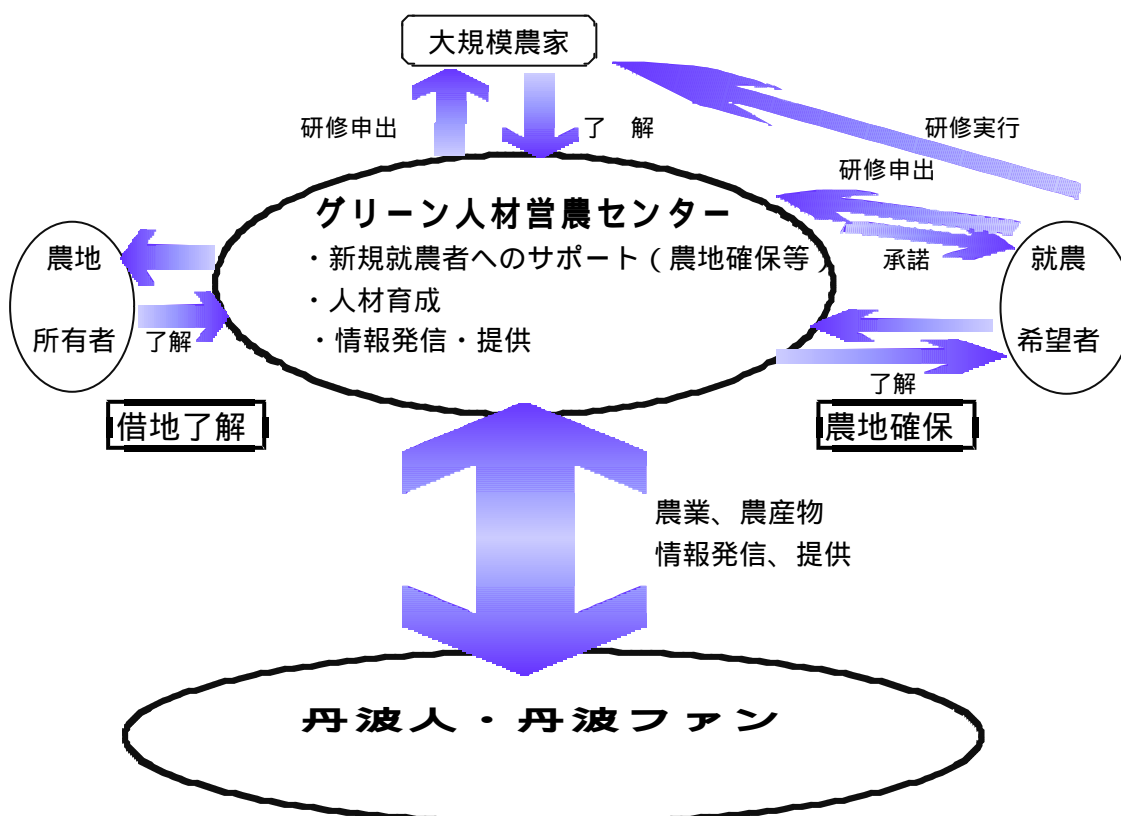


名 称	里山バンクの創設 (P18参照)
ね ら い	里山所有者が、里山体験をしたいという人に場を提供し、里山の環境を守るとともに、自然の中で活動する楽しみを知ってもらい、丹波ファンを増やす。 林業と観光業の一体化を目指す。
具体的取り組み	里山情報の収集、発信 里山所有者(提供可能者)の登録 里山所有者と里山利用者の仲介 里山利用者は里山保全作業(下草刈り等)を提供 里山利用者の募集
課 題	里山提供者の確保 里山の手入れを指導するリーダーの確保 アドプトシステムとしての確立

名 称	巡回バス(各市町内および隣町とを結ぶ仕組み)
ね ら い	超高齢社会を迎える丹波地域において、住む人々が丹波中を公共交通機関で行き来できる仕組みをつくる。 このことにより、高齢者の暮らしや丹波を訪れる人々の移動手段を確保する。
具体的取り組み	民間が運営し、行政、企業(バス会社、レンタカー会社、運送会社) ボランティア(乗降補助、「語り部」土日観光用)は持っている資源、ノウハウで協力する。
取り組みの効果	自然：農村部での生活は、自動車に頼らざるを得ない。公共交通機関の利用に移行できれば、排気ガスが減らせ、丹波の環境が守れる。 人間：運転ができない高齢者、障害者、子どもを含むすべての人が活動、生活、交流の場を広げられる。 産業：各自の能力を活かしたコミュニティ・ビジネスが起業でき、働く場ができる。
課 題	民間運営の発想、メリットを最大限に活かせる運営組織 各種規制や関連企業との調整

名 称	<b>グリーン人材営農センター</b>
ね ら い	空き農地や大規模専業農家を活用し、農業の人材を確保する。
具体的取り組み	<p>新規就農者等農業をやりたい人と耕作放棄田などの所有者とをマッチングさせる</p> <p>農業をやりたい人を大規模、専業農家に送りこんで、農作物の栽培知識、耕作技術の現場講習を受けてもらう</p> <p>営農に関する情報を発信する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農地バンク（空き農地登録制度）</li> <li>・営農人材バンク（技術者、指導者の登録制度）</li> </ul>
事業主体	丹波地域の大規模農家と空き農地所有者の会員制組織
今後の課題	空き農地所有者、大規模農家の事業への参画 就農希望者へのニーズ把握と情報提供

図：グリーン人材営農センター



名 称	<b>市民による子育て支援センターの立ち上げ</b>
ね ら い	住民主体により地域内の様々な子育て問題の相談や学童保育の実施を行うための支援センターを立ち上げる
具体的取り組み	各種セミナーの開催（地域の子育て体験者が講師） 学童保育の実施（既存団体へアウトソーシングも検討） 子育て相談、子育て交流会の実施
課 題	丹波地域内の子育て事業の1本化

名 称	<b>丹波のなんでも特産物百貨店</b>
ね ら い	丹波の農産物から伝統産業まで、すべての特産物と特産品や技術等の情報を集めた百貨店をつくり、丹波内外へ丹波の魅力を発信する。
具体的取り組み	特産品や特産物の販売 丹波の情報を一元化し、発信する 都市と農村の交流の促進
今後の課題	特産品や特産物の集約システム、施設の確保（遊休施設の利用も視野に）*但馬、西播磨に地場産センターがあり、参考にする。

名 称	<b>元気印 丹波村・夢まつり</b>
ね ら い	丹波地域で活動しているさまざまなグループが、分野を問わずに集い、語り合い、つながることによって、活力と魅力あふれる丹波をはぐくみ、安全で安心して暮らせる地域をみんなで作っていく場とする。 行政、活動団体、個人、学校など地域内で活動するありとあらゆる活動主体が互いに対等の立場で協力し合う。
具体的取り組み	活動団体や地域を担う子どもたちの活動成果の発表 丹波でとれた特産物・特産品や伝統産業、地場産業を紹介し、消費し、利用する場 環境適合型イベントとして、ゴミを出さない
今後の課題	多分野にわたる団体・グループの連携の方法 （実際活動している人同士がつながりるしかけづくり） テーマの設定 類似イベントとの共同開催

## 第5章 「みんなで丹波の森」策定の背景

### 1 丹波の森構想12年のあゆみ

#### (1) 丹波の森づくりの取組

丹波の美しい自然、暮らし、なりわい、人々の交流、生活空間、生活文化など、住民を取り巻くすべての環境を「丹波の森」と考え、1988年(昭和63年)の丹波の森宣言を基本理念とし、翌年に策定された丹波の森構想を指針として、住民や行政が多彩な取組を12年にわたり展開してきました。

#### 住民、団体、企業・事業者の活動

丹波地域では、様々な団体・グループや個人により、花づくりや環境美化運動、環境問題への取り組み、福祉ボランティア活動、有機農業を通じた地域づくり、都市と農村との交流、音楽・演劇を通じたまちづくりなど丹波の森づくりの積極的な活動が展開されています。

又、企業・事業者も企業市民・市民事業者として、地域景観に配慮した花のある美しい施設づくりや工場緑化、環境基準ISO14001の取得、地域文化活動への資金提供支援、自然とのふれあいの場の提供など丹波の森づくりに取り組んでいます。

#### 〔住民活動例〕

- ・学校の森づくり……………子供たちが自然とふれあい、自然の中で遊ぶことにより自然の大切さを学ぶ里山づくりに取り組んでいます。
- ・ふるさとの生き物を育てる学校水族館・オヤニラミ、タガメなどふるさとの生き物の保護、繁殖活動を通じて地域の自然を守る取り組みを進めています。
- ・花のあるまちづくり……………公共施設や道路沿いの花壇に四季折々の花を植えて美しいまちづくり、景観づくりに取り組んでいます。
- ・廃食油を利用した石けんづくり・廃食油を回収して石けんづくりに取り組み、地球の環境を守る活動を展開しています。
- ・給食宅配ボランティア……………一人暮らしの高齢者に栄養のバランスのとれたお弁当を毎週届ける活動に取り組んでいます。

その他にも安全で新鮮な野菜の販売や、外国から来られた方にボランティアで日本語を教えたり、伝統文化を守る活動など多彩な活動が実践されています。

### 丹波の森協会・丹波の森公苑の取り組み

(財)丹波の森協会は、住民主体で丹波の森づくりの取り組みを推進し、支援する組織として昭和63年設立されました。

具体的な取り組みとして、丹波の森づくりを支える人材を育成する「丹波の森大学」の開催、ウィーンの森やフォンテーヌブローの森との友好親善交流、花いっぱい美しいまちづくりや里山整備などに取り組む住民へのアドバイス、丹波の昔話の掘り起こしと編集、語りべの活動、丹波の森林の実態を調査する「丹波の森健康診断」など様々な取り組みを実践しています。

また、丹波の森公苑は自然とのふれあいの中で、地域や世代を超えて集い、学び、語り合いながら豊かな生活を創造する住民の活動拠点、丹波の森構想の推進拠点として平成8年4月に開設されました。(財)丹波の森協会が管理、運営を行っています。

具体的な取り組みとしては、県民運動の支援や講座丹波学の開催、ホールやアトリエを活用した芸術文化活動の支援や発表機会の提供、里山整備やメダカのある里づくりなど住民の幅広い分野の学習、交流、実践活動の支援が行われています。

### 行政の取り組み

行政も丹波の森構想の理念を踏まえ、県や市町の基本構想、基本計画を策定するとともに長期的視点に立って、施策や事業を進め、住民の活動を支援する取り組みを展開しています。

具体的には、自然環境と調和した潤いのある地域社会の実現をめざし、「緑豊かな地域環境の形成に関する条例」(平成6年3月制定)の適用や「丹波ビオトープ地図(プラン)の策定」、「丹波ランドスケープ広域計画」、「丹波地域さわやかな環境づくり行動計画」、「丹波サイクリングロード・丹波森の径基本構想」など、丹波の森構想を支援する制度づくりや施策に取り組んでいます。

また、美しい景観や文化遺産などの地域資源を活かしながら自然を身近に感じ、親しめる「森との語らいの場」(シンボルの森・ゾーンの森・ネットワークの森)を整備し、人と自然、人と人との交流を深めるふるさとづくりの拠点として活用されています。

## (2) 取り組みの成果

国土庁長官賞を受賞、国土のグランドデザイン・林業白書で先進事例として紹介

このような丹波の森づくりの取組は、全国の地域づくりの優秀事例として平成9年度の地域づくり全国交流会議において、国土庁長官賞を受賞しました。

また、新しい全国総合開発計画「21世紀の国土のグランドデザイン」や平成10年度の林業白書で、地域づくりの優良モデルとして紹介され、全国的に高く評価されています。

・「地域づくり表彰」における国土庁長官賞

創意と工夫を生かした広域的な地域づくりを通して、個性ある地域の整備・育成に顕著な功績があった優秀事例として表彰。(功績は以下のとおり)

緑豊かな自然や伝統文化など丹波地域の特性を生かしながら「人と自然と文化が調和した地域づくり」をめざす「丹波の森構想」の具体化に取り組む住民活動支援のための重要な役割を担い、実践し、効果を上げていること

住民への森構想の浸透と実践活動への参加機会の提供、行政とのパイプ役として構想の一体的推進を図っていること

「丹波の森大学」を通じて森づくりのリーダーの養成や、ウィーンの森親善訪問団の派遣を通じて海外とも連携して多彩な事業を展開していること

地域活性化の地道な活動を通じて丹波地域の魅力を一層増大させていること

都市部との活発な地域間交流を推進していること

・21世紀の国土のグランドデザイン

第1部 国土計画の基本的な考え方(略)

第2部 分野別施策の基本方向(略)

第3部 地域別整備の基本方針

6 近畿地域

- 文化の香り高い、創造性に満ちた、世界に誇り得る中枢圏区 -

(1) 地域整備の基本方向(略)

(2) 施策の展開方向(関連部分のみ抜粋)

関西圏においては、大阪湾臨海地域を中心として……。

多自然居住地域の創造に向けて、……。北近畿地域において、豊かな自然、文化等の蓄積を生かした丹後地域におけるリゾートの整備や丹波地域における森づくりを基本に据えた地域づくり等の推進を図る。(以下略)

・平成10年度林業白書

第1部 林業の動向

森づくりと山村の振興

1 山村の振興

(2) 魅力ある地域づくり

ア 地域資源の活用

表 - 7 地域資源を活用した取組事例

取組事例	取組内容



丹波の森づくり  
(兵庫県丹波地域)

阪神大都市圏の近郊に位置する丹波地域では、豊かな自然や伝統文化など地域資源を活用し、人と自然と文化の調和した地域づくり「丹波の森づくり」を推進している。推進組織である(財)丹波の森協会を設立するとともに、活動拠点となる「丹波の森公苑」を整備し、地域づくりリーダーの養成、地域の里山創造事業などを実施している。

#### 自然環境を守る気運の高まりなど

(財)丹波の森協会の設立・丹波の森公苑の整備など地域づくりの支援体制が整備されたことと相まって、自然環境を守る気運の高まり、乱開発への抑止効果、多様な住民活動の展開、氷上郡と篠山市の一体感の気運の醸成など一定の成果があがってきています。

第5章 「みんなで丹波の森」策定の背景

【参考】丹波の森構想12年の主な成果

区 分	主 な 成 果
普及定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹波の森構想が推進されていることを69%の住民が周知 (平成9年度丹波の森構想住民意識調査) *自然との調和志向の普及・乱開発抑止効果等</li> <li>・住民主体の丹波の森づくり活動の促進 *周辺の環境は自分達で守るのが重要と認識する者は70%と県下で最高 (平成8年度県民意識調査) *地域の魅力は「自然環境に恵まれている」ことが75%で県下で最高 (平成11年度県民意識調査) *住民の68%は何らかの地域活動に参加(丹波一斉クリーン作戦など) (平成9年度丹波の森構想住民意識調査) *丹波の森大学修了生585人が各地域でリーダーとして活動 (平成12年度現在)</li> <li>・新しい文化創造の芽生え *シューベルティアーデたんばに代表される新しい文化創造活動が活発化</li> <li>・都市等との交流の促進 *市島町有機栽培グループや丹波少年自然の家など阪神地域との交流の促進 *丹波の森協会とウィーン市13区やフォンテーヌブローの森との友好提携の促進 (平成12年度現在、延べ448人がウィーンの森等を訪問) *交流拠点の整備(青垣いきものふれあいの里、黒豆の館、お菓子の里等)</li> </ul>
推進体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹波の森研究所の開設による(財)丹波の森協会の機能拡充</li> <li>・丹波の森公苑の開苑による生活創造活動や住民活動支援体制の強化</li> <li>・こころ豊かな丹波づくり推進協議会等の活動の充実</li> <li>・人と自然の博物館との連携促進</li> </ul>
支援策の充実 森づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンボルの森の整備 *丹波の森公苑・丹波並木道中央公園(整備中)・自然活用型CSR事業(整備中)</li> <li>・ゾーンの森の整備 *丹波悠遊の森(柏原町)・多紀連山O<sub>2</sub>の森(篠山市)等各市町で事業実施 ゾーンの森総数 38 うち完成 10(丹波年輪の里を含む) 整備中等 28(整備中11・計画中4・構想13) *民間レベルのゾーンの森整備 (ペンション・モニカ、エルム市島、ユニットピア篠山など)</li> <li>・ネットワークの森の整備 *国道沿道緑化事業(175号・176号のけやき並木、427号もみじロード) *ふるさと桜づつみ回廊の整備(整備中) *丹波の森サイクリング・ロードの整備(整備中) *丹波森の径等登山道・ハイキングコース・ウォーキングトレイル(遊歩道)整備</li> </ul>
基本指針の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境の保全と創造 *丹波ビオトープ地図(プラン)の策定 *丹波地域ランドスケープ広域計画の策定 *丹波地域さわやかな環境づくり行動計画の策定 *丹波の植生調査、丹波の草花調査、257河川水性生物調査等の実施</li> <li>・景観の保全 *景観の形成に関する条例に基づく地区指定 (旧篠山町城下町地区、デカンショ街道地域) *屋外広告物条例による規制エリア(第1種禁止区域)の拡大 *緑豊かな地域環境の形成に関する条例の制定</li> <li>・マスタープラン *丹波地域都市整備指針の策定 *丹波地域防災都市マスタープラン(丹波版)</li> </ul>
基幹交通網の整備 全国発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR福知山線篠山口駅以南の複線開業</li> <li>・北近畿豊岡自動車道着工・東播丹波連絡道路の計画決定</li> <li>・丹波の森協会が国土庁長官賞を受賞(平成9年)</li> <li>・新全国総合開発計画(H10・3)「21世紀の国土のグランドデザイン」で紹介</li> <li>・平成10年度林業白書で丹波の森づくりが紹介</li> </ul>

### (3) 見えてきた課題

丹波の森構想の知名度は高いが、内容までは知らない住民が多い。

丹波の森構想と住民の日常生活とは密接不可分であると理解されていない。丹波の森づくりは、地域づくりであり、暮らしづくりであるとの認識が薄い。

例 ・河川清掃も立派な丹波の森づくりの活動であるのに、住民自身はそれを森づくりとは思っていない。

・「丹波の森構想は崇高な理念であって、自分たちの生活とは関係ない」と思っている。

地域住民の丹波らしさ・素晴らしさに対する意識が希薄である。

地元住民が、丹波らしい景観・自然環境のすばらしさを実感していない傾向があり、丹波＝田舎というイメージで故郷に誇りが持てない人が多い。都市に対するあこがれとともに、幼児期から自然や地域とふれあう機会が少ないことも影響していることが指摘されている。

まちづくり計画の助言や支援するシステムの実績が少ないことから、住民主体のまちづくりを支援する行政システムが弱い。

住民側でも、行政とのパートナーシップがとれるだけの条件の整備が十分できていない状況にある。

行政が提案する丹波の森づくりの支援策、例えば「緑豊かな地域環境の形成に関する条例」、「丹波ビオトープ地図」など行政施策や理念の広報活動が弱い。

住民活動は活発で高く評価されるが、住民・団体・グループの相互交流、ネットワークが始まったばかりで、丹波の森づくりのエネルギーの結集力が弱い。

### (4) 今後の取り組み

21世紀のスタートにあたっては、丹波の森構想10年を越える取り組みの成果と課題の検証のうえに立って、丹波の森に住む個人、団体、企業・事業者、行政と丹波ファンなど全ての丹波を愛する人々が、丹波づくりに参加することが大切です。

そのために住民自身で描いた丹波地域の夢ビジョン「みんなで丹波の森」を共有し、具体的実践に向けて議論し、みんなが行動することが求められます。

ゴミを捨てない、野焼きをしない、我が家の庭を美しい花でかざるなど、身近で、できることから始め、仲間を増やし、大きな「わ」を広げて、「森の市民」として、みんなで丹波の森づくりに取り組んでいきたいものです。

この夢ビジョンがその羅針盤としての役割を担うことが期待されます。

【参考】丹波の森構想策定時の背景

- 平成3年「兵庫自治」掲載文書から抜粋 -

(1) 丹波地域の概況

丹波地域は、県の中東部に位置し、氷上郡6町、多紀郡4町（現「篠山市」）の二郡10町（現在は1市6町）からなり、総面積871km<sup>2</sup>、総人口約11万人の地域である。

阪神都市圏から50～70Kmの位置にありながら、地形的制約もあって長く農林業を中心とする産業構造であったことから、若者流出等による人口減少が続いた。最近になって人口減少に歯止めがかかったが、高齢化率が19.3%と県下でも最も高く、一見、地域活力の低下が懸念されている地域である。

しかしながら、視点を変えてみると、森林面積が地域の75%を占め、山や川、野や里の緑豊かな自然や田園の景観が残され、心のふるさととも言うべき大きな価値を持った地域である。

又、日本海文化と瀬戸内海文化を結ぶ十字路にあたり、古くから京文化の影響を受け、伝統的な文化遺産の宝庫でもある。

こうしたなか、近畿自動車道敦賀線やJR福知山線の整備が進むにつれ、「北摂・丹波の祭典ホロンピア'88」の開催と相まって地域活力が徐々に高まっていった。

(2) 丹波地域を取り巻く社会背景（昭和63年）

農村地域であった丹波地域に、大きなインパクトを与えたのは、近畿自動車道敦賀線の西舞鶴までの開通とJR福知山線の新三田までの複線化である。これによって丹波地域の交通の利便性が高まり、新しい開発可能な地域として注目されるようになってきた。

また、大都市地域住民の環境や自然、伝統文化に対する関心が急速に高まってきており、丹波地域の住民にとって当然のことである緑豊かな自然、水や空気的美しさ、静かな環境、地域に息づく伝統文化などが見直され始め、地域コミュニティの持つ「きずな」や人情味を含め新たな価値として評価が生まれつつある。

こうしたなか、モータリゼーションの進展によって近畿自動車道敦賀線の利用が高まると共に、新たに北近畿豊岡自動車道の建設やJR福知山線の篠山口駅までの複線化が事業着手されるなど、さらなる利便性の向上が現実のものとなってきた。

こうなると、今度は、田舎のイメージから大都市への通勤圏あるいは大都市近郊地域として将来どうあるべきかを真剣に考えるべき時期に至っていると看做しても過言ではない。現在の丹波地域の持っている価値を残しながら大都市近郊地域としてどのように適正な都市化を進め、アメニティ豊かな地域として発展させるべきかは、従前の大都市近郊の状況を見るにつけ、壮大な、価値あるテーマといえよう。このようなテーマに対して、県や町の行政はもとより、地域住民や民間事業者が一体となって取り組むよりどころとなる大きな目標として設定されたのが「丹波の森構想」である。

(3) 丹波の森構想の概要

丹波の森構想とは、丹波地域の現状や今後の動向を踏まえ、将来の丹波の地域づくりの指針として示されたものであり、丹波地域全域を「丹波の森」と位置づけ、緑豊かな自然や伝統文化などの地域特性を生かしながら「人と自然と文化が調和した地域づくり」を目指そうという提案である。

(4) 丹波の森構想の理念

丹波の森の理念とは、次の三つの地域社会の実現を目指すものであるとしています。

- ・第1に、全地球的視点に立って自然界のルールを正しく理解し、生命共同体の一員として自然と共に生きる地域社会、
- ・第2に、ふるさと景観をかけがえのない共有財産としての共通認識に立って、緑を基軸に美しい景観の保全と創出を図り、潤いと安らぎのある地域社会、
- ・第3に、森の文化の十字路として新しい丹波の魅力を創造し、森の文化の交流や地域特性を生かした産業の振興を図り、活力あるひらかれた地域社会 - である。

(5) 丹波の森づくり

丹波の森づくりは、このような三つの理念のもとに、三つの森づくりを提案しています。

- ・第1に、住民にとって美しい表情豊かな「まち」をつくることから始めなければならない。先人が営々として培ってきた風土を大切に、暖かく、心休まる、表情豊かなまちづくりを我が家の庭から地域の庭づくりへと地域住民の手で進めることが重要である。

- ・第2に、森との親しみを深め、森の文化の創造の場として「森との語らいの場」を整備し人と自然、人と人との交流をふるさとづくりの拠点とする。このような森の整備の方向としては シンボルの森 - 丹波の森の中核として丹波の魅力をフルにアピールしうる広大な森 ゾーンの森 - 丹波の地域の特色をしっかりとらえ、自然景観や文化景観を生かしたゾーン設定による森ネットワークの森 - ゾーンの森とゾーンの森、またはシンボルの森とゾーンの森を結ぶ線としての森（例えば、並木道や桜並木）の整備が考えられる。
- ・第3に、丹波の森は、心豊かで、心の交流の場でなければならない。そのためには、丹波地域の伝統的なコミュニティの活力を生かしつつ、わがふるさとに愛着と誇りを持って、素晴らしい地域風土を守り育て、子や孫に伝えていけるような心優しい地域づくりを進めることが不可欠である。

#### (6) 丹波の森構想の推進

このように丹波の森構想は、いわゆる行政計画というよりも抽象度の高い地域づくりの指針又は理念といってもよいであろう。そうであるからこそ、あらゆる段階での取組が可能である。

行政が実施しようとしている事業・民間事業者や地域住民が実施しようとしている事業や行事について、丹波の森構想に沿っているか、今一度見直して実施する事も可能であろうし、計画段階、構想段階での取組も可能である。又、丹波全域を「丹波の森」と位置づけるからには、丹波地域の山林や川はもとより田園やまちの部分もこの構想の対象となる。

そういった見方をすれば、丹波の森構想は、アプローチの切り口において間口は広く、対象とするところが広域的、広範囲な地域づくりの指針であると同時に、丹波の将来を考える際の基本となる理念的、思想的なよりどころと言っても良いかも知れない。

このような構想を推進するステップとしては、まず、行政が事業主体となる道路、公園、河川といった分野から先導的な事業実施や構想・計画の策定に取り組むことが極めて重要である。次に民間が事業主体である山林や田園、商業地や住宅地については、行政の各分野がより具体的な指針を定め、民間を誘導、指導するとともに、地域住民がそれを受け入れ、支持するようなソフト面での施策展開を進める必要がある。

- 以下省略 -

## 丹波の森宣言

丹波の自然と文化は、現在及び将来にわたる住民共有の財産であって、これを維持発展させることは私たちに課せられた重大な責務です。

今、私たちはこの責務を強く自覚し、お互いに力を合わせ、自然や文化を大切にしながら、これらを生かした「丹波の森」づくりを次のように進めることを宣言します。

- 1 丹波の健全な発展をそこなうような自然破壊は行わず、森を大切に守り育てます。
- 2 丹波の自然景観を大切にし、花と緑の美しい地域づくりを進めます。
- 3 丹波の文化景観及び歴史的遺産を大切にし、個性豊かな地域文化を育てます。
- 4 丹波の素朴さと人情を大切にし、安らぎと活力に満ちた地域づくりを進めます。

昭和63年9月1日

(署名 21, 616世帯)

丹波の森構想の取り組みの動き

	~昭和62年	63	平成元	(1990)	2	3	4	5	6	(1995)	7	8	9	10	11	(2000)	12	(2001)	13~	
丹波の森協会		●「丹波の森協会」(任意団体)発足 ●丹波の森宣言			●丹波の森協会が財団化		●丹波の森写真コンクールスタート					●丹波の森公園運営受託 ●丹波の森研究所設置 ●専門アドバイザーの配置 ●住民活動支援「自治会アンケート」実施 ●国土庁長官賞受賞				●丹波の森健康診断実施				
森の語り場づくり	■丹波年輪の里(柏原町)	◆春日町文化ホール(春日町) ◆たんば田園交響ホール(篠山町) ◆四季の森会館(丹南町) ◆水分れ公園・水分れ資料館(氷上町) ◆遊農園かすが(春日町)			◆青垣の杜(スライムーツ)(青垣町) ◆四季の森公園(丹南町)				◆丹波悠遊の森(柏原町) ◆丹波漢方の里(山南町) ◆立杭陶の郷(今田町)			◆多紀連山Oの森(篠山町)(西紀町) ◆三ツ塚白鳳の里(市島町)								★自然活用型野外CSR施設 ★丹波並木道中央公園
社会の動き	□JR福知山線の電化(大阪~城崎)と複線化(大阪~新三田) S61 □舞鶴自動車道開通(近畿自動車道敦賀線) □北摂・丹波の祭典ホロンビア'88 丹波少年自然の家 S54					▼ペンションモニコ(氷上町) ▼エルムいちじま(市島町)			□緑条例制定		□阪神・淡路大震災					□篠山市誕生			□北近畿豊岡自動車道	

## 2 21世紀兵庫長期ビジョンの策定経緯

### (1) 策定趣旨

兵庫2001年計画の終了

21世紀を見通した兵庫県の長期総合計画として、「兵庫2001年計画」(昭和61年度～平成12年度の15カ年計画)が策定され、各種施策・事業が計画的に推進されてきたが、平成13年3月をもって計画期間が満了する。

ポスト「兵庫2001年計画」策定の考え方

ものの豊かさを享受していた成長の時代から、社会の構成員としての責任を果たしていく成熟の時代を迎え、従来のような人口増加や経済成長を前提とする長期総合計画は成り立たなくなった。

このため、地域住民自らが「夢」を描き、自らがその実現に取り組むという県民主役、地域主導、地域資源や社会基盤の活用を重視するビジョンとして「21世紀兵庫長期ビジョン(地域ビジョンと全県ビジョン)」をまとめることとされた。

「計画」から「ビジョン」

行政主導型の「計画」ではなく、地域の住民自らが目標とする社会像を示し、その実現に取り組む「ビジョン」とする。

プロセスとフォローアップ重視

地域住民自らがつくるという過程やできあがった後、その実現に住民自らが取り組む過程を大切にする。

コミュニケーションの手段

多くの人々が実現に向けて、課題、取組方法、仕組み等を検証し、議論し、実践していくためのきっかけとして活用するとともに、行動の羅針盤としての役割を果たす。

### 地域ビジョンと全県ビジョンの策定

地域ビジョンは、7つの圏域ごとに、地域住民自らが地域の将来像を描き、その実現に主体的に取り組む指針としてとりまとめる。

全県ビジョンは、地域ビジョンの実現を支援するとともに、全県的な視点から、基本課題やめざす将来像とその実現方向を明らかにする指針としてとりまとめる。

「地域ビジョン」と「全県ビジョン」をあわせて「21世紀兵庫長期ビジョン」とするとされている。

こうしてとりまとめられた丹波地域の夢ビジョンが『みんなで丹波の森～成長しつづける丹波の夢ビジョン - 「森の市民」をめざして - 』である。

## (2) 目標期間

21世紀に誕生した人たちが成長して新しい価値観を持って社会を支えはじめる2030年頃を展望しつつ、人口の減少がはじまり、本格的な少子・超高齢社会に移行すると考えられる「2010～2015年頃」を想定年次とする。

## (3) 策定主体

### 丹波の森夢21委員会

丹波の夢ビジョンは、丹波地域を愛し、幅広く地域づくり活動を展開している自然環境、国際交流、福祉や産業分野などの実践活動家と学識経験者23名を公募と推薦により選んで「丹波の森夢21委員会」(座長 中瀬勲姫路工業大学教授)をつくり、多くの皆さんからいただいたたくさんの意見・提案をもとに住民自らが主体的に取り組むことを基本に21委員会がとりまとめました。

とりまとめにあたっては、この夢ビジョンの草案づくりを行う「起草委員会」と住民の意見を幅広く求めるための夢会議を企画・実施する「企画委員会」の2つの委員会を設けて、市町、県職員による夢ビジョン検討プロジェクトチームと協力しながら夢ビジョンづくりに取り組みました。

開催日	主な内容	場所
平成11年6月29日	・夢ビジョンの策定について	丹南健康福祉センター
平成11年7月23日	・丹波地域の特性について	丹波の森公苑
平成11年9月9日	・丹波の森夢会議の進め方について	黒豆の館
平成11年11月18日	・委員会活動について	山南町民センター
平成12年1月28日	・丹波の森夢ビジョン推進ネットワーク会議について	篠山市民会館
平成12年3月22日	・現地体験型夢会議について	丹波の森公苑
平成12年5月18日	・夢会議での意見提言の整理について	丹波の森公苑
平成12年6月22日	・丹波の森夢会議第3段階について	黒豆の館
平成12年7月14日	・丹波の森夢会議第3段階について	柏原総合庁舎
平成12年9月18日	・元気印丹波村・夢まつりについて	柏原総合庁舎
平成12年11月1日	・元気印丹波村・夢まつりについて ・丹波の森夢会議第4段階について	柏原総合庁舎



平成12年11月16日	・丹波の森夢会議第4段階について ・夢ビジョンのまとめについて	柏原総合庁舎
平成12年12月19日	・夢ビジョンのまとめについて	丹波の森公苑
平成13年1月16日	・夢ビジョンの最終案について	柏原総合庁舎
平成13年2月15日	・夢ビジョンの最終案について	柏原総合庁舎

その他にも自然環境の保全、創出や人づくり、元気な集落づくりなどのテーマ別の3つの部会（延19回開催）や、「たんばぐみ」の創設、丹波マップづくりなど夢を実現するためのプロジェクト検討会（延25回開催）を開催しました。

### 丹波の森夢会議

丹波の森夢21委員会では、夢ビジョンのとりまとめにあたり、そのプロセスを大切にすることが夢を共有し、それを実現していくためには大変重要であると考えました。そこで、できるだけ多くの住民に参加いただき、皆さんの地域への夢や実現方法をお聞きするため、団体ヒアリング、活動団体・実践活動家が参加したフォーラム、児童・生徒との意見交換会やアンケート調査、丹波出身者・関係者からのエールメッセージ、他地域住民も参加した現地体験型ワークショップの実施など4段階に及ぶ夢会議（愛称：ドリカムたんば）を開催しました。

この結果、皆さんから環境、福祉、暮らし、農林業・商工業、文化など幅広い分野の熱い意見・提案をいただきました。

開催日	テーマ	場所
平成11年10月～ 平成12年1月	丹波の森夢会議第1段階（アンケート調査） 333名、143団体 ・丹波地域の将来像とその実現に向けた取り組みについて	丹波全域
平成12年2月19日 平成12年2月16日 平成12年2月21日 平成12年2月28日 平成12年3月2日 平成12年3月24日 平成12年3月25日	丹波の森夢会議第2段階 （ワークショップとヒアリング） ・全体会 79名 ・テーマ別 集落（コミュニティ）のあり方 5名 丹波の産業 12名 丹波の森林（林業） 8名 丹波の産業 20名 元気な集落 14名 都市と農村の交流 36名 174名 76団体	丹波の森公苑 篠山市初田公民館 ひかみ青年会議所 やすら樹 丹南商工会館 市島町中村公民館 今田町商工会館
平成12年7月30日 平成12年8月6日	丹波の森夢会議第3段階（ワークショップ） 161名、90団体 ・全県ビジョンについて ・丹波地域の夢ビジョンについて ・環境学習、元気な集落、丹波のビジネス等について	篠山市民会館 丹波の森公苑

平成12年12月3日	丹波の森夢会議第4段階(ワークショップ) 78名、20団体 ・全県ビジョンについて ・丹波地域の夢ビジョンについて ・「自然の環」「人間の環」「産業の環」「わ をはぐくむ」について	篠山市民会館
------------	---	--------

その他にも、様々な方々から意見をいただきました。

平成11年10月～ 平成12年1月	子ども夢会議(丹波地域の小中高・養護学校生) アンケート ・小学生: 11校 248名 ・中学生: 12校 404名 ・高校生: 7校 233名 ・養護学校生: 1校 4名 意見交換会 ・7高等学校(分校含む) 71名 889名 960名
平成11年12月～ 平成13年2月	丹波出身者・関係者からのエールメッセージ(13名)
平成12年1月25日 26日	丹波在住の外国人住民ヒアリングとアンケート調査 外国人住民(12名)
平成12年1月～7月	姉妹友好提携都市(海外)からのエールメッセージ(4都市)
平成12年5月～11月	どっぴり丹波! 特派員ツアー実施に向けた意見交換会と実施 (参加者37名、意見感想62件)
平成12年9月～11月	元気印 丹波村・夢まつり (協力者40団体、意見感想128件)
平成12年10月～11月	森のメッセージ大賞の募集(191件)

その他、メールやファックスなどでも意見をいただきました。

「ドリカム」とは、「夢は実現する」を意味する「Dreams Come True」から名付けたものです。

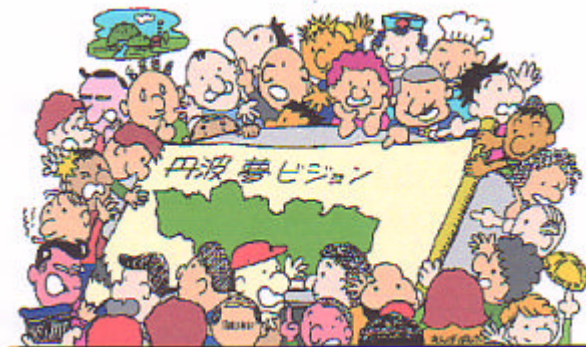
### 丹波の森夢ビジョン推進ネットワーク会議

「丹波の森夢ビジョン推進ネットワーク会議（愛称：ドリカムたんば）」は、丹波を愛する皆さんが“出会い”、丹波づくりを“語り合い”、人々が“つながる”ことを目的に、丹波の森夢21委員会を中心に約800の個人、団体、企業・事業者、行政で構成し、とりまとめた夢ビジョン「みんなで丹波の森」にみんなが主役となって取り組み、その実現をめざすこととしています。

平成12年2月19日に設立。第1回開催  
3月25日、第2回開催  
7月3日、8月6日、第3回開催  
12月3日、第4回開催

丹波の森夢会議と同時開催

ドリカムたんばの写真



丹波の森夢21委員

	氏名	役職等
学識委員	中瀬 勲	人と自然の博物館副館長・姫路工業大学教授
	野村 宗訓	関西学院大学経済学部教授
	小林 竜子	(株)生活環境文化研究所チーフディレクター
地域委員	浅倉 陽子	国際葛グリーン作戦山南理事
	石塚 ひとみ	在宅介護支援センターやまじ保健婦
	円増 亮介	篠山観光協会長、篠山町商工会理事
	大字 智子	ポプラの家指導員、わたぼうしコンサートひょうご実行委員長
	北村 久美子	ふるさと市島未来塾みらい座副理事
	小橋 隆明	こころ豊かな丹波づくり推進協議会長
	酒井 かつみ	篠山国際理解センター事務局長
	酒井 欣也	シューベルティアードたんばプロデューサー、サンテレビジョン社員
	酒井 達哉	篠山市立今田小学校教諭
	清水 まり子	交流サロン「花塾」代表、随筆家
	高見 秀樹	春日町青少年健全育成推進員会長
	並河 達也	黒豆の館企画部長
	坂東 隆弘	前丹波地域商工会青年部長、'98環境フォーラム実行委員長
	廣瀬 浩之	氷上町森林組合職員
	婦木 克則	あぐり研究会長、県青年農業士
	前田 世津子	篠山町農業協同組合女性会副会長、農業家
山名 みどり	丹波500人委員会OG、山名酒造(株)役員	
横山 宜致	丹波の森研究所専門研究員	
行政委員	山本 喜代治	篠山市政策部企画課長(平成12年5月まで梶谷郁雄)
	黒田 政文	山南町総務企画課長

は座長、 は座長代理

## 丹波の森夢ビジョン検討プロジェクトチーム

	氏 名	所 属 等
県 職 員	坂 本 雅 春	丹波県民局篠山分室（前所属：県立丹波の森公苑）
	西 角 光 司	柏原財務事務所（前所属：県立柏原病院）
	松 本 利 光	柏原財務事務所
	四 方 正 行	柏原保健所
	西 垣 勝 徳	柏原土木事務所（前所属：氷上福祉事務所）
	三 宅 元 一	篠山農業改良普及センター
	岡 田 啓 一	篠山土地改良事務所
	荻 野 益 美	丹有教育事務所
	大 谷 倫 子	長期ビジョン部市町振興課（前所属：丹波県民局）
	前 田 良 將	県立公害研究所（前所属：篠山保健所）
	土 岡 正 洋	農林水産部林務課（前所属：柏原農林事務所）
	樋 口 俊 光	神戸土木事務所（前所属：柏原土木事務所）
市 町 職 員	畑 哲 也	篠山市政策部まちづくり推進課（福田康幸：～平成12年3月）
	藤 原 勇	柏原町企画振興課（柿原範久：～平成12年3月）
	十 倉 康 博	氷上町企画財政課
	吉 田 克 則	青垣町産業課
	近 藤 利 明	春日町産業課
	大 垣 至 康	山南町総務企画課
	西 山 茂 己	市島町健康福祉課

## 第6章 夢提案

### 1 丹波出身者・関係者からのエールメッセージ

<p>お名前：<u>北村 昌美</u>  <small>きたむら まさみ</small></p> <p>出身市町：<u>篠山市</u></p>	<p>主な役職：<u>鶴岡総合研究所長</u>  <u>山形大学名誉教授</u></p>
<p>メッセージ：  「丹波の森大学」にならって鶴岡にも「鶴岡致道大学」というものを開講しました。庄内藩の藩校「致道館」からその名をとっています。その丹波ファンの受講生が10人あまり、修学旅行と称してすでに2回も丹波を訪れました。その結果丹波への思いは募るばかり。丹波の黒大豆と、鶴岡の自慢の白大豆「だだちゃ豆」を媒介にして、もっと交流を深めたいという気持ちさえ兆してきています。丹波のみなさん、東北からの熱い視線をお忘れなく。</p>	
<p>お名前：<u>南条 好輝</u>  <small>なんじょう こうき</small></p> <p>出身市町：<u>篠山市</u></p>	<p>主な役職：<u>俳優</u>  <u>スターマップ主宰</u></p>
<p>メッセージ：  この数年、私の周囲の俳優仲間の中で、丹波篠山ファンが急増している。豊かな自然とこじんまりとした城下町、そのマッチングもさることながら、人気の的は何と云っても黒大豆と山の芋に代表される豊富な農産物である。交通の利便性が良くなって、さらにその熱は高まっている。中には大阪から篠山に引っ越しする者まで現れた。近郊都市として発展するのも悪くないが、大阪のオアシスとして、農産物の土壌は大切に守ってほしい。</p>	
<p>お名前：<u>田 季晴</u>  <small>でん すえはる</small></p> <p>出身市町：<u>柏原町</u></p>	<p>主な役職：<u>サンキン株式会社名誉顧問</u></p>
<p>メッセージ：  丹波人は猿か？  丹波人は昔から「山家の猿」と言われていました。丹波人は四方山に囲まれた盆地に住んでいました。その環境から都会の人に会うことは少なく、交通の便も良くなかったので、都会の人にあって、人見知りをしてすぐには話しかけられても答えられない人間であったと思われます。丹波人は知れば知るほど味が出るといわれています。政治家にも財界人にも有名な人物を輩出しています。丹波人は噛めば噛むほど味が出るといわれています。始めは他人が先行しても、後になれば必ず追い越しています。その先例はたくさんあります。人に先を越されても急ぐことはありません、必ず追い越すことができます。</p>	
<p>お名前：<u>赤井 紀男</u>  <small>あかい のりお</small></p> <p>出身市町：<u>氷上町</u></p>	<p>主な役職：<u>日立マクセル(株)取締役社長</u></p>
<p>メッセージ：  丹波の地を離れて約40年、この間年1回は墓参りを兼ね、緑美しい福知山線の山景色を楽しみながら帰郷していましたが、時代の反映と言うべきか、自然破壊と過疎化を感じ寂しい思いをしていたところに「丹波の夢ビジョン」を掲げ、豊かな地域社会実現に向け活動開始された報に大変喜んでおります。  時間を超える、空間を超えるインターネットの時代、地理的差別化はなくなりました。豊かな自然環境の中、丹波にもたくさんの資産を有効に生かしたすばらしい「丹波の森」ができますことを祈念しております。</p>	

<p>お名前：<u>佐々木 恭介</u>          出身市町：<u>青垣町</u></p>	<p>主な役職：<u>西武ライオンズ ヘッドコーチ 兼 打撃コーチ</u></p>
<p>メッセージ：          生まれ故郷の青垣町で18年間、故郷を後にしてすでに32年間の時が流れた。ずっと野球解説の仕事をしていたので、年に1回くらいしか実家に帰ることができませんが、丹波の空気はいつもあたたかく迎えてくれる。澄んだ空気、緑豊かな大地、どこまでもおいしい水、30年過ぎた今も何一つ変わらない。過疎化が進む中で、大自然をそのまま残すということは大変なことだとは思いますが、できる限り地元の人たちの頑張りで、良き故郷丹波のすばらしさを残していってほしいと思います。</p>	
<p>お名前：<u>足立 さつき</u>          出身市町：<u>春日町</u></p>	<p>主な役職：<u>オペラ歌手</u></p>
<p>メッセージ：          故郷を離れて20年の月日が流れました。年に一、二回は帰郷し、そのたびに変わらぬ丹波の景色と匂いを感じます。緑深き山や森が21世紀中も変わらぬ姿でありますように・・・今後自然と人との共生の中で、ますます文化の存在が求められる時代になることでしょう。私も音楽を通して、丹波の夢ビジョンづくりに参加できますことを願っております。</p>	
<p>お名前：<u>橋本 真弥</u>          出身市町：<u>春日町</u></p>	<p>主な役職：<u>元ビーチバレーボール選手          特別養護老人ホームおかの花寮母</u></p>
<p>メッセージ：          2000年の2月は例年より雪の日が多かったようです。降り続く雪の音は無いけれど、私には「しんしん、しんしん」と聞こえます。それが、私のふるさと丹波です。高校時代はバレーの練習に明け暮れましたが、恵まれた自然環境、支援して下さる方々の穏和な人柄に触れることができました。現在、特別養護老人ホームおかの花につとめています。少子化、高齢化、価値観の多様化など問題が浮上してきますが、心の豊かさを育て、やさしさと思いやりを持って仕事に励むことでお役に立てたら幸いです。地域の一人ひとりがまちづくりの役員です。魅力あるまちづくりにエールを送ります。</p>	
<p>お名前：<u>笹倉 鉄平</u>          出身市町：<u>山南町</u></p>	<p>主な役職：<u>画家</u></p>
<p>メッセージ：          現在21世紀に向けてあらゆる分野でデジタル化が進み情報経済社会は急速度に発展しつつあるが、人の心はその分逆方向に「なつかしさ」、「安らぎ」といったものを求めているように感じる。一昔前は「丹波」は田舎の代名詞のようであったが、今や東京、大阪等都市圏に暮らす人々にとっては「あこがれ」に近い響きに変わり始めているのも、バリ島ブームに象徴されるように「癒し」を求めているからだ。歴史を感じるヨーロッパは毎年度「一番美しい村」を選出して保護に力を注いでいる国もあるように、丹波は「日本の癒し」、「心のふるさと」を具現化できる魅力を十分に内在しており、今からでも遅くない、住宅地と保護地区を明分・指定し、美しい丹波独特の景観・集落を保護しながらも適切な発展の方向に向けば、「観光」でも成り立つほどの可能性すら感じています。</p>	

<p>お名前：<u>前田 尋</u>  <small>まえだ ひろし</small></p> <p>出身市町：<u>山南町</u></p>	<p>主な役職：<u>日本切り絵協会常任委員</u>  <u>大阪府美術家協会委員</u></p>
<p>メッセージ：          いよいよ21世紀を眼前にして、丹波の果たすべき役割はいや増すことでしょう。豊かな自然と歴史、そして創造的な人々、この3者の調和こそが求められるべきものです。次代の文化は、もはや巨大なイベントではなく、生活の中にある祭や交流、創作すること、見せること、それは今各地で開かれ、人々を惹きつける朝市やフリーマーケットのようなものが各地に数多く花咲くことです。住む人々が誇れる自然と文化を育てましょう。もはや開発の時代ではないと思います。</p>	
<p>お名前：<u>岩槻 邦男</u>  <small>いわつき くにお</small></p> <p>出身市町：<u>市島町</u></p>	<p>主な役職：<u>東京大学名誉教授</u></p>
<p>メッセージ：          丹波の山奥は平安の時代からの伝統のある山奥で、そのころは飛騨や信濃は山奥であることさえ知られていませんでした。この名誉ある山奥の良さが、どこにでもある景色に塗り替えられるとはどういうことでしょうか。科学技術に従えば何でも良くなるという幻想があります。科学技術の限界を日毎見ている科学者のひとりとして、技術に依存することのもろさを思い出し、改めて、歴史と伝統のある山奥の豊かさ、美しさを賛美しています。</p>	
<p>お名前：<u>高見 幸子</u>  <small>たかみ さちこ</small></p> <p>出身市町：<u>市島町</u></p>	<p>主な役職：<u>スウェーデン野外生活推進協会リディング・イデオ支部副会長</u>  <u>ナチュラル・ステップ・ジャパン副理事長</u></p>
<p>メッセージ：          21世紀の課題は、環境に負荷を与えず、今も将来の世代も安心して健康かつ快適に暮らせる社会を築くことです。丹波には豊かな森があり、自然と調和させながら農業、林業、産業を発展させようと努力されている方々がおられます。持続可能な社会をどう築くかという今、全世界の国々が探し求めている知識と能力はそういった地にこそはぐくまれます。丹波のビジョンと可能性にぜひ自信を持って取り組んでいただきたいと思います。</p>	
<p>お名前：<u>大村 崑</u>  <small>おおむら こん</small></p>	<p>主な役職：<u>(社)喜劇人協会会長</u></p>
<p>メッセージ：          阪神・淡路大震災を経験して、太平洋戦争末期の神戸のひどさを改めて思い出しました。食料もなく神戸の人たちは、リュックに背広、着物、帯などを入れて担ぎ、米、麦、イモなどと物々交換のため満員の汽車にぶら下がり、丹波方面によく行ったものです。当時中学生の私も父と一緒に、一軒一軒廻りました。でも日によっては、何もない時もあり、畦道を腹をへらして歩きながら「何で、うちに田舎が無いんや！」と云うと、父は黙って下を向いて歩いていました。私その時から、いつか大人になったら、この丹波に田舎を作ろうと思いました。二年前、その田舎「崑の村」が出来ました。今一番落着く場所は「崑の村」の縁側で見る丹波の景色です。一度皆さん見に来てください。</p>	

このエールメッセージは平成11年12月から平成13年2月にかけていただいたものを掲載させていただきました。



お名前： <small>かつら ぶんちん</small> 桂 文 珍	主な役職： 落語家
出身市町： 篠山市	

[平成12年2月16日神戸市内にて]

18年間丹波に住んでいた。

50歳になって、安らぎや癒しを求めるようになってきた。

丹波のふるさと産品には、黒大豆、猪肉、キリイモ(山の芋)と誇れるものがたくさんある。

今、少子・高齢化問題が論議されているが、これらに対応するためには、安全、ゆっくり、のんびり、安心の考え方が大切である。

若い頃はスピード、効率性を大切にしてきたが、人は成熟してくると安心、ゆっくりを求めるようになる。

丹波は大都市近郊にありながら、手つかずの自然が残っており、秘境とも言える地域であることのすばらしさを従来から主張している。この田舎チックな地域を広めることを考えている。

北海道で遊休地を活用してパークゴルフ場を整備し、高齢者が利用している(土地を遊ばせず人を遊ばせる)。この結果、元気な高齢者が増え、医療費の減少に効果が出ている。このような発想のまちづくりが非常に重要であると考えている。

介護現場の問題が指摘されているが、介護現場に「笑い・ユーモア」を導入することがテーマではないかと感じている。する側、される側の双方に「笑い、ユーモア」のセンスがあれば、明るく心豊かな場所となり、介護のストレスが解消できる。古今亭志ん生師匠が介護を受けられていた時のことで、下を清潔にするため弟子にお風呂場に連れて行かれ、お尻をタワシで洗われた時に「俺はお地蔵さんではない」と言われたらしい。このようなユーモアある状況が介護現場では大切ではないか。

高齢社会を支えるため、若者が働き、税金をたくさん納めてもらう必要があり、働く場を十分に確保することが必要である。

(都会に対して)田舎という欠点をIT(情報技術)革命で解消する必要がある。

「インターネットたんば=IT」を進め、ホームページ等を利用し丹波から発信、アプローチする。安心、健康を売り物にする。物を買うことが消費者の中でレジャー化している。特産品の販売にインターネットと宅配便を使い流通コストを下げれば、丹波にチャンスが出てくる。大分県で1村1品運動が展開されているが、他の地域が何も工夫せず真似をすれば、「1村1貧」になりかねない。

丹波のイメージ戦略が大切。「ど田舎」、「手つかず」が高く売れる。最初はマイナスイメージをアピールしながらも本物を提供する姿勢も大切である。安心、安全、健康、ナチュラルの本物を売る。安い悪い主婦も買わない。また、作った人の顔の見えない商品等は売れない。消費者も簡便なインスタント食品と、手間と時間をかけた食べ物との使い分けをしている。安い物と高い物のどちらかを選択するが、中途半端な物は選ばれない。地域性、伝統、風土、人(教育、文化を持った人間)から安心が生まれる。

タキイの種屋が京都にあるのは不思議と思っていたが、内容をよく調べてみれば、種の交換をするために、人のよく集まる場所が必要であることがわかった。

バイオ、遺伝子、種子が今後発展する分野である。種子を征する者は世界を征するとも言われている。

商品には歴史、伝統が大切であり、丹波にチャンスがある。シリコンバレーは電子部品の開発で有名であるが、あれがワシントンのように中心地があれば優れた開発はできていないと思う。幕末の「薩長土肥」のごとく遠く離れたところから次世代を見つめることも必要である。ただし、人材の問題もあるが。

篠山の人目は目の前の儲け話に正直である。黒大豆は料理人の間では大変人気がある。黒大豆にウンチクをつければすごいことになる。特産品に付加価値をつける方法を検討する必要がある。よい物は高くても消費者は買う。商品登録を考えておくことも必要。

お話しいただいた内容を、事務局が取りまとめたものです。

## 2 姉妹提携・友好親善提携都市(海外)からのエールメッセージ

私は何度も丹波地域を訪問していますが、最初に訪れたときと比べると丹波地域も随分開発が進み発展しました。時の経過とともにまちが発展し成長していくことは良いことだと思いますが、その発展が単なる欧米化であってほしくはありません。丹波地域には素晴らしい伝統文化があると思います。例えば昔からのお祭りの中でも特に地域に密着したお祭り、あるいは丹波地域の随所で見られる伝統的な町並みといったようなもの、これらはほんの一部でしょうが、これからまちを成長させていくとき、将来だけを見るのではなく、自分たちが住んでいる地域をしっかりと見据え、過去から学びながら成長をしていっていただきたい。

そして、丹波地域が日本のリーダーとしての役割を果たし、丹波地域から日本が変わっていくような思い切ったことをしていただきたい。

ワラワラ姉妹都市委員会会長  
Del Kennedy (デル・ケネディ)

### 「21世紀の丹波の森づくりは森に親しむことから始まる」

日本の森には、神様が住むといわれ、森を散策して親しむことをあまりしないと聞いている。

誰もが森に入れるよう小さな道を作り、森と親しめば、森の大切さや環境の大切さが理解されていく。

21世紀の丹波の森づくりは森に親しむことから始め、丹波も私達と一緒に地球の森を大切に守って行ってほしいと希望している。

フォンテーヌブロー友の会理事  
フランソワ・ボー氏

平成12年7月7日、(財)丹波の森協会との友好親善  
提携調印時にフォンテーヌブローの森にて

20世紀は人間の生活に最も大きな変化があり、特に気候の変化が示しているように環境と自然にも大きな影響のあった時代として記録されることでしょう。

私たちは、健康的な環境の為に森の重要な役割を理解し、その保存に最大の努力を払わなくてはなりません。森は空気を浄化し、天候の安定をはかり、排気ガスを抑制します。勿論、森はその一助であり、気候の変化を止めることはできません。しかし、森のこの可能性を軽視してはなりません。

ウィーンの森にかなりの部分を占めているウィーン市ヒーティング区が丹波の森とパートナーであることは大変喜ばしいことです。

120年前にウィーンの森は産業地になっていたかも知れない危機がありました。現在、ウィーンの森は、森の各地に数多くの小規模な住宅や別荘ができてきていることや、自動車による大気汚染の危険に直面しています。この危険を抑える為、ウィーンの森を数百年来の文化地域として、また人気のある保養地域として保護・管理することを目的とする『ウィーンの森宣言』を決定しました。ウィーンの森を私たちが知っている、そして大切に思っている、そのまま存続させる、この努力が実ることを願っています。

森は私たち人間にとりまして最も重要な生活の基盤となるものです。森の保護と管理は私たちの主要な課題です。このお互いの共通の興味は丹波の森とヒーティングの友好により更に推し進められています。

ウィーン市13区長     ハインツ・ゲルストバッハ

私と妻は、ケント・柏原姉妹都市提携委員会の方々と共に、一昨年2月、厄神祭でにぎわう柏原町を訪れました。日本を訪問したのはこれが初めてです。この小旅行を通して経験したことは、町が清潔であることとお会いした人々すべてが非常に優しいことでした。もちろん、アメリカにはない日本の、いや、丹波の文化や伝統の一部に触れ、数々の感動を覚え、それらは今でも私や妻の脳裏に焼き付いてるほど強烈なものでした。一方、車窓やホテルの窓から見る田園風景は、ケント市のそれと大差ないものでした。

ところで、ケント市は、今世界の5都市（日本、ウクライナ、中国、ノルウェー、アイルランド）と姉妹提携を結んでいます。その中であって、ケントと柏原は30年になる一番古い姉妹都市でありながら、常に新鮮な関係を維持しているユニークな関係にあります。それは、8,000km以上離れたところに住む両土地の人々のお互いの心の中に、異文化を理解し合い、友好の輪を広げて行こうとする精神が旺盛だからだと考えます。

こうした友好の輪の広がり誇りを持つケント市民を代表して、このメッセージを送れることは、私にとって大変光栄なことです。最後になりましたが、丹波地域の今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

ワシントン州ケント市長     ジム・ホワイト

### 3 外国人住民からの意見・提案

#### (1) 暮らしの中で困っていることはありますか？

##### 生活環境

- ・寒い
- ・アパートが小さい(狭い)

##### 文化活動等

- ・どのように見つけたらよいかわからない。(情報が無い)  
カンサイタイムアウト(英語の情報誌)が神戸や大阪でないと手に入らない。  
英字新聞(ニューヨークタイムス、読売タイムス等)が好きなきときに手に入らない。(毎日読みたいわけではない)
- ・文化活動やレジャーの機会が少ない。

##### 病気等

- ・国民健康保険に加入することもできないので不安だ。(外国人教師の場合は保険に加入しているので問題ない。)
- ・病院で言葉が通じない

##### 町の案内や表示等

- ・表示が漢字である。(ひらがなやカタカナならまだ読める。ローマ字が一番わかりやすい。)
- ・大きな施設(スポーツセンター等)はローマ字で書いてあるが、地図などには外国語の記載がない。
- ・バス停やタクシー乗り場の表示がない。(乗り場がわからない)
- ・バスを降りるところがわからない。(大阪市バスでは英語の車内案内がある。)

##### コミュニケーション

- ・あいさつだけは交わすが、その後の会話は無い。

#### (2) 外国人としての偏見や差別を受けたことはありますか？

- ・「オ～外国人！」と指をさされる。
- ・工場で外国人労働者への注意書きで「毎日髪を洗うこと」と書かれている。(日本人向けには書いていないし、頭を洗わない習慣等はない。)
- ・(ブラジル人と結婚したが)結婚を周囲に反対された。
- ・姓が、外国人になったため、就職(アルバイト)を断られた。

#### (3) 県や市町の窓口で困ったことはありますか？

- ・言葉が通じない。
- ・外国語の案内表示がない。  
(外国人教師の場合、教育委員会の職員が一緒に行ってくれるので問題はない。)

( 4 ) これからも丹波に住みつづけたいですか？

はい

- ・丹波に住むのは楽しいです。ここにたくさんの友達があります。みなさんは親切でやさしいです。私はみなさんが好きです。だから丹波に住みつづけたいです。
- ・私の会社は丹波にある。そして、家の近くにスーパーがある。買い物するとき便利です。家の近くの人と会社の人はとても親切です。丹波はいいところですね。毎週木曜日は丹南公民館で日本語を勉強することができます。先生達も親切です。私はここが好きです。
- ・会社に近いし、毎週先生が日本語を教えてくれるし、先生も近所の人もみなやさしいから。
- ・もう、2年半中国へ帰っていないので、帰国したいがもうちょっと住みつづけたいです。
- ・大きな都市は住みにくいので、丹波に住みたいと思います。
- ・周囲が静かです。

半々

- ・帰りたいけど、実習がまだ続きます。みんな親切にしてくださるので、その答えは今困っています。
- ・丹波に住みつづけたいですけど国へ帰りたいです。だからこの答えはちょっと難しいです。

( 5 ) その他意見等

- ・もっと楽しい活動が欲しい。(映画館やボウリング場などの娯楽の場がない) 大阪や神戸に遊びに行っている。休日の楽しみがない。
- ・空港が遠い。
- ・ブラジル人が増えている。英語の表示はあるが、ポルトガル語がない。
- ・国際郵便の到着が遅い。日本だけではないが。
- ・車を買うのに、印鑑証明がとれない。(1人は、原付に乗っている。) 買えると思うが、くわしいことはわからない。
- ・殆どの人が優しい。(中古のビデオデッキをくれた。)

(注)平成12年1月25、26日に、日本語教室「うりぼう」に参加されている外国人住民の皆さんからいただいた意見・提案を事務局がとりまとめたものです。



## ( 1 ) 丹波の小学生アンケート結果

### 1 今住んでいるところのどんなところが好きですか。

1 番多かったのは、丹波地域の自然環境に関する回答で、自然が多い、緑が多いなどの意見が全体の約75%を占めた。特に篠山市では約85%の児童がこの意見をあげている。

2 番目の利便性については、コープやゆめタウンの建設によるもので、新井小学校(柏原町)では約半数が回答を寄せている。

3 番目には人とのつきあいができるとかいろんな人とふれあえるなど良好な地域コミュニティへの意見が続いている。

少数意見としては、有名な食べ物がある、事故が少ないなどがあり、地域全体が好き(篠山市今田地区・山南町)という意見もあった。

### 2 今住んでいるところのどんなところが嫌いですか。

意見の大半を占めたのは、店が少ない、遠くまでいかないとななどの不満と遊ぶところがないということであった。

次いでゴミのポイ捨て、川の汚れ、工事、騒音などの環境に関する意見が約27%を占めた。特に大山小学校(篠山市)、大路小学校(春日町)、久下小学校(山南町)にこのような意見が多かった。

また、蛇や蛙、蜂などの昆虫がいやとの意見も多かった。

少数意見としては、町が市になった、子供が少ない、人口が少ないなどの意見のほか給食がないとの意見もあった。

### 3 10年後のみなさんの夢をできるだけ詳しく書いてください。

問1、問2にみられるように環境保全と基盤整備の意見がそれぞれ4割強を占めている。自然がいっぱいやゴミの見あたらない町などの環境保全・地域美化の意見は大山小学校、大路小学校、鴨庄小学校(市島町)で目立ち、特に大路小学校は川をきれいにとの意見が多かった。一方、店や遊ぶところ、その他施設等が欲しいとの意見は、今田小学校、東小学校(氷上町)、神楽小学校(青垣町)に多かった。

今のままでよいという意見は約5%あった。

少数意見としては、国際交流のある町、高齢者や障害者へのバリアフリー、平和な町などがあるが、こんな町なくなればよいという意見も1件あった。

### 4 夢の実現のためにはどんなことをすればよいと思いますか。

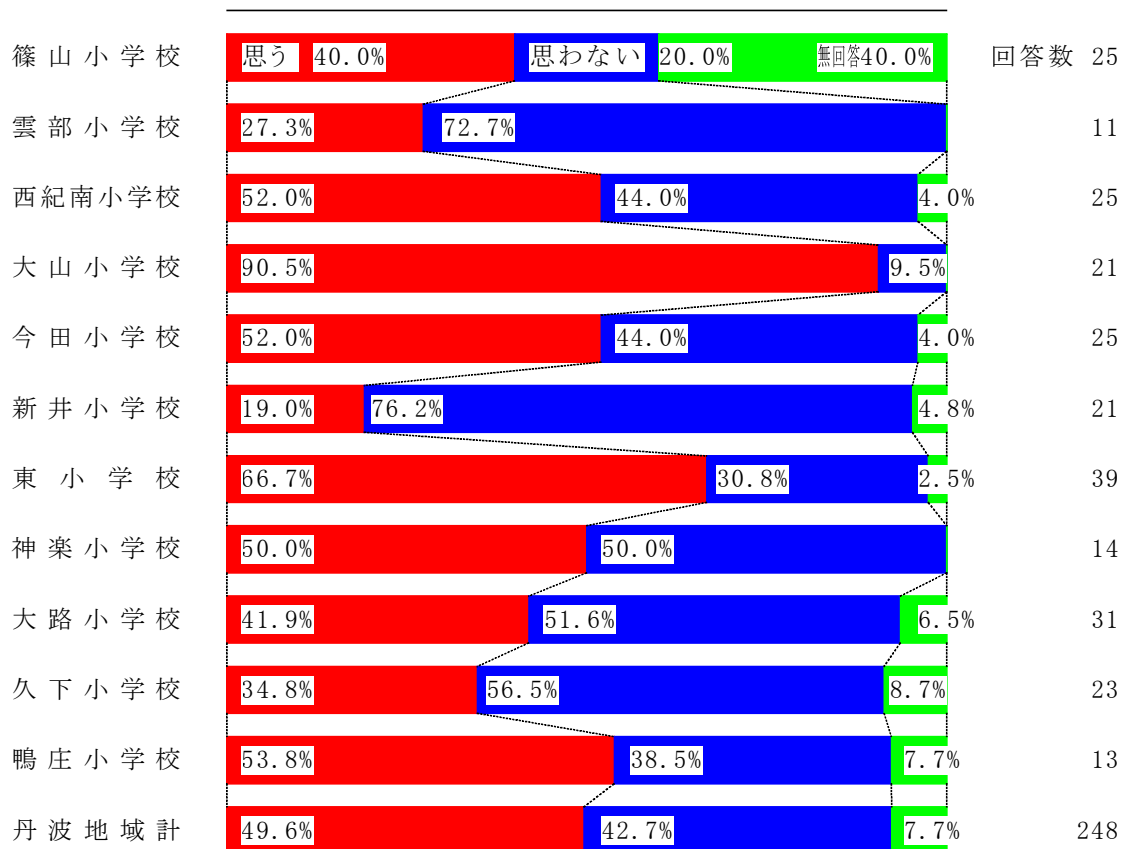
環境保全や地域美化の意見が約2/3を占めている。植樹やゴミのポイ捨て禁止、リサイクルの奨励のほか、天然ガス車や電気自動車の導入やクリーン作戦の日を増やすなどの具体的な意見もあった。

基盤整備については、約1割の意見があり、店や住宅、遊ぶところを作ってほしいという意見がほとんどであった。

次に、大人が自分勝手なことをしない、みんながあいさつをしあう、みんなで考えるなどの住民自身の取り組みに対する意見が多かった。

少数意見としては、もっと町のPRするとかや不要な建物等を取り壊すなどの意見があった。

5 10年後今住んでいるところに暮らしていると思いますか。



(1) 全体傾向

丹波地域全体では、約半数が10年後も暮らすとっており、思わないものを上回っているが、学校ごとによりばらつきがあった。

神楽小学校の50%を含め半数以上が将来も暮らしていると答えたのは6校であり、特に大山小学校では、21人中19人がこのように回答している。また、雲部小学校と新井小学校では7割以上の児童が暮らしていないと思うと回答しており対照的な結果となっている。

(2) 回答：思う

丹波地域に暮らしていると回答したもののうち約28%は住み慣れているとか、好きであるとか今まで住んできた地域への愛着によるものと考えられる意見となっているが、長男であるとか家の仕事を継ぐという意見、自然の豊かなところで住みたいという意見、その他の意見にほぼ4分されている。

ただ、その他の意見のなかには、なんとなくとか、たぶんといった漫然とした意見が多く含まれており、具体的な意見はあまりなかった。

(3) 回答：思わない

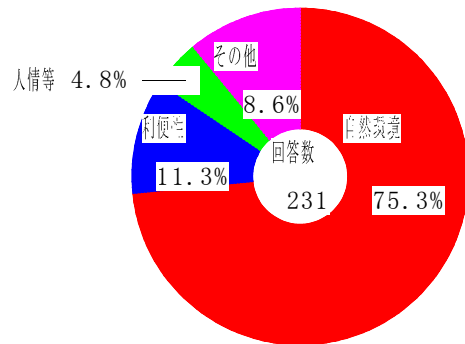
全体としては、都会志向が40%を占めている。ただし、都会だけでなく、他の地域に住んでいるという意見も多く含まれている。

次いで33.3%の児童が就職や進学をあげている。丹波地域には働く場所や大学がないためにこの意見が多かったようである。

その他の意見には、理由なしに一人暮らしをしている意見が多く目についた。



1 今住んでいるところのどんなところが好きですか。



〔主な意見〕

○自然環境

- ・他のところと違って緑がとても多いところ。
- ・星がきれいによく見える。
- ・自然や森や竹林が多いところ。
- ・生き物がたくさんいる。
- ・野性の動物が見れる。
- ・山があって、川があって、いろんな植物があること。
- ・川で泳げる。空気がいい。
- ・アマゴなどきれいな川に魚がいる。
- ・自然の中で遊ぶところがある。
- ・近くに自然公園がある。

○利便性

- ・家から学校までが遠くない。
- ・コープ、ゆめタウンがある。
- ・遊ぶところが多い。
- ・店が意外とある。

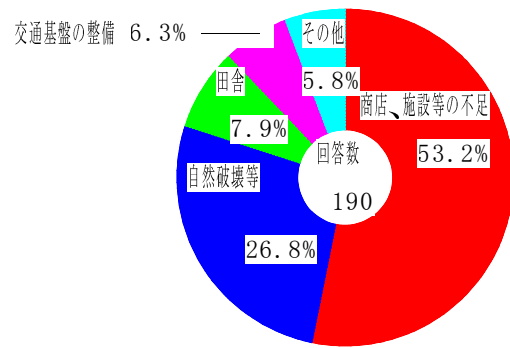
○人情等

- ・人と人との付き合いができる。
- ・いろんな人と一緒にふれあうことができるところ。
- ・部落の人がいろいろしてくれる。(お祭りや行事)
- ・みんなと協力できる。

○その他

- ・有名な食べ物とかがある。
- ・都会でも田舎でもない。
- ・住みやすく静かなところ。
- ・事故が少ない。
- ・平凡であり事件がない。
- ・車があまり通らない。

2 今住んでいるところのどんなところが嫌いですか。



〔主な意見〕

○商店・施設等の不足

- ・ 大きなデパートやマーケットがないところ。
- ・ 公園とか遊ぶところがない。
- ・ 中学、高校が遠くにあること。
- ・ 動物園、病院、本屋等がない。

○自然破壊等

- ・ 自然が減っている。
- ・ たばこの吸殻やゴミがたくさん落ちている。
- ・ 川にいっぱいゴミが落ちている。
- ・ 近所の人ゴミを燃やす。

○田舎

- ・ 蛙が多い。虫が多い。
- ・ 肥やしの匂いが臭い。
- ・ 田舎でも都会でもなく中途半端である。
- ・ 自然が多すぎる。

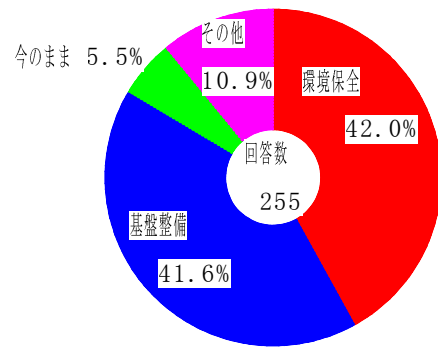
○交通基盤の整備

- ・ 街灯が少ない。
- ・ 交通が不便なところ。
- ・ 道がガタガタなところ。
- ・ 不便なところ（バスの便が少ない。）。

○その他

- ・ 変な人がよく出るところ。
- ・ 町が市になってしまったところ。
- ・ 部落にもうちょっと子供がほしい。
- ・ 住んでいる人が少ない。
- ・ 交通事故が多い。
- ・ 給食がない。

3 10年後のみなさんの夢をできるだけくわしく書いてください。



〔主な意見〕

○環境保全

- ・車を天然ガスにして篠山市を美しくきれいな所にした。
- ・建物より森林のたくさんある町。
- ・自然のことをみんなで考えて行動する人ばかりになればよい。
- ・動物がいっぱい増えたらよい。
- ・自然が増えていて、ポイ捨てがないようなまち。
- ・花がたくさん咲いている町。

○基盤整備

- ・大きな工場ができたらよいと思う。
- ・公園や遊ぶところをもっと増やして悪い人がいない町。
- ・店が多くなるのがよい。
- ・大きいスーパーがあるまち。
- ・交通面が便利になればいい。
- ・新幹線が走るようにすれば…。

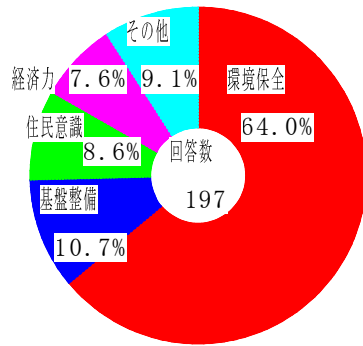
○今のまま

- ・今と変わらず、山や緑が多く、捨ててあるゴミが少ない町。
- ・別にこののままでいいけど、もう少し人口が増えてほしい。
- ・今と似ていてほしい。

○その他

- ・事故や差別のない町になっているとよい。
- ・信号をつくって車を止めて楽に横断歩道を渡らせてあげたい。
- ・おじいさんやおばあさんたちが安心して外に出られるようになってほしい。
- ・国際交流のある町。
- ・車椅子の人、障害者の人にも優しく協力する。
- ・差別がなく、平和な町。
- ・交通事故が無くなって、みんな仲良く遊ぶ兵庫県になってほしい。
- ・もっと広がってほしい。
- ・不景気になっていない。
- ・こんな町なくなればよい。

4 夢の実現のためにはどんなことをすればよいと思いますか。



〔主な意見〕

○環境保全

- ・ 資源の無駄遣いをなくし、排気ガスなど自然を害するガスをできる出けださない。
- ・ 温暖化、砂漠化などの原因となることをやめる。
- ・ 木を植えたり緑の運動をする。
- ・ ゴミのポイ捨てをしないようにする。
- ・ 「篠山市にいる動物」という動物園を作ったりしたらよい。
- ・ 川、森林等をこわさないように守る。
- ・ 自然は絶対に壊さない。
- ・ 下水処理場をもっと早くつくる。
- ・ 工事や山崩しをできるだけしないようにする。

○基盤整備

- ・ スーパーとかデパートを建てる。
- ・ 工事をする。
- ・ できるだけ大きな工場をつくる。
- ・ 若い人が都会に行かなければよい。

○住民意識の向上

- ・ 人が人に対しての思いやりを持って安全運転をする。
- ・ 大人が自分勝手なことをしない。
- ・ みんながあいさつをしあう。
- ・ みんなが協力しあう。
- ・ 住んでいる人へ呼びかける。

○経済力

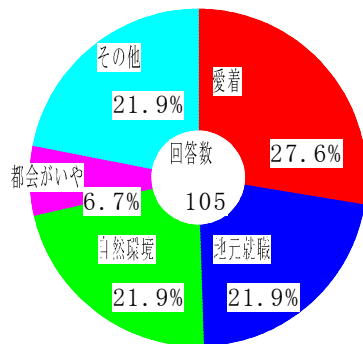
- ・ 町がお金を貯める。
- ・ 変なものをつくらない。

○その他

- ・ 潰れていたりいらなくなった建物を潰して広くする。
- ・ 町のPRをする。
- ・ 犯罪をなくす。
- ・ 今と同じ生活をすればよい。

5 10年後今住んでいるところに暮らしていると思いますか。

(1) 回答：思う



〔主な意見〕

○愛着

- ・ずっとずっと住み慣れているから。
- ・この土地を離れたくないから。
- ・いま住んでいる町が大好きです。
- ・居心地がいいから。
- ・きっと賑やかになっているから。
- ・ここで暮らしていていやでないから。

○地元就職

- ・自分の店で働きたいから。
- ・自分の家を守るから。
- ・長男だから。
- ・お父さんの仕事を受け継ぐから。
- ・家からどこかへ通うから。

○自然環境

- ・篠山のほうが、大阪より空気がいいから。
- ・緑が多くて空気がよい。
- ・家が森の近くで、川があって、自然がたくさんあるから。
- ・緑を守っていききたいから。
- ・川で釣りをしたいし、緑がすきだから。

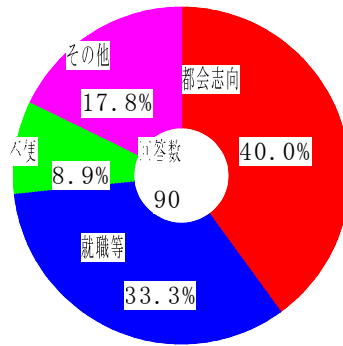
○都会がいや

- ・人とのつきあいができる。
- ・人の多いところが嫌いだから。
- ・都会のほうは空気が汚いし、うるさい。
- ・都会はきらいだし、ここはのんびりしているから。

○その他

- ・なんとなく
- ・その時になってから決める。
- ・都会は土地が高いから。
- ・ちがうところに行くのがめんどくさいから。

(2) 回答：思わない



〔主な意見〕

○都会志向

- ・大阪が好きだから引っ越すと思う。
- ・東京の渋谷に住んでみたいから。
- ・海がある外国に行きたい。
- ・首都に行って仕事。
- ・店がいっぱいある所に住みたいから。
- ・高級マンションに住む。
- ・都会に住みたい。
- ・篠山も好きだけど、ほかに住んでみたいところがある。
- ・将来の夢があるから、住んでて便利なところを探す。

○就職・結婚・進学等

- ・好きな職業に就いているからたぶん独り暮らしをしている。
- ・学校の寮に入っているから。
- ・都会に出て仕事をするから。
- ・働くところがないから。
- ・留学して外国人と結婚したいから。
- ・獣医になりたいのでその勉強がしたいので。
- ・病院の看護婦になってちがうところに住んでいると思う。
- ・おばあちゃんの家跡継ぎをしなくては行けないから。

○不便

- ・交通とかデパートがないから。
- ・大きな病院もなくて不便なところに住むと大変だから。
- ・田舎すぎる。

○その他

- ・一人暮らしをしている。
- ・よくわからない。
- ・一人で住んでみたいから。
- ・この町から出たい。

## ( 2 ) 丹波の中学生アンケート結果

### 1 今住んでいるところのどんなところが好きですか。

1 番多かったのは、丹波地域の自然環境に関する回答で、自然が多い、緑が多い、空気がおいしいなどの意見が全体の7割を超えていた。

次の雰囲気についても、静かとか、田舎っぽいとかの意見が多く、豊かな自然を背景としたのどかなところというイメージでみている。

3 番目には利便性と特産品等があるというのが同数であった。交通が便利である、遊ぶところがあるとの意見がほとんどであるが、具体的な意見としてはコープやゆめタウン、ローソンがあげられている。また、特産品についても、野菜や黒大豆などの農産物のほか、今田の立杭焼、山南の薬草もそれぞれ一人ではあったがあげられていた。

他には、あいさつができるとか近所同士のつきあいがあるなどの良好な地域コミュニティや事件がないなど安全性の意見があった。

### 2 今住んでいるところのどんなところが嫌いですか

半数以上の生徒がデパートなどの大型店舗がないとか、家の近くに店がないなどや、映画館や遊園地など遊ぶところの少なさに不満を持っていた。また、学校が遠いとか少ないとかの意見もいくつかあった。

次に、交通基盤でバスや電車の少なさと道路の狭さ、信号の少なさ等からの危険性の声があるとともに、青垣や今田からは駅がないとの不満があった。

また、田舎すぎるとの意見と、開発や川の汚れ・ゴミのポイ捨てを危惧する声や、篠山市の合併や地域コミュニティ、山南町の2中学の統合などの意見があった。

### 3 10年後のみなさんの夢をできるだけくわしく書いてください。

問2 の不満がそのまま夢につながったようで、商店や娯楽の場の建設等を求める声が約2/3を占めた。そのうち約24%は自然を残すこと等の条件をつけており、問1のように好きな自然は守りたいとしている。

また、豊かな自然を残すべきなどの意見が20%あり、上記の物と併せると約36%の生徒が自然環境に夢を持っている。

少数意見としては、今のままで変わらないほうがよいという意見が約5%あるほか若者からお年寄りまでが一緒に住めるような地域コミュニティを求める声や、バリアフリー、安全・安心に関する意見があった。

### 4 夢の実現のためにはどんなことをすればよいと思いますか。

問2、問3 に比べて、環境保全に対する意見が約34%となっている。内容的には、森林や山などの自然保護とゴミのポイ捨てやリサイクル、排気ガスの抑制など住民一人ひとりが取り組んでいく環境保全の意見とに二分された。

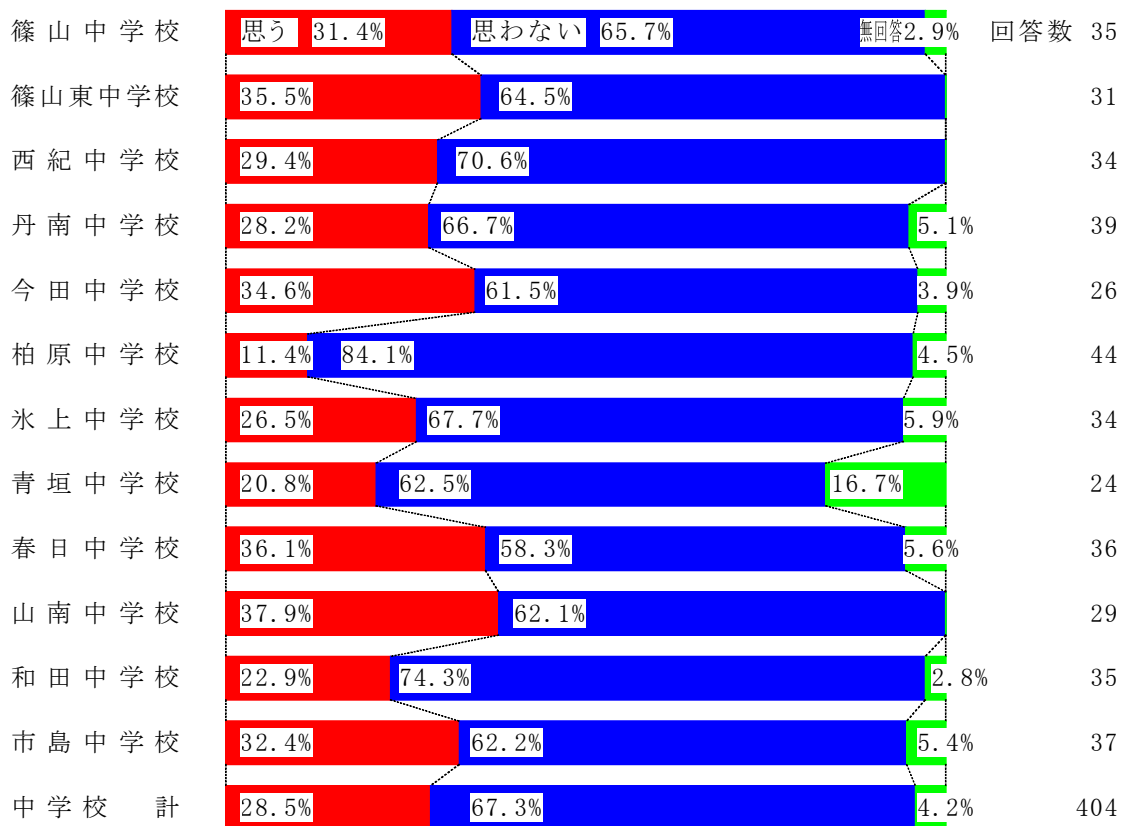
一方、基盤整備の充実では人口を増やすような意見が多いが、なかには田んぼを少なくするとか、山を切り開くとかの意見も含まれている。

また、丹波地域をよくするためには、住民が自ら行っていくこと、みんなの総意で進めていくこと等の意見が続いている。

基盤整備に関連して、お金を貯めるなど地域の経済力を高める意見も約8%あった。

少数意見としては、他町との合併、他地域のよいところを真似るがあり、特に何もしないという意見も5件あった。

5 10年後今住んでいるところに暮らしていると思いますか。



(1) 全体の傾向

篠山市と氷上郡では共に30%前後の生徒が10年後も暮らしていると思うと回答している。篠山市では丹南中学校が平均をやや下回るだけであるが、氷上郡では半数以上が平均を下回っている。特に柏原中学校では約1割、青垣中学校と和田中学校では約2割の生徒しか残らないと思うと回答している。同じ山南町内の山南中学校では約38%の生徒が暮らしているとしており一番の高率となっている。

(2) 回答：思う

全体の回答のうち約30%が丹波に住み続けていると回答している。

そのうち4割強が丹波に対する愛着を持っている。

また、就職等で残るとする者のうち、長男であるとか、家を継ぐとかいう意見が約74%を占めている。この意見は都会がいやとか丹波地域の自然を愛するものと同じ数ぐらいの割合となっている。

少数意見としては、何となくとか、もう少し都会になっていけばという条件のついたものがある。

(3) 回答：思わない

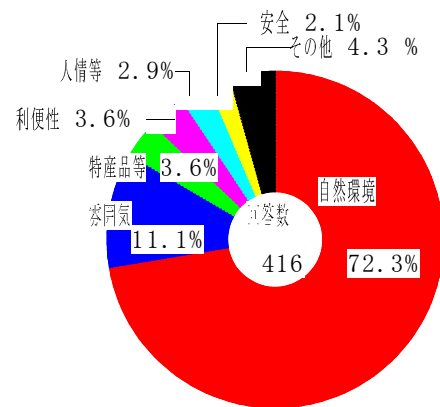
都会への願望がいちばん多く約34%の生徒が回答している。3番目に多かった丹波地域の不便さと合わせると、約55%と半数以上の生徒が都市部の利便性を求めていることになる。

2番目には就職・結婚等が約25%を占めていた。

あとの意見は、何となくなどの漫然とした意見や将来がはっきりしていない意見であった。



1 今住んでいるところのどんなところが好きですか。



〔主な意見〕

○自然環境

- ・ 自然がすごくたくさん残っていて、すごく大好き。
- ・ 緑が多いところと、都会に比べて空気がきれいというところ。
- ・ 山に囲まれているから木の葉の四季のわかる様子。
- ・ キツネや狸や鹿とかも見られる。

○雰囲気

- ・ 静かでのんびりしている。
- ・ ゆったりとした雰囲気。
- ・ いなかつぽいところ

○特産品等

- ・ 野菜や栗、黒大豆がおいしい。
- ・ 秋になったらいろんな食べ物ができる。
- ・ 立杭焼

○利便性

- ・ 交通が便利であるところ。
- ・ 店がいっぱいあるところ。
- ・ 遊べるような広いところがたくさんある。

○人情等

- ・ 祭りなどにとっても気合いがはいる。
- ・ 笑顔が多い(あいさつするときなど)。
- ・ 何か困っていると助けてくれる。

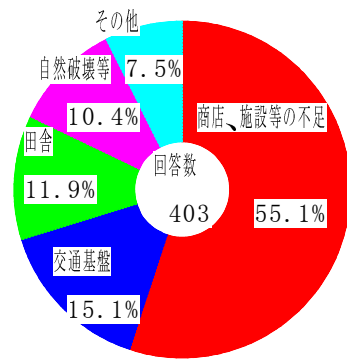
○安心

- ・ 事件があんまりない。
- ・ 車があんまり通らない。
- ・ 平和なところ。

○その他

- ・ 歴史を感じさせるものがある。(木の根橋、長屋門)
- ・ 昔、部落差別に立ち向かい村をよくしていった。

2 今住んでいるところのどんなところが嫌いですか。



〔主な意見〕

○商店・施設等の不足

- ・ 店があまりないことと、遊ぶところがないこと。
- ・ デパートとかがないので、欲しいものがすぐに手に入らない。
- ・ 学校が少ないので学校を選べない。

○交通基盤

- ・ 電車に乗るにしてもちょっと遠すぎる、バスも少ししか通っていない。
- ・ 街灯が少なすぎるので夜危ない。
- ・ 歩道が少なく危ない。
- ・ 信号が少ない。

○田舎

- ・ 山や森ばかり。人が少ない。
- ・ 虫が多い。
- ・ 全然発展していない。
- ・ 田舎臭い。

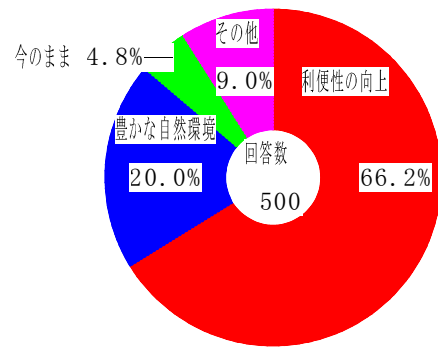
○自然破壊等

- ・ 道などに空き缶やゴミが捨ててある。
- ・ 住宅がたくさんできて、山が切り開かれたりしている。
- ・ 変に近代的というか、環境を考えずに高速道路ができたりする。
- ・ 工事ばかりある。

○その他

- ・ 観光客向けのところが増えていて、商品も特産品ばかりである。
- ・ 村の人が口やかましい。
- ・ 雨がよく降る。寒い。
- ・ 障害者やお年寄りが使いやすいところが少ない。
- ・ 篠山市になったこと。
- ・ 封建的な考え方が残っている人が多い。
- ・ 祭りとかの行事に真面目に参加しない。

3 10年後のみなさんの夢をできるだけくわしく書いてください。



〔主な意見〕

○利便性の向上

- ・ 緑が減らずに交通手段がしっかりしてればよい。
- ・ 病院や、老人施設、デパートもいっぱいある町。
- ・ 図書館、プールなどができて、飲食店などが増えてほしい。
- ・ 自然はいっぱい、店が建ち並んで、活気に満ちている町がいいです。
- ・ 道路整備もする。歩道もつける。
- ・ 交通をよくして、都会のほうに気軽に行けたらいいと思う。
- ・ 柏原市がいい。

○豊かな自然環境

- ・ いまある自然がなくなならないように森林など緑があふれる町になったらいい。
- ・ 自然を破壊せず、人々の暮らしにあった豊かな町。
- ・ 木を植え、空気の汚れていない町。
- ・ 道筋にゴミとかが少しも落ちていない町。
- ・ 地域みんなで掃除してきれいな町。
- ・ 自然と文化が調和した町。

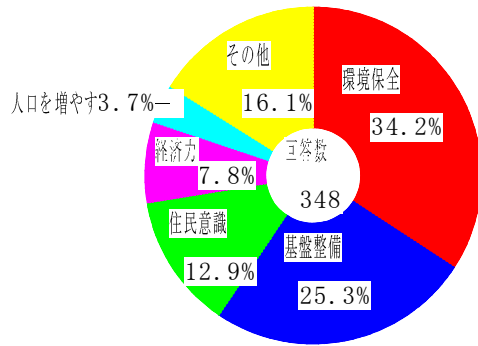
○今のまま

- ・ 今のままでいいが、ゴミのことや道をもっときれいに。
- ・ 10年後はこのままでいい。ただ普通の道の幅を広くしてほしい。

○その他

- ・ お年寄りや障害を持つ人が楽しく暮らせる町。
- ・ もっと行事を増やすとかしてほしい。
- ・ 大人から子供までがみんな気安くしゃべれる所。
- ・ 何も事件がなく、お年寄りから子供までが安心して暮らせる町。
- ・ もっと有名な「篠山市」をアピールする。
- ・ 選挙をするとき皆が投票するような町。
- ・ 差別が無くなっていること。
- ・ 観光客をいっぱい呼んで文化に富む町。
- ・ 都会から帰ってきた人にゆとりと懐かしさを与え、体を休めるようなところ。
- ・ 年寄りが多くなっているので施設をつくる。

4 夢の実現のためにはどんなことをすればよいと思いますか。



〔主な意見〕

○環境保全

- ・リサイクルやポイ捨てをやめるなど一人ひとりが気をつける。
- ・天然ガス自動車や電気自動車をもっといっぱい作る。
- ・動物を守るため、山を削らない。
- ・自然を壊さず、自然を利用したらよい。
- ・緑を増やすため、みんなが木を植えたり花を植えたりすればよいと思う。

○基盤整備

- ・古くなった建物を壊して違うものを建てる。
- ・階段しかないところにスロープやエレベーターを設置する。
- ・ショッピングセンターなどをつくる。
- ・ただむやみに都会みたいにするのではなく、丹波らしい発展の仕方を考える。
- ・都会になるように、遊園地とかをつくってほしい。

○住民意識の向上

- ・みんなへの呼びかけが大切だと思う。
- ・自分たちがもつと自分たちの「まち」を知ることが大切だと思う。
- ・地域の人たちと協力する。
- ・町民全員が話し合い、そこからいい意見を取り上げる。
- ・町が町民の声を聞き変えていく。

○経済力

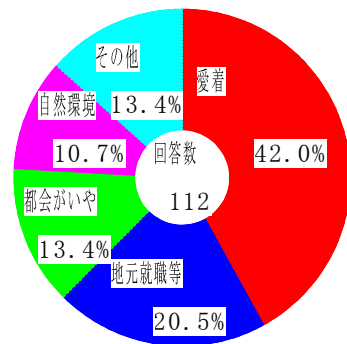
- ・税金を大切にする。
- ・無駄なお金は使わない。

○その他

- ・もっと篠山の特産物などを宣伝したらよい。
- ・町の知名度を高める。
- ・デカンショだけでなく、もっと祭りを。
- ・他の町と合併する。
- ・いろんな町にいいところを取って丹波でも同じことをする。
- ・「老人福祉」に力を入れていく。
- ・今のままでいい。

5 10年後今住んでいるところに暮らしていると思いますか。

(1) 回答：思う



〔主な意見〕

○愛着

- ・この自然が好きだし、あまり他の町へ行きたくないと思っている。
- ・篠山が好きだから。
- ・自分の住み慣れたまちだから。
- ・とてもよい町だし、とても気に入っているから。
- ・父母と楽しく過ごしたいから。

○地元就職等

- ・長男だから。
- ・家を守ります！
- ・婿養子になるから。
- ・この町の仕事を選ぶと思うから。
- ・中学校の先生になったら氷上郡内でいたいから。
- ・家を継ぐから。

○都会がいや

- ・あまり大阪などの大都会に住みたくないから。
- ・都会は嫌いだから。
- ・都会は住み慣れないと思う。
- ・都会のように窮屈なところは嫌だから。
- ・人が多くて空気が汚いし、ここにのんびり住んでいると思う。

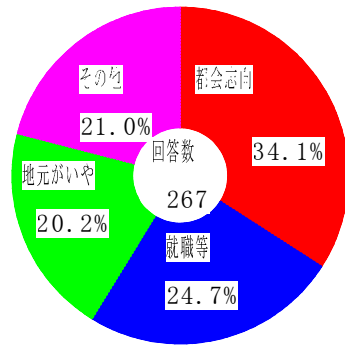
○自然環境

- ・静かで空気もいいからたぶん住んでいる。
- ・自然がいっぱいあるから。
- ・自然に一生包まれて暮らしたい。
- ・環境が好きだから自分の畑や田んぼで野菜や米を作りたい。

○その他

- ・どこにも行くところがないから。
- ・どこにも行きたくないから。
- ・特に理由はありません。
- ・何となく。

(2) 回答：思わない



〔主な意見〕

○都会志向

- ・ 都会暮らしがしたいから。
- ・ 発達している大阪などに行きたい。
- ・ 都会に憧れて、いまいるところにはいない。
- ・ 都会に出て自分のやりたい夢を実現できるように頑張っている。
- ・ 都会のほうがいいろいろ体験できるから。
- ・ 夢がいっぱいあるから、親が反対しても都会に行っている。

○就職・結婚・進学等

- ・ 就職してこの町にはいないと思う。
- ・ 結婚して他の場所に住む。
- ・ 職業で本当にしたいところに行きたいので。
- ・ 大学に行くため。
- ・ 自分のしたいことが出来るところに行っている。
- ・ 仕事と勉強のため都会に住みたいから。

○地元がいや

- ・ 会社とか仕事場とかが限られる。
- ・ 10年後もこんな町ならば不便だし、面白くないから。
- ・ あまり遊ぶところがないし、都会で住んでみたい。
- ・ 今のままだと住んでいない。
- ・ 不便だから。
- ・ 今住んでいるところが好きでないから。
- ・ 職場がないから。

○その他

- ・ もっと日本を知りたい。
- ・ なんとなく。
- ・ いろいろなところを旅して、見てまわって、いいと思うところに住みたい。
- ・ 引っ越すから。
- ・ 次男だから。
- ・ 県外に家を建てたいから。

### ( 3 ) 丹波の高校生アンケート結果

#### 1 今住んでいるところのどんなところが好きですか。

1 番多かったのは、丹波地域の自然環境に関する回答で、自然が多い、緑が多い、空気がきれい、水がおいしいなどの意見が大半を占めていた。また、夜は星がきれい、虫や動物がいるなどのことをあげている回答も見受けられた。

2 番目の丹波地域の雰囲気は、静かとか、のんびりしている、のどかなどのイメージでみている。

3 番目には人情や人間関係が近所づきあいや気軽に挨拶ができるなどのコミュニティがとれているところと、温かい人柄や優しいなど丹波人の人間性が好まれている。

ほかには、食べるもののおいしさを魅力としてあげるものや、福知山線の篠山口までの複線化や、ロードサイドを中心に進出している商店など利便性の向上と反対に交通量が少ないから安全であるという意見もある。

#### 2 今住んでいるところのどんなところが嫌いですか

意見の大半を占めたのは、店が少ない、遠くまでいかないとななど、すぐにほしいものが手に入らない不満と、電車やバスの便数の少なさ、街灯がないとかでこぼこ道などの普段通っている道路に対する不満であった。

また、それに関連して、田舎で静かなのがいやとか、虫が出るとかの意見も多かった反面、交通量の増加に伴う騒音や増えつつあるゴミに対する意見も多かった。

少数意見としては、地域のコミュニティの煩わしさ、寒い気候、行政に対する不満がある。

ただ、2.3%ではあるが、不満がないとの意見もあった。

#### 3 10年後のみなさんの夢をできるだけくわしく書いてください。

問2の意見にみられるような、交通基盤の整備と商店などの増加などの日常生活での利便性の向上を求める声が半数以上を占めた。ただしそのうち30.5%は、自然を残しつつなどの条件が付けられており、ただ単なる開発でなく、自然との調和が求められている。

また、現状で満足している意見が約10%を占めている。

若者の定着やこれから迎える高齢化、少子化に対する夢もあった。

少数意見では、バリアフリーなど高齢者や障害者、外国人などが住みやすくコミュニティのある町を目指す意見もある。

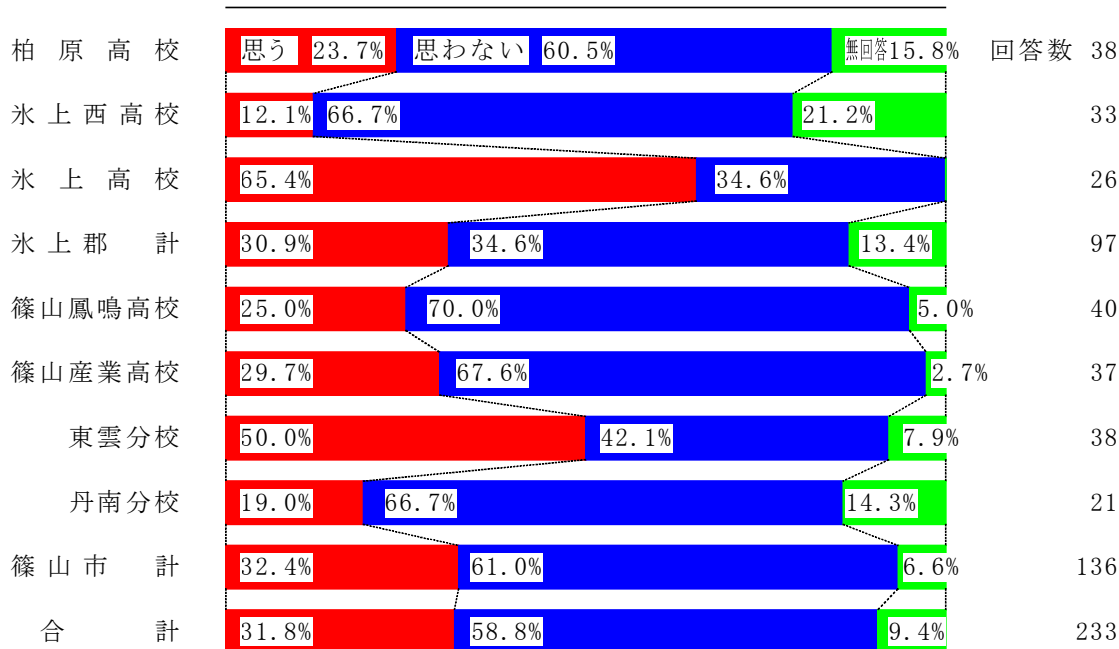
#### 4 夢の実現のためにはどんなことをすればよいと思いますか。

基盤整備や利便性の向上が一番多く、次に自然の保全や環境美化などが多いのは上記回答からも察せれるが、そのためには、住民一人一人が何ができるかを考えるのが必要であるとの意見がそれに続いた。

地域の活性化のためにも若者の定住など、若者人口をいかに増やしていくかを危ぐする意見もある。

また、丹波地域のPRをいかに行うかとか、今のままでいいかがそれぞれ5%を占めるほかは、抽象的な意見で特に方向性がみられるものはなかった。

5 10年後今住んでいるところに暮らしていると思いますか。



(1) 全体の傾向

10年後に丹波に住んでいると思うと回答したのは全体の31.8%で3分の2以上が将来丹波地域から出ていくこととなる。

ただし、思うと回答したもののうち約23%は「何となくとか」の意思がハッキリしておらず、これらを除くと24.5%と4分の1しか残らなくなる。

篠山市と氷上郡では共に30%強と同じぐらいの割合であるが、氷上郡側では2校、篠山市側では3校が将来丹波地域には残らないと思う意見が6割を越えている。特に篠山鳳鳴高校ではその割合が7割に達している。

一方、篠山産業高校東雲分校では半数の生徒が地元に残ると回答しているほか、氷上高校では約65%の生徒が、丹波に住んでいると思うと回答し、上記の5校とは対照的な結果となっている。

(2) 回答：思う

全体の回答のうち約35%は丹波に住み続けていると回答している。

そのうち約38%は丹波に対する愛着や家族と住みたいという願いである。

また、地元就職を希望している生徒も約16%ある。丹波の自然を愛する者も約12%ありこれらも地元に対する愛着と考えられる。

ただ、特に理由がなく、何となく住んでいるだろうと言う意見も約23%あった。

(3) 回答：思わない

一番多い意見は、進学、就職、結婚などで帰ってこないという意見が約40%あり、若者人口の増加を図るための課題が出ていると思う。

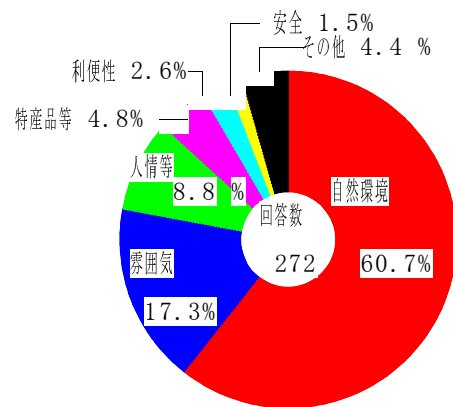
次に、問2のように不便を感じている者が多いせいか、都会の利便性や華やかさに惹かれる意見も約27%を占めた。

また、丹波の地域性、立地性、などから他のものを求めるものもある。

少数意見としては、あてはないものやなんとなくという理由のないものや思いこんでいるものも含まれている。



1 今住んでいるところのどんなところが好きですか。



〔主な意見〕

○自然環境

- ・ 自然がたくさんある。色々な種類の鳥がいる。
- ・ 家にクワガタ、カブトムシ、蛍が飛んでくる。きつねも子連れでいる。
- ・ 空気がきれいで、緑がたくさんあるところが好き。

○静囲気

- ・ 静かである。
- ・ 社会のスピードがのんびりしている。せかせかしていない。
- ・ のどかに暮らせるところが好き。

○人情等

- ・ 地域の行事が多く、みんなと仲がいいから。
- ・ 知らない人とでもあいさつが交わせるところ。
- ・ 町ぐるみの協力とかがけっこうできていると思う。

○特産品等

- ・ 季節の美味しいものがたくさんとれるところ。
- ・ 有名なものがたくさんあること。(黒大豆、栗、マツタケ、etc)
- ・ 地元の食べ物が多い。

○利便性

- ・ 最近では店もできて、とても住みやすいところになった。
- ・ 大阪などに近い。駅、高速道路がある。
- ・ コンビニや駅までの距離が短い。

○安心

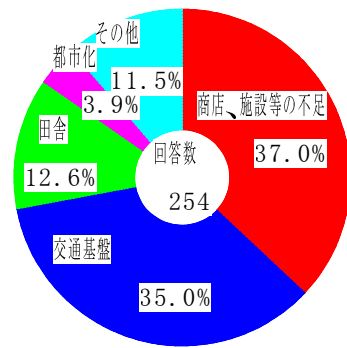
- ・ 車があんまり通らない道などがあり、安全に通学できること。
- ・ 近代化があまり進んでいないこと。
- ・ 遊べる公園が多い。

○その他

- ・ 昔のような町並みが残っているところ。
- ・ 人が少ない。
- ・ 土地が広い。

・ ゆめタウンがある。年輪の里がある。

2 今住んでいるところのどんなところが嫌いですか。



〔主な意見〕

○商店・施設等の不足

- ・店の数が少なく、店に行くのに時間がかかる。
- ・遊ぶところと公園と大きな図書館がない。
- ・店がかたまっていたり、なかったりと差がある。
- ・若者向けのレジャースポットがない。

○交通基盤

- ・電車やバス、タクシーが少なくて交通に不便なときがある。
- ・街灯が少ないから、学校帰りに遅くなると困る。
- ・歩道のないところがあって自転車に乗っていると危ない。
- ・でこぼこ道

○田舎

- ・田舎すぎる。
- ・虫が多い。熊が出る。野生の動物がよく出る。
- ・人が少ない。
- ・静かすぎる。

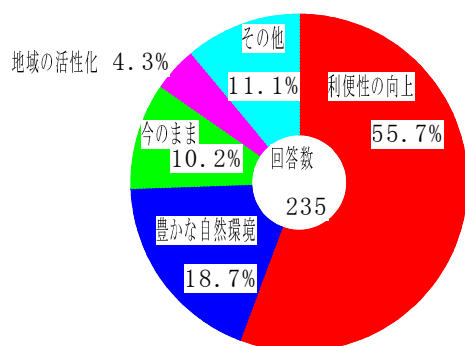
○都市化

- ・自然がむやみに破壊されている。
- ・車の排気ガスやバイクの音。
- ・だんだん都市化しているところ。
- ・人(家)が密集している。

○その他

- ・秋から冬にかけて沢山の霧が出るから通学しにくくてきらい。
- ・町政に納得がいかない。町議会が保守的すぎるように感じる。
- ・過疎化している。老人が多い。(若者が少ない。)
- ・道に堂々と捨てられているゴミのあるところ。特に峠など。
- ・近所との結びつきが多いこと。
- ・特にない。

3 10年後のみなさんの夢をできるだけくわしく書いてください。



〔主な意見〕

○利便性の向上

- ・ 駅の数が増えて、電車の本数が増えている。もっとバスが通っている。もっといっぱいのお店が増えている。
- ・ 福知山から篠山口までが複線。便利。街灯がついて道が明るくよく見える。
- ・ 自然はいっぱい、店が建ち並んで、活気に満ちている町がいいです。
- ・ あらゆるところに図書館や大きめの公園等、みんなが利用できる施設を作って、かつ昔の建物も残して。いろいろな意味で整った町になってほしい。

○豊かな自然環境

- ・ 自然は残しつつ、もっと住みやすい街にしてほしい。公園とか道、駅にもっと季節の花を植えたりしたい。
- ・ 自然と人が共存できるような町になったらよいと思うし、自然から離れていく若者がこの町に来てくれるようなレジャースポットを作れたらいいと思う。
- ・ 緑がたくさんあったり、ゴミの少ないきれいな町になったらいいと思う。

○今のまま

- ・ できれば今とあんまり変わりなく、遠いところに住んで帰ってきたときにホッとするような町であってほしい。
- ・ 今のままがいい。自然がいっぱいあって、水がおいしいまちでいてほしい。

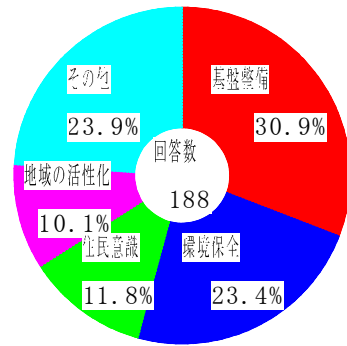
○地域の活性化

- ・ もっと若い人が増えていろいろな行事などを増やして、観光客の人にも見に来てもらう。
- ・ 今、田畑を売って農家をやめる高齢者が増えてきたので、若いもんが、それを継いで、田畑や緑を増やしたい。
- ・ この辺りは、仕事がないので、パートとかじゃなくて就職できる企業などがもっと増えると仕事も増えていいと思う。

○その他

- ・ 人と人との関係が良く、協力しあえるまち。
- ・ 歴史的な建造物などをもっときれいに復元させたりして歴史を感じる町。
- ・ 外国人の方が住みやすい町。

4 夢の実現のためにはどんなことをすればよいと思いますか。



〔主な意見〕

○基盤整備

- ・ 店などをもっと近くに建ててほしい。車を持っていない人のために。
- ・ 映画館や遊園地などの施設を作る。コンサートとかが開けるホールを作る。
- ・ 道路をきれいに整備する。電車をどの町にも通す。
- ・ 道路工事。これに関しては、将来まで考えて計画をしっかりと立て、早く取りかかってほしい。

○環境保全

- ・ 一人一人が自然の大切さを知らない。田舎の人は田舎心のままであればいいの。
- ・ 木を増やす。コンクリートを減らす。
- ・ 山や田畑をつぶして建物を建てるのではなく、使われていない土地を利用する。
- ・ 自然を壊さずに、うまく山を利用する。
- ・ ゴミのポイ捨てをやめ、緑を残すと良い。

○住民意識の向上

- ・ 自分のことばかり考えていないで、みんなのことも考える。
- ・ もう一度地域を見直し、何が必要か不要か考える。
- ・ いけない所はおおいに反対して、よい所はおおいに賛成して協力したいと思う。
- ・ 独断や一部の人だけで決めず、多くの市民の意見を取り入れる人が必要と思う。

○地域の活性化

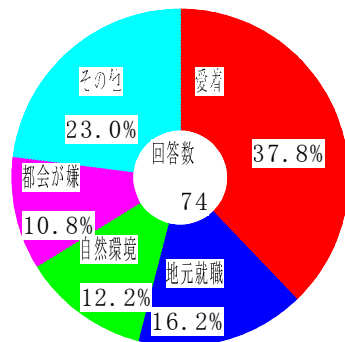
- ・ もっと住民を増やす。
- ・ 町のよい環境を壊さず、市民と都市部から来た人が一緒になってできるような町おこしを多く計画する。
- ・ 若くて精力あふれる町長の誕生。若い人にも興味のもてる政治。

○その他

- ・ みんなが明るくいい人ばかりです。そのままがいいと思う。
- ・ 別に必要のないところでは予算を使わないでほしい。もっと考えてお金を使ってほしい。
- ・ 丹波のことをもっと多くの人に知ってもらえるようなことをしたらいいと思う。
- ・ 他地方のよいところを知る。

5 10年後今住んでいるところに暮らしていると思いますか。

(1) 回答：思う



〔主な意見〕

○愛着

- ・この町が好きだから。
- ・都会はいろいろ便利だけど、やっぱり緑の多い今の場所でゆっくりしていきたい。
- ・やっぱり自分か生まれた場所が一番いいと思うから。
- ・次男だけど、絶対生まれた土地で働きたいし、住みたいから。
- ・今住んでいる場所が大好きだし、家族と暮らしたいと思うから。

○地元就職等

- ・就職先が近いから。
- ・ここに家が経営している会社があるし、長男だし、何年も住んでいて近所の人とも仲良くなれて居心地もいいから。
- ・短大を卒業したらこっちへ帰って就職しようと思っているから。

○自然環境

- ・緑の多いところに住みたいから。
- ・空気がいいから。この土地の風土が好きだから。
- ・田舎の方が落ち着けるから。農業ができる広い土地があるから。
- ・都会は便利なものがたくさんあって住みやすいと思うけど、私は自然がたくさんあって、人のふれあいがいつでもできる丹波にずっといたい。

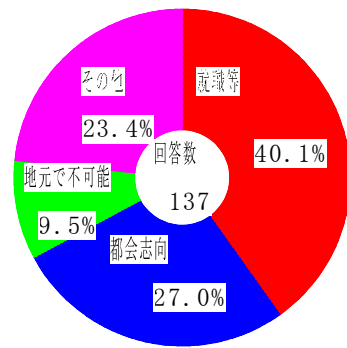
○都会がいや

- ・できるだけ近くで結婚したいから。
- ・都会はいろいろ危険があって怖いので。
- ・都会があんまり好きでないので今住んでいるところに住みたい。
- ・理想通りとはいかなくても、きっとよいところになっていると思うから。

○その他

- ・そこまで考えていない。
- ・わからないけどできれば住みたいです。
- ・他に行くところがないだろうから。
- ・特にどこかで住みたいと思わないから。
- ・一度は違うところへ行くかもしれないが、戻ってくると思うから。
- ・家出たいけど出られない。親が悲しむから。

(2) 回答：思わない



〔主な意見〕

○就職・結婚・進学

- ・結婚して違う土地に住んでいると思うから。
- ・向こうで働く。こちらは保育所も少なく、就職しにくい。
- ・もう自立して、都会で働いていると思うから。
- ・長女でないから。
- ・進学してたぶん戻ってこないと思う。

○都会志向

- ・田舎すぎると思うから。何もなさすぎておもしろくないから
- ・静かなところに住んでいたの、今度は繁華街。
- ・都会の方が楽しい。田舎など地域の関わりが深すぎる。
- ・何となく都市部にあこがれているから。
- ・いろんな所を転々としてきたので、これからもいろいろ回りたい。今住んでいるところが好きでないから。

○地元ではできない

- ・今住んでいるところでは将来の夢が果たせそうにないから。
- ・海が好きだから、海の近くに住もうと思っている。
- ・ずっと同じ所にいるより、いろんなところで今の世の中を見ていきたい。
- ・私がやりたい仕事はこの辺ではできない仕事だし、この辺にもない。夢が叶ったらたぶんここにはいない。
- ・私には、小さい頃からすごく憧れている町があり、将来はそちらの方に住みたいと切望しているため。

○その他

- ・何となく。
- ・魅力的な職業が見つからない。
- ・夢のために都会に出て、20～30年後ぐらいには戻ってくる。
- ・まだ住んだことのない町に住んでみたいという気持ちがわいてくると思うから。
- ・田舎に住むのは大変だから。
- ・何となく居づらい。

#### ( 4 ) 篠山市立養護学校生アンケート結果

- 1 今住んでいるところのどんなところが、好きですが。
  - ・ 山(虫とり)や川(カメ、カニとり)が好きです。
  - ・ 都会に比べて自然が多いところが好き。
  
- 2 今住んでいるところのどんなところが、きれいですか。
  - ・ 車がビュンビュン通って遠くにいったらダメっていわれる。
  - ・ きれいなところは特にありません。
  
- 3 10年後のみなさんの夢をできるだけくわしく書いてください。
  - ・ 山があったらいいよ。川があったらいいよ。虫さん、カメさん、カニさんいっしょがいいよ。
  - ・ 子供から大人まで多くの人が遊べ、楽しめる場所ができたらいいと思う。
  - ・ 若者が元気なまち、弱者にやさしいまち、時間の流れがゆったりとしたまち。
  
- 4 そのためにはどんなことをすればよいと思いますか。
  - ・ なかよしするの。
  
- 5 10年後、あなたは今住んでいるところにくらしていると思いますか。
  - (1) 思う
    - ・ (無回答)
  
  - (2) 思わない
    - ・ 以前住んでいたところのほうが静かだよかったから。



## 5 丹波の森夢会議で寄せられた意見提案等（総括表）

### (1) いいのちをはぐくむ・自然の環

万物のいのちをはぐくむ豊かな「丹波の森」を守り、引き継ぎ、自然との共生のもとに、安心・快適に暮らせる丹波づくりをめざしましょう。

【アクション1：自然環境を知ろう】

どんなことをするのか	取り組みの内容	具体的な取り組み	支援の仕組み	現況・課題（意見）
知識として知ろう	<p>専門家の話を聞く</p> <p>地域のの人に森の実態を聞く</p> <p>自分で調べる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然を知るセミナーの開催</li> <li>山の幸研究所の開設</li> <li>農村のあり方を理解させる体制、講座、現地体験</li> <li>ゲーディングアドバイザーの派遣</li> <li>草木染め教室とキツットの販売</li> <li>地域の環境の取組を子どもたちが学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>淡路景観園芸学校との連携</li> <li>農学森林学塾</li> <li>学校</li> <li>丹波布伝承館</li> <li>人と自然の博物館との連携</li> <li>丹波地域さわやかな環境づくり行動会議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>丹波の森について、丹波の人があまり知らない</li> <li>丹波の人が、丹波に残る希少生物について知らない</li> <li>丹波の森が荒れている</li> <li>住民は、環境問題への意識が低い</li> <li>ゴミのポイ捨てが多い</li> <li>地元の方は、田畑で平気でゴミを燃やす</li> <li>ゴミがたくさん落ちていて</li> <li>山が荒廃している</li> <li>国・県の森林保全整備の対策と支援が必要</li> <li>都市で暮らす中で、自然の良さを失っている</li> <li>丹波の森は、都会だけでなく、世界の財産</li> <li>環境問題が認知されていない</li> <li>自然や環境に興味がない人を巻き込むアプローチが必要</li> <li>丹波の森が汚れてきている</li> <li>自然の管理がしにくい</li> <li>自然が減っている</li> <li>丹波には美しい自然等がある</li> <li>自然には、人が喜ぶもの、人を殺すもの両方があることを理解する必要がある</li> </ul>
体験を通して知ろう	<p>森に入る、森を散策する</p> <p>農地周辺を歩く</p> <p>他地域に出かけてみる（丹波ファンが）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物マップづくり</li> <li>川の生物調査</li> <li>学校の森、万葉の森づくり</li> <li>子どもが森でアジャイルや基地づくりなどを楽しむ</li> <li>人が入れる森づくり</li> <li>ゴミ見学ツアー</li> <li>登山、山歩き、森林浴の行事</li> <li>森の健康診断</li> <li>子どもに小さいときから外での遊びの楽しさを体験させる</li> <li>丹波型林間学校づくり</li> <li>人が入れるモデルの森づくり</li> <li>学校の森づくり</li> <li>花、昆虫、魚介類の育成</li> <li>川に小魚を放し、親子で楽しむ</li> <li>グリーンツーリズム、エコツーリズム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃センター</li> <li>丹波の森協会</li> <li>森林組合</li> <li>里山を楽しむ協議会の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな自然を生かし切れていない</li> <li>丹波の人だけでは、丹波は守れない</li> <li>丹波の森や田圃、畑をどう管理するかが課題</li> <li>豊かな自然を実感できていない</li> <li>自然の中で遊んだり学んだりする機会が少ない</li> <li>丹波の人より都会の方が自然に詳しい</li> <li>川で泳げるようにしたい</li> <li>空気がきれい</li> <li>山や川があつていような植物がある</li> <li>自然で遊ぶところがある</li> <li>四季の移り変わりがあがる</li> <li>川の汚染</li> <li>ホタルの激減</li> <li>廃棄物の投棄</li> <li>小川がなくなったり、魚がいなくなったり</li> <li>騒がしい車が多くなったり</li> <li>緑がたくさんあるところが好き</li> <li>山の幸が見えない</li> <li>薪炭材活用の将来像が見えない</li> <li>山の手入れがされておらず緑の砂漠になっている</li> <li>水問題の解決が必要</li> <li>広域的なものから手を着ける</li> </ul>
活動の継続・情報交換	<p>森や自宅周辺で定点観測を行う</p> <p>定期的に森に入る</p> <p>活動する人たちと情報交換する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>森林機能の調査</li> <li>丹波木の道の調査</li> <li>山の所有者の実態調査</li> <li>酸素供給マップ、水資源マップづくり</li> <li>丹波全体でピオトープのシミュレーション</li> <li>丹波の森支援アドバイザー</li> <li>里山や川のサポーター</li> <li>人、モノ、情報が循環する仕組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人と自然の博物館</li> <li>ピオトープ管理士</li> </ul>	



【アクション3：環境にかかわる取組をやってみよう】

どんなことをするのか	取組みの内容	具体的な取組み	支援の仕組み	現況・課題（意見）
<p>日常生活の見直し</p>	<p>環境に負荷がかからない生活をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4Rの体験</li> <li>・I・Tの活用</li> <li>・レクリエーションの森、水源の森等に区分する</li> <li>・森林組合は雑木を切る</li> <li>・広葉樹を植林する</li> <li>・森の整備</li> <li>・ゴミの拠点回収</li> <li>・廃食用油活用による石鹸づくり</li> <li>・自然の中に入って問題点を探すことを職業にする</li> <li>・バイオマスエネルギーを産業にする</li> <li>・ディーゼル車の燃料を菜種油やひまわり油にする</li> <li>・自動車やトラクターを廃油で動くようにする</li> <li>・リフォーム講座の開催</li> <li>・不用品の交換会を開く</li> <li>・下水処理場をつくる</li> <li>・包装紙を使用しない、過剰包装をしない</li> <li>・わが家の庭から美しいまちづくり</li> <li>・本来のバイオトープの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記念樹登録制度</li> <li>・ゴミレンジャー</li> <li>・ゴミ捨一シヨ</li> <li>・自然監視員</li> <li>・森のゼロエミッション構想</li> <li>・電気自動車や天然ガス車の導入</li> <li>・マイバッグ運動</li> <li>・ガーデニングコンテスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市部からの誘客を狙うあまり、昔からあった伝統を無視している</li> <li>・都市の求める丹波と地元が求める丹波にギャップがある</li> <li>・週末に来てゴミを捨てて帰るだけの交流ではない</li> <li>・都市住民は、丹波を近くて便利なリゾート地としかとらえていないのではない</li> <li>・丹波の人は、田舎を活かせる場所に気付いていない</li> <li>・丹波らしい景観が失われつつある</li> <li>・田舎は世界に誇れるブランド</li> <li>・電柱の林立が見苦しい</li> <li>・農林業の景観や自然環境に果たす役割は大きい（農業のみでは保全は困難</li> <li>・無秩序な住宅開発</li> <li>・都市化が進み丹波の魅力の一つである里の景観が失われつつある</li> <li>・開発は行政だけで進めてはいけない</li> <li>・開発についての条例化をしていないことにより強制力がない</li> <li>・土地の利用計画が明確ではない（経済効果優先の開発が進むおそれがある）</li> <li>・開発が県下で一番遅れている</li> <li>・工事はかりやっている</li> <li>・各地でミニ開発が進んでいる（割った山を見せるのは残酷）</li> <li>・住宅地が無作為に広がっている</li> <li>・環境を考えずに高速道路がついている</li> <li>・公園が少ない</li> <li>・子どもが遊ぶ公園がない</li> <li>・里山の価値がわかっていない</li> <li>・里山の入り口が荒廃</li> <li>・親が山に入らない</li> <li>・楽しむ森がない</li> <li>・里山管理の補助金がない</li> <li>・自然を壊さず利用</li> <li>・緑の多い所に住みたい</li> <li>・山をうまく利用する</li> <li>・工場の建設と自然との調和がとれていない</li> <li>・生産者と消費者の意識の違い</li> <li>・商品の個性が多様化しすぎている</li> <li>・なぜ分別するか理解が大切</li> <li>・国や県には、ゴミ問題解決のビジョンの指導をお願いしたい</li> <li>・ゴミ問題は大きな課題</li> <li>・なぜ捨ててはいけないのかを学ぶ</li> <li>・過剰包装など外見にとらわれない</li> <li>・贈答品はいるのか考える</li> <li>・イベントでの食器が問題</li> </ul>
<p>良き習慣の継承</p>	<p>過去の良き習慣を継承するために、新たな取組みを考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本材（丹波材）の活用</li> <li>・炭焼きなど山の幸の活用</li> <li>・枝打ちした木の活用</li> <li>・棚田保全やご飯を食べることによる農地保全</li> <li>・といった自然・田畑の公益的機能を維持増進する</li> <li>・山掃除で出たゴミを燃料にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしいご飯を食べよう 県民運動</li> <li>・炭焼き体験</li> </ul>	
<p>環境を考えるきっかけづくり</p>	<p>環境を考えるイベントを行う 楽しくわかりやすい取組を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山の整備</li> <li>・親しみやすい森づくり</li> <li>・木材活用運動（おもちゃ、椅子、机、建築物）</li> <li>・丹波木づくり運動</li> <li>・自然歩道の設置</li> <li>・植林後の手入れが少なくて済むクスギ、カエデなどの紅葉の森づくり</li> <li>・杉や檜を伐採後に植樹する苗木の提供</li> <li>・道沿いに動物が出る表示をする</li> <li>・草刈りツアーの実施</li> <li>・学校の森、里山開放</li> <li>・高齢者によるクラフト教室</li> <li>・バイオトープの展開</li> <li>・ミミズやEM菌の活用</li> <li>・徐行運動</li> <li>・イベントでの再使用可能な食器の貸出と洗いの設置</li> <li>・マイ食器の特参</li> <li>・フリーマーケットには再使用のものを出品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹波の森協会</li> <li>・丹波年輪の里</li> <li>・手作りの木工芸施設「ときめ樹」</li> </ul>	

(2) ひとをはぐくむ・人間の環境

「丹波の森」の中で学び、遊び、交流し、文化を守り、創る「森の市民」を育てましょう

【アクション1：地域を支える人を育てよう】

どんなことをするのか	取り組みの内容	具体的な取り組み	支援の仕組み	現況・課題（意見）
学習（見る・知る）を通して育てる	生涯学習の機会を増やす	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者等にインターネット等を教える人材・拠点づくり、そのネットワークづくり</li> <li>地域内に子どものたまり場をつくる</li> <li>子どもを集めて「勉強会」を開く</li> <li>10代20代の人が出前高齢者にITを教える</li> <li>子どもに健康長寿に向けた自立的取組の支援</li> <li>子どもに食生活のあり方を理解、実践させ習慣化させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊休施設の活用</li> <li>人材バンク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者もバリアフリーで参加できる仕組みづくりが必要</li> <li>幼児期からの教育が大切</li> <li>外で遊ぶ子どもをあまり見かけない</li> <li>近くに森がありながら、子どもたちの目が森に向けられていない</li> <li>自然の中で遊んだり、学ぶ機会が少なくない</li> <li>外で遊ぶ体験を体験していない</li> <li>現代の子どもは自然を知らないし、知りたくても山などに入れない</li> <li>スギ、ヒノキの植林は日役で入るのみで山が荒廃している</li> <li>三面張りにより川で遊ぶことなく</li> <li>保育園児の時から自然と隔離された所で子どもが育っている</li> <li>赤ちやんは真っ白。成長に準じて自由な色がつく</li> <li>人間教育、教育が最も大切（知識教育のみではない）</li> <li>寺社、戦国史めぐりと共に自然を学ばせる、そのルートづくり</li> <li>ドインではミミスを小学校で飼育し、家庭、まちにまで広げゴミ等の減少を図った</li> <li>中学生を川に入れ、川が汚れていることを体験させたら洗剤やティッシュペーパーの使用が減少した</li> <li>「よさこい山雨」を始めたのは青少年の社会参加が目的</li> <li>福祉の担い手が不足しており、将来も不足する</li> <li>ボランティア自身の高齢化</li> <li>若者の流出により、残された高齢者の健康問題</li> <li>ボランティアの社会的地位の向上が必要</li> <li>ボランティア活動を証書するシステムが必要</li> <li>グループで力をあわせ、ボランティア活動として仲良く楽しく交流を行いたい</li> <li>幅広い社会教育」という言葉がなくなつた。社会教育についてもっと考えざるべき</li> <li>塾通いで子どもが忙しすぎる</li> <li>子どもは親が言わないと言ふことを聞かない。学校に頼ってもダメ</li> <li>親が子どもに対して勝手に思いこみをしている</li> <li>どんな子どもでも必ず役に立つ人材</li> <li>大人のモラルの低下</li> <li>大人自身が現実を直視することが大事</li> <li>世代格差がある中で、大人が子どものことにも知らなすぎている</li> <li>携帯電話をかけたまま等、考えられないことが現場で起きている</li> <li>17歳問題は大人の問題</li> </ul>
専門知識を学ぶ機会を増やす	総合的な学習、体験学習プログラムをつくり実践する	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもに丹波の良さや特色を認識させる機会</li> <li>「森遊び」等、遊びを通じ丹波の自然を知る</li> <li>森の観察会、生物調査</li> <li>丹波の自然を知らう運動」子ども版</li> <li>子どもの自然体験月間の設置</li> <li>子どもが自然に触れる行事を年間を通じ、丹波各地で行う</li> <li>森を知るため「子どもたち、森へ行こう！」</li> <li>森を地域と協働して実施（学校の総合的な学習の一環）</li> <li>子どもも共に大人も自然体験等に参加する</li> <li>子どもも会、PTA行事による自然体験行事の展開</li> <li>地域の環境団体が学校に入り、子どもに自然の大切さを教える</li> <li>生き物に親子で親しむ（ピオトープ）</li> <li>地域の環境や文化・歴史教育の充実</li> <li>地域の宝など、先人の創造したものを知る</li> <li>絵本、童話等、本の読み聞かせを通して感動の体験をさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の活用</li> <li>子ども個人の個性や能力を伸ばす教育の推進</li> <li>子どもが自然に親しみながら育つ環境の整備</li> <li>自然を活用した子どもの遊び場の整備</li> <li>体験公園の整備</li> <li>学校教員の指導力の向上</li> <li>教員の免許更新新制度の導入</li> <li>幼稚園・保育所の基本指導要綱を明確にし、相互連携を密にする</li> <li>幼児教育指導の一貫性を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「よさこい山雨」を始めたのは青少年の社会参加が目的</li> <li>福祉の担い手が不足しており、将来も不足する</li> <li>ボランティア自身の高齢化</li> <li>若者の流出により、残された高齢者の健康問題</li> <li>ボランティアの社会的地位の向上が必要</li> <li>ボランティア活動を証書するシステムが必要</li> <li>グループで力をあわせ、ボランティア活動として仲良く楽しく交流を行いたい</li> <li>幅広い社会教育」という言葉がなくなつた。社会教育についてもっと考えざるべき</li> <li>塾通いで子どもが忙しすぎる</li> <li>子どもは親が言わないと言ふことを聞かない。学校に頼ってもダメ</li> <li>親が子どもに対して勝手に思いこみをしている</li> <li>どんな子どもでも必ず役に立つ人材</li> <li>大人のモラルの低下</li> <li>大人自身が現実を直視することが大事</li> <li>世代格差がある中で、大人が子どものことにも知らなすぎている</li> <li>携帯電話をかけたまま等、考えられないことが現場で起きている</li> <li>17歳問題は大人の問題</li> </ul>
参加の過程を通じて育てる	取組の企画段階から参加する	<ul style="list-style-type: none"> <li>各高校に福祉専門教育課程を設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校の個性化、差別化</li> <li>地域を良くする住民活動への援助</li> <li>参加情報の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「よさこい山雨」を始めたのは青少年の社会参加が目的</li> <li>福祉の担い手が不足しており、将来も不足する</li> <li>ボランティア自身の高齢化</li> <li>若者の流出により、残された高齢者の健康問題</li> <li>ボランティアの社会的地位の向上が必要</li> <li>ボランティア活動を証書するシステムが必要</li> <li>グループで力をあわせ、ボランティア活動として仲良く楽しく交流を行いたい</li> <li>幅広い社会教育」という言葉がなくなつた。社会教育についてもっと考えざるべき</li> <li>塾通いで子どもが忙しすぎる</li> <li>子どもは親が言わないと言ふことを聞かない。学校に頼ってもダメ</li> <li>親が子どもに対して勝手に思いこみをしている</li> <li>どんな子どもでも必ず役に立つ人材</li> <li>大人のモラルの低下</li> <li>大人自身が現実を直視することが大事</li> <li>世代格差がある中で、大人が子どものことにも知らなすぎている</li> <li>携帯電話をかけたまま等、考えられないことが現場で起きている</li> <li>17歳問題は大人の問題</li> </ul>
与えられたものではなく、自ら考え行動できる機会をつくる	参加の企画段階から参加する	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポランティアと山を守る交流（土・日曜日を活用し、大人も子ども一緒にする）</li> <li>伝統行事、地域行事への子どもも参加（祭・清掃作業など）</li> <li>奉仕作業を通して、子どもに社会生活の基本を身につけさせる</li> <li>野外活動等、学校と異なる活動を地域で実施</li> <li>地元行事に地域の人が参加する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポランティアの人材バンク（登録制度）</li> <li>ポランティア人材育成講座の開催</li> <li>ポランティア講師の派遣</li> <li>ボランティア等によるボランティアの評価</li> <li>ポランティア活動の成果を啓発</li> <li>ポランティア顕彰制度の拡充</li> <li>平等性のある有償ボランティア</li> <li>活動費の保障</li> <li>活動情報の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「よさこい山雨」を始めたのは青少年の社会参加が目的</li> <li>福祉の担い手が不足しており、将来も不足する</li> <li>ボランティア自身の高齢化</li> <li>若者の流出により、残された高齢者の健康問題</li> <li>ボランティアの社会的地位の向上が必要</li> <li>ボランティア活動を証書するシステムが必要</li> <li>グループで力をあわせ、ボランティア活動として仲良く楽しく交流を行いたい</li> <li>幅広い社会教育」という言葉がなくなつた。社会教育についてもっと考えざるべき</li> <li>塾通いで子どもが忙しすぎる</li> <li>子どもは親が言わないと言ふことを聞かない。学校に頼ってもダメ</li> <li>親が子どもに対して勝手に思いこみをしている</li> <li>どんな子どもでも必ず役に立つ人材</li> <li>大人のモラルの低下</li> <li>大人自身が現実を直視することが大事</li> <li>世代格差がある中で、大人が子どものことにも知らなすぎている</li> <li>携帯電話をかけたまま等、考えられないことが現場で起きている</li> <li>17歳問題は大人の問題</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>参加型ポランティア体験まつり</li> <li>良質なポランティアコーディネーターの育成</li> <li>障害のある人と行政をコーディネートする人の育成</li> <li>身近なポランティア貢献への参加の慣例化</li> <li>子どもに遊びを創作させ、発表会等を開催し、遊び文化の進展に参加させる</li> <li>野外の共同遊びを通じ、子どもに必要な社会ルールを修得させる</li> <li>健康で健全な耐乏精神の涵養</li> <li>家庭で健全な社会教育（社会教育）の充実</li> <li>家族仲良く親は子どもも大人のモラルを矯正</li> <li>子どもも親の目にもかまさない</li> <li>親が子どもも親の教育をする</li> <li>子どもも親の教育をする</li> <li>子どもも自然に親しむよう親の意識を変える</li> <li>親を集めて意見交換をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポランティアの人材バンク（登録制度）</li> <li>ポランティア人材育成講座の開催</li> <li>ポランティア講師の派遣</li> <li>ボランティア等によるボランティアの評価</li> <li>ポランティア活動の成果を啓発</li> <li>ポランティア顕彰制度の拡充</li> <li>平等性のある有償ボランティア</li> <li>活動費の保障</li> <li>活動情報の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「よさこい山雨」を始めたのは青少年の社会参加が目的</li> <li>福祉の担い手が不足しており、将来も不足する</li> <li>ボランティア自身の高齢化</li> <li>若者の流出により、残された高齢者の健康問題</li> <li>ボランティアの社会的地位の向上が必要</li> <li>ボランティア活動を証書するシステムが必要</li> <li>グループで力をあわせ、ボランティア活動として仲良く楽しく交流を行いたい</li> <li>幅広い社会教育」という言葉がなくなつた。社会教育についてもっと考えざるべき</li> <li>塾通いで子どもが忙しすぎる</li> <li>子どもは親が言わないと言ふことを聞かない。学校に頼ってもダメ</li> <li>親が子どもに対して勝手に思いこみをしている</li> <li>どんな子どもでも必ず役に立つ人材</li> <li>大人のモラルの低下</li> <li>大人自身が現実を直視することが大事</li> <li>世代格差がある中で、大人が子どものことにも知らなすぎている</li> <li>携帯電話をかけたまま等、考えられないことが現場で起きている</li> <li>17歳問題は大人の問題</li> </ul>



【アクション2：人や場を活かそう】

どんなことをするのか	取り組みの内容	具体的な取り組み	支援の仕組み	現況・課題（意見）
<p>探す・見つける</p>	<p>情報収集をする データベース（台帳）をつくる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者人材バンク</li> <li>「丹波ふるさとガイド」の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ドリカムたんば」の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な集落を中心としたまちづくり</li> <li>高齢者にとって日常生活上の移動は大変</li> <li>旧市街地を残し、その中心地まで安全に行けるように、歩道を充実させる</li> <li>公共交通機関の未発達</li> <li>車が運転できない人達への福祉が行き届いていない</li> <li>丹波の人々や家庭が文化に関わり、文化を生みだし、育てていくことが必要</li> <li>大阪からの実務（義務）は、子どもたちに自然を体験させ、自然の癒しさを教えること</li> <li>縁側復活、ひなたぼっこ</li> <li>録音テープを流す山車が増加してきている</li> <li>高齢者もバリアフリーで参加できる仕組みづくり</li> <li>年をとっても自分の経験が生かせる場づくり</li> <li>「もつとやれる」という気持ちを持っていて高齢者の活動の機会が少ない</li> <li>70歳を越えても生きがいを持つシステムづくり</li> <li>75歳まではヤング老人。働くだけ働いた方がよい</li> <li>65歳で老人会に入れることは間違っている</li> <li>丹波の森は都会人だけでなく世界的財産。大事にしつつ、住民が喜べる空間をつくる</li> <li>歴史、文化を大事にしたまちづくりを行いたい</li> <li>まちの歴史をテーマに森公苑とも連携しながら生涯学習に力を入れる</li> <li>地の利に恵まれた文化の余裕がある</li> <li>丹波らしさを守る</li> </ul>
<p>育てる、磨く、光を当てる</p>	<p>既存のものにこだわらず、新たな活用方法、組み合わせを考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>車椅子でも買物に行ける小さなエコシティ（環境共生都市）</li> <li>体験民宿（短期集中型ホームステイ）</li> <li>農地付き別荘、農家民宿</li> <li>若者提案型事業の実施</li> <li>10代、20代の人の意見を大切に、取り入れる</li> <li>学校は秋休みをつくり、トライやる・ウィークで農業や加工業の体験に結びつける</li> <li>環境活動団体の活用とネットワーク化の促進</li> <li>高等教育（大学等）機関の誘致</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業体験、林業打ちをした場合、宿泊代半額にする取組</li> <li>クリエイティブ2.1</li> <li>自然学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な集落を中心としたまちづくり</li> <li>高齢者にとって日常生活上の移動は大変</li> <li>旧市街地を残し、その中心地まで安全に行けるように、歩道を充実させる</li> <li>公共交通機関の未発達</li> <li>車が運転できない人達への福祉が行き届いていない</li> <li>丹波の人々や家庭が文化に関わり、文化を生みだし、育てていくことが必要</li> <li>大阪からの実務（義務）は、子どもたちに自然を体験させ、自然の癒しさを教えること</li> <li>縁側復活、ひなたぼっこ</li> <li>録音テープを流す山車が増加してきている</li> <li>高齢者もバリアフリーで参加できる仕組みづくり</li> <li>年をとっても自分の経験が生かせる場づくり</li> <li>「もつとやれる」という気持ちを持っていて高齢者の活動の機会が少ない</li> <li>70歳を越えても生きがいを持つシステムづくり</li> <li>75歳まではヤング老人。働くだけ働いた方がよい</li> <li>65歳で老人会に入れることは間違っている</li> <li>丹波の森は都会人だけでなく世界的財産。大事にしつつ、住民が喜べる空間をつくる</li> <li>歴史、文化を大事にしたまちづくりを行いたい</li> <li>まちの歴史をテーマに森公苑とも連携しながら生涯学習に力を入れる</li> <li>地の利に恵まれた文化の余裕がある</li> <li>丹波らしさを守る</li> </ul>
<p>必要の人と場、資源をつなげる</p>	<p>理もれていたものにスポットを当てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古いものは徹底的に保存する</li> <li>発掘（埋蔵文化財）調査を大切に</li> <li>録音テープによる祭の正調節の記録化（文書等含む）</li> <li>各自の活動が森づくりであることを周知</li> <li>自然の良さを教えることのできるガイドの育成と、活動できるシステムづくり</li> <li>素晴らしい阿呆（一生懸命にする人）の育成</li> <li>輝いている人（活躍している人）を応援する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>丹波の森文庫</li> <li>丹波の森協会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な集落を中心としたまちづくり</li> <li>高齢者にとって日常生活上の移動は大変</li> <li>旧市街地を残し、その中心地まで安全に行けるように、歩道を充実させる</li> <li>公共交通機関の未発達</li> <li>車が運転できない人達への福祉が行き届いていない</li> <li>丹波の人々や家庭が文化に関わり、文化を生みだし、育てていくことが必要</li> <li>大阪からの実務（義務）は、子どもたちに自然を体験させ、自然の癒しさを教えること</li> <li>縁側復活、ひなたぼっこ</li> <li>録音テープを流す山車が増加してきている</li> <li>高齢者もバリアフリーで参加できる仕組みづくり</li> <li>年をとっても自分の経験が生かせる場づくり</li> <li>「もつとやれる」という気持ちを持っていて高齢者の活動の機会が少ない</li> <li>70歳を越えても生きがいを持つシステムづくり</li> <li>75歳まではヤング老人。働くだけ働いた方がよい</li> <li>65歳で老人会に入れることは間違っている</li> <li>丹波の森は都会人だけでなく世界的財産。大事にしつつ、住民が喜べる空間をつくる</li> <li>歴史、文化を大事にしたまちづくりを行いたい</li> <li>まちの歴史をテーマに森公苑とも連携しながら生涯学習に力を入れる</li> <li>地の利に恵まれた文化の余裕がある</li> <li>丹波らしさを守る</li> </ul>
<p>高齢者の知恵や体験を活かせる場づくり</p>	<p>公共施設等の計画段階から高齢者等の意見を取り入れる機会を確保する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設等の計画段階から高齢者等の意見を取り入れる機会を確保する</li> <li>各自主の活動の場を交流の場として拡大</li> <li>子どもと高齢者で名所巡りする等交流の機会づくり</li> <li>子どももの遊び場、たまり場づくり</li> <li>高齢者が子供におもちゃや遊び方を教えたり、紙芝居や童話などを読み聞かせる</li> <li>高齢者が伝統文化、食文化を教える教室を実施</li> <li>空き地を利用した、高齢者による花づくり</li> <li>異文化と丹波の文化をトッピングさせた文化づくり</li> <li>高齢者による若者への伝統芸能の伝承</li> <li>祭ばやし伝承</li> <li>高齢者による子育て教室、子育て支援</li> <li>高齢者が働ける場所を組織してつくる</li> <li>70歳以上の人々に一定の手算を与え、夢の實現に向けての生きがいづくりをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域スポーツクラブ・学校の空き教室の活用</li> <li>各市町村単位で低額のバスを運行</li> <li>公共施設を巡回する100円バスの運行</li> <li>人材バンクの整備・活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な集落を中心としたまちづくり</li> <li>高齢者にとって日常生活上の移動は大変</li> <li>旧市街地を残し、その中心地まで安全に行けるように、歩道を充実させる</li> <li>公共交通機関の未発達</li> <li>車が運転できない人達への福祉が行き届いていない</li> <li>丹波の人々や家庭が文化に関わり、文化を生みだし、育てていくことが必要</li> <li>大阪からの実務（義務）は、子どもたちに自然を体験させ、自然の癒しさを教えること</li> <li>縁側復活、ひなたぼっこ</li> <li>録音テープを流す山車が増加してきている</li> <li>高齢者もバリアフリーで参加できる仕組みづくり</li> <li>年をとっても自分の経験が生かせる場づくり</li> <li>「もつとやれる」という気持ちを持っていて高齢者の活動の機会が少ない</li> <li>70歳を越えても生きがいを持つシステムづくり</li> <li>75歳まではヤング老人。働くだけ働いた方がよい</li> <li>65歳で老人会に入れることは間違っている</li> <li>丹波の森は都会人だけでなく世界的財産。大事にしつつ、住民が喜べる空間をつくる</li> <li>歴史、文化を大事にしたまちづくりを行いたい</li> <li>まちの歴史をテーマに森公苑とも連携しながら生涯学習に力を入れる</li> <li>地の利に恵まれた文化の余裕がある</li> <li>丹波らしさを守る</li> </ul>

【アクション3：みんなで交流し、支え合おう】

どんなことをするのか	取り組みの内容	具体的な取り組み	支援の仕組み	現況・課題（意見）
<p>門戸を広げる</p>	<p>既存の形態にとらわれない役割分担を行う</p>	<p>男女各世代の固定的な役割分担にとらわれない活動                      ・男女の知恵の融合                      ・女性の多様な生き方が選択できる社会と、それを認め合える受け皿づくり                      ・女性の立場に立って、村のあり方を検討する                      ・地域の役員に女性、若者の参加                      ・若者と大人の世代間交流                      ・女性の社会進出の支援                      ・女性が職業能力を身につける機会を提供                      ・女性グループの活動支援                      ・母親がボランティア活動できるシステムづくり                      ・子育て、親育て、育自のシステムづくり</p>	<p>働く女性のための延長保育の実施                      ・託児所、学童保育の充実整備                      ・夜間保育の実施                      ・子育てボランティアの育成・拡充                      ・ボランティア活動支援センターの設置                      ・広域人材マップの作成</p>	<p>色々なことに女性が口を出すことへの意識が少くない                      ・女性の自治会活動への関わり、機会が保障されていない現実がある                      ・女性が参加した地域づくり                      ・男女平等、男性中心の地域社会                      ・農村の保守性、封建的な意識が多く残っている                      ・連帯感、平等意識が強く、個人ではなく家が基本                      ・閉鎖性の解消                      ・長男の嫁が苦勞しない地域づくり                      ・集落の女性の意識改革すべき                      ・若い世代の組織離れ                      ・合でも年輩者が多い                      ・元気の村づくりのリーダーが必要                      ・住民の年齢構成の若返り                      ・若者が地域の日役に参加することを拒む                      ・若者にとって頼むらしい地域の特性                      ・集落の「和」「輪」を作るために、若者の気持ちを引き付ける                      ・介護から子育てまで、全てを負担することとなる若い世代が頑張らなければいけない                      ・若者が互いにコミュニケーションを取り合い、結束を固めて協力すべき                      ・古い習慣等に若者の意見が取り入れられていない                      ・仕事と子育ての両立                      ・託児所が少ない                      ・学童保育がない                      ・女性が産後し、子育てが求められる環境づくりが必要                      ・子育てできる、子育てが冷遇という時代                      ・高齢者優遇、子育てに頼りすぎている                      ・ボランティアは地域維持の基盤                      ・ボランティアに頼りすぎている                      ・要介護者の家族の負担軽減のためには、それを地域で助けていくことが必要                      ・車椅子だと一人で生活できない                      ・福祉は待たずに自分から参加する                      ・高齢者の現実について町長などの代表者がよく知る                      ・一人暮らしの老人が増加                      ・一人暮らしの人も、家族的な付き合いを感じられる地域                      ・宅老所への助成金は必要だが、期限付きで使い方が難しい                      ・助成金をもちろんと義務に縛られる                      ・宅老所を地域で支えるボランティアの壁が厚く、真の理解はされていない                      ・障害のある人に対する意識の壁が厚く、真の理解はされていない                      ・障害者が普通に暮らせるまちづくり                      ・障害者が近くで相談や訓練を受けられない                      ・既に形骸化している行動(行事)を見直しもせず毎年行っている                      ・伝統的に地域に根ざした行事なのか、形だけの因習なのかをもう一度見直す必要がある                      ・外国人の移住問題                      ・在住外国人の言葉、教育(子育て、学校)の問題                      ・在住外国人の選挙権の問題                      ・在住外国人の防災問題(避難場所)                      ・生活情報の不足                      ・情報が入らなからイベントに参加できない                      ・外国の人たちがなじみやすい地域や人でありたい                      ・外国籍の人が意見を言いにくく、言っても取ってもらえない</p>
<p>対象となる人や地域を広げる</p>	<p>学校を開放し、地域との交流、融合を図る                      ・学校行事に地域住民を招待する                      ・誰でも情報を受けられるシステムづくり                      ・視覚障害者等、字の読みにくい人が得られやすい情報の提供                      ・要約筆記の公的派遣制度の創設                      ・難聴者等には要約した情報を伝達                      ・手話ボランティアの充実を図る                      ・外国人理解、国際理解の輪を広げる                      ・外国人に分かりやすい情報の提供                      ・情報誌、ミニコミ誌の発行、外国語標記、市町広報誌での生活情報マニキュエクト                      ・外国人児童支援プロジェクト                      ・各地域に点在する外国人児童を定期的に支援(日本語・母国語教室)                      ・外国人児童指導補助員の常駐、生活指導(保護者との連携)                      ・地域住民と外国人の相互理解のための行政と民間団体の共同プロジェクトを実施                      ・国際的視点で方策を研究                      ・選挙権を含む参政権を検討                      ・総代を窓口とした外国人への防災の働きかけ                      ・外国人との交流、理解の場の設定                      ・丹波の特産を活かした交流                      ・都会からボランティアを募集し交流を図る                      ・休日休暇の効果的な選択ができるように、似通った事業の集中化</p>	<p>関係団体のネットワーク                      ・人材バンク                      ・車椅子お出かけ隊                      ・「丹波福祉マップ」づくり                      ・各市町の国際交流協会・団体                      ・丹波日本語ボランティアネットワーク                      ・篠山国際理解センター                      ・自治会がサポーター                      ・生活ガイド、医療スタッフ、日本語教師・通訳に対しての民間団体からの人材支援                      ・生活ガイド、医療スタッフ、日本語教師・通訳に対しての行政の支援                      ・どっぷり丹波！特派員ツアー</p>	<p>愛知県足助町 Z i z i 工房、パーラーハウス                      ・コミュニティ内の規制緩和(新ルールづくり)                      ・地域を良くする住民活動への援助</p>	<p>色々なことに女性が口を出すことへの意識が少くない                      ・女性の自治会活動への関わり、機会が保障されていない現実がある                      ・女性が参加した地域づくり                      ・男女平等、男性中心の地域社会                      ・農村の保守性、封建的な意識が多く残っている                      ・連帯感、平等意識が強く、個人ではなく家が基本                      ・閉鎖性の解消                      ・長男の嫁が苦勞しない地域づくり                      ・集落の女性の意識改革すべき                      ・若い世代の組織離れ                      ・合でも年輩者が多い                      ・元気の村づくりのリーダーが必要                      ・住民の年齢構成の若返り                      ・若者が地域の日役に参加することを拒む                      ・若者にとって頼むらしい地域の特性                      ・集落の「和」「輪」を作るために、若者の気持ちを引き付ける                      ・介護から子育てまで、全てを負担することとなる若い世代が頑張らなければいけない                      ・若者が互いにコミュニケーションを取り合い、結束を固めて協力すべき                      ・古い習慣等に若者の意見が取り入れられていない                      ・仕事と子育ての両立                      ・託児所が少ない                      ・学童保育がない                      ・女性が産後し、子育てが求められる環境づくりが必要                      ・子育てできる、子育てが冷遇という時代                      ・高齢者優遇、子育てに頼りすぎている                      ・ボランティアは地域維持の基盤                      ・ボランティアに頼りすぎている                      ・要介護者の家族の負担軽減のためには、それを地域で助けていくことが必要                      ・車椅子だと一人で生活できない                      ・福祉は待たずに自分から参加する                      ・高齢者の現実について町長などの代表者がよく知る                      ・一人暮らしの老人が増加                      ・一人暮らしの人も、家族的な付き合いを感じられる地域                      ・宅老所への助成金は必要だが、期限付きで使い方が難しい                      ・助成金をもちろんと義務に縛られる                      ・宅老所を地域で支えるボランティアの壁が厚く、真の理解はされていない                      ・障害のある人に対する意識の壁が厚く、真の理解はされていない                      ・障害者が普通に暮らせるまちづくり                      ・障害者が近くで相談や訓練を受けられない                      ・既に形骸化している行動(行事)を見直しもせず毎年行っている                      ・伝統的に地域に根ざした行事なのか、形だけの因習なのかをもう一度見直す必要がある                      ・外国人の移住問題                      ・在住外国人の言葉、教育(子育て、学校)の問題                      ・在住外国人の選挙権の問題                      ・在住外国人の防災問題(避難場所)                      ・生活情報の不足                      ・情報が入らなからイベントに参加できない                      ・外国の人たちがなじみやすい地域や人でありたい                      ・外国籍の人が意見を言いにくく、言っても取ってもらえない</p>
<p>時代に合った仕組みをつくる</p>	<p>関係者の生活スタイルや社会背景に応じてルールを見直す</p>	<p>習慣の見直し                      ・クラブ的組織づくり                      ・集落を超えた新しいコミュニティづくり                      ・小、中学校校区のコミュニティを考える                      ・コミュニティセンター(癒しの場)づくり                      ・新住民が入りやすいコミュニティ                      ・新旧住民の親睦の機会づくり                      ・懇親会の開催                      ・集落・規約・慣習の見直し、合意                      ・都市部からの定住者の受け入れ                      ・高齢者の視点に立って対策を考える                      ・丹波 75 歳以上高齢者対象システム                      ・公民館等を活用し高齢者のふれあいの場作り                      ・若者のニーズの把握</p>	<p>関係団体のネットワーク                      ・人材バンク                      ・車椅子お出かけ隊                      ・「丹波福祉マップ」づくり                      ・各市町の国際交流協会・団体                      ・丹波日本語ボランティアネットワーク                      ・篠山国際理解センター                      ・自治会がサポーター                      ・生活ガイド、医療スタッフ、日本語教師・通訳に対しての民間団体からの人材支援                      ・生活ガイド、医療スタッフ、日本語教師・通訳に対しての行政の支援                      ・どっぷり丹波！特派員ツアー</p>	<p>色々なことに女性が口を出すことへの意識が少くない                      ・女性の自治会活動への関わり、機会が保障されていない現実がある                      ・女性が参加した地域づくり                      ・男女平等、男性中心の地域社会                      ・農村の保守性、封建的な意識が多く残っている                      ・連帯感、平等意識が強く、個人ではなく家が基本                      ・閉鎖性の解消                      ・長男の嫁が苦勞しない地域づくり                      ・集落の女性の意識改革すべき                      ・若い世代の組織離れ                      ・合でも年輩者が多い                      ・元気の村づくりのリーダーが必要                      ・住民の年齢構成の若返り                      ・若者が地域の日役に参加することを拒む                      ・若者にとって頼むらしい地域の特性                      ・集落の「和」「輪」を作るために、若者の気持ちを引き付ける                      ・介護から子育てまで、全てを負担することとなる若い世代が頑張らなければいけない                      ・若者が互いにコミュニケーションを取り合い、結束を固めて協力すべき                      ・古い習慣等に若者の意見が取り入れられていない                      ・仕事と子育ての両立                      ・託児所が少ない                      ・学童保育がない                      ・女性が産後し、子育てが求められる環境づくりが必要                      ・子育てできる、子育てが冷遇という時代                      ・高齢者優遇、子育てに頼りすぎている                      ・ボランティアは地域維持の基盤                      ・ボランティアに頼りすぎている                      ・要介護者の家族の負担軽減のためには、それを地域で助けていくことが必要                      ・車椅子だと一人で生活できない                      ・福祉は待たずに自分から参加する                      ・高齢者の現実について町長などの代表者がよく知る                      ・一人暮らしの老人が増加                      ・一人暮らしの人も、家族的な付き合いを感じられる地域                      ・宅老所への助成金は必要だが、期限付きで使い方が難しい                      ・助成金をもちろんと義務に縛られる                      ・宅老所を地域で支えるボランティアの壁が厚く、真の理解はされていない                      ・障害のある人に対する意識の壁が厚く、真の理解はされていない                      ・障害者が普通に暮らせるまちづくり                      ・障害者が近くで相談や訓練を受けられない                      ・既に形骸化している行動(行事)を見直しもせず毎年行っている                      ・伝統的に地域に根ざした行事なのか、形だけの因習なのかをもう一度見直す必要がある                      ・外国人の移住問題                      ・在住外国人の言葉、教育(子育て、学校)の問題                      ・在住外国人の選挙権の問題                      ・在住外国人の防災問題(避難場所)                      ・生活情報の不足                      ・情報が入らなからイベントに参加できない                      ・外国の人たちがなじみやすい地域や人でありたい                      ・外国籍の人が意見を言いにくく、言っても取ってもらえない</p>

【アクション3：みんなであら交流し、支え合おう】

どんなことをするのか	取り組みの内容	具体的な取り組み	支援の仕組み	現況・課題（意見）
時代に合った仕組みをつくる	多世代が支え合える環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣近所の助け合い</li> <li>・顔の見える集落で支え合い、目をかけ合う人間関係づくり</li> <li>・人間らしく本音で語り合える地域づくり</li> <li>・家庭と仕事の両立を地域で支える</li> <li>・地域で子育て教育</li> <li>・子育て等について悩みを吐き出せる場づくり</li> <li>・地域で介護するシステムづくり</li> <li>・施設入所者と地域との交流の機会づくり</li> <li>・高齢者をサポートする、その機会づくり</li> <li>・閉じこもり老人の関わり方を考える</li> <li>・地域密着型のグループホームを擁する</li> <li>・高齢者のための夜だけの集合住宅</li> <li>・宅老所を開所し、高齢者と子供の交流の場とする</li> <li>・大人と子どものふれあいの場づくり</li> <li>・各町、各地域に図書館、不登校児の学校、障害を持つ人の作業所をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で子育てを支えるシステムづくり</li> <li>・地域スポーツクラブ</li> <li>・公民協働システム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界情勢についての国際感覚を身につける</li> <li>・伝承文化に対する地域の理解と協力がベース</li> <li>・交流するには交通面が問題</li> <li>・交流の場に必要な人が出てこない</li> <li>・地域内できめ細かな取組を進める</li> <li>・地域づくりの意欲が少なくない</li> <li>・安定した生活基盤が実感できる生活者居住地域</li> <li>・ゆるぎない住民生活のあるまちづくり</li> <li>・安全安心と温もりと潤いのあるまちづくり</li> <li>・近隣との関係が希薄にならず、心の交流が多い地域</li> <li>・新住民の一体化</li> <li>・地域の特性を活かした街づくり、村づくりを進める</li> <li>・都市化と共に人情も薄くなっている</li> <li>・隣近所や小学生と高齢者とが会話ができる距離にある</li> <li>・丹波人は人なつとつて親切</li> <li>・向こう3軒阿隣も理実存在しないのは寂しい</li> <li>・映画会など地域の中での集まりが少ない</li> <li>・自給のすすめ</li> <li>・30年間運動会やカラオケ大会等で交流している</li> <li>・自治力を高めるために協働を行い、その過程・結果における学習により、自治能力の向上につなげるという「自治-協働-学習」のサイクルを構築する</li> <li>・「生活習慣病」が発生しないように各医療機関の協力・指導を強化すれば、保険費支出が半減し、高齢者の介護も激減する</li> <li>・大人が人生観(価値観)を変えることが先決</li> <li>・地域の人間関係を良くする。新住民となって永住の希望を満たしてくれるのは人間関係が素晴らしいことだ</li> <li>・企業に勤めている人は仕事中心になり、地域活動を行う環境が整っていない</li> <li>・時間的に仕事中心の社会が存在していることが大きな課題</li> <li>・丹波にあるものをまず地元民が楽しみ、面白がり、ついでに地域外の人を巻き込むこと</li> <li>・多様性受入れの努力と一体感醸成に対する各人の取組</li> <li>・地域間格差をなくす</li> <li>・都市との交流の窓口とボランティアの募集</li> <li>・対等な交流</li> <li>・都会から遊びに来たくなるレジャー地域</li> <li>・都市生活者の希望を取りまとめ、できることから取り組む</li> <li>・観光では「良いところ」と言われるが、「住んでみるか?」と尋ねると返事がぼやける</li> </ul>
意識を変える	意識改革のための啓発を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性中心社会の見直し</li> <li>・高齢者自身が手を挙げる</li> <li>・一人一人の意識の向上</li> <li>・改革への市民参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慣習の見直し</li> </ul>	
他地域の様子を研究する	社会の動きなどの勉強をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流のための様々な機会を提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習の機会の提供</li> <li>・姉妹都市交流</li> </ul>	









(4) わをばぐくむ ～夢実現の仕組み～  
 いのち(自然)・ひと(人間)・なりわい(産業)をばぐくみ、より有機的に結びつけるためには、新しい視点と柔軟な仕組み、支援の体制が必要です。

目標	目指すべき方向性	取り組みの内容	具体的な取り組み	支援の仕組み	現況・課題 (意見)
◎「森の市民」が力を発揮できる	多くの住民の意見を探り入れる	・コミュニケーションの場づくり	・「ドリカムたんば」の組織化(組合)	・たんばぐみ ・森の市民公務員 ・丹波の森支援アドバイザー	・本音で語り合う場が必要 ・年1回は、県・市は、意見を聞く場を持ち、意思決定までの経緯を説明する必要がある ・行政がややべきこと以外は自分たちでしていこうという気運を高める ・官と民が一緒にする
	これまでの取り組みの充実	・丹波の森協会の強化	・年代・立場・分野ごとの団体が丹波の森協会を活用	・丹波の森協会、丹波の森公園 ・森の市民公務員、夢ビジョン ・地域課題の検討、調整、取組	
	森の住民から森の市民へ		・住民が役割を担う		
	情報共有 (公と民)	・行政は開々まで見て回る	・定期的な行政と住民の意見交換会 ・県市町職員のトライヤのウィーク		
	協働へ	・NPOを育てるNPOの育成 ・NPOが公共サービスの担い手に ・地域を良くする住民活動への資金 ・支援 ・評論家から実践家へ	・コミュニケーションサポートセンター ・地域巡回バスの運営など ・コミュニケーション・ビジネスの利益還元 ・実践する人がリーダーになる	・コミュニティ・ビジネス ・各種人材バンク	・リーダーはいるが、リーダーを束ねる人がいない ・地域の人も強い思いをする必要がある ・誰もが能力を発揮できる組織を立ち上げる必要がある ・高齢者と子ども・若者の交流を多くする必要がある
	やる気のある人の結集	・丹波をよくしたいという人々を組織化	・集落単位の団体からやる気のあ る人の集団へ ・元気な高齢者の組織化	・ドリカムたんば(夢会議)の開催	
	様々な立場の人が出会い、語り合い、つながる場づくり	・組合をつくり、協賛金を受け付ける	・ドリカムたんばの組合化		
	丹波の見直しに丹波外の人を巻き込む	・希望する丹波外の人を名誉住民にする	・丹波の応援団結成 ・定年退職者の丹波への移住	・どっぷり丹波！特派員	
	新しい芽をつみ取らない	・若い人にも興味を持つ政治を	・都市部から来た人と一緒にできるまちおこし		
	人口を増加させる	・若者の定住を図る	・レジャースポットづくり ・若者が参加できる行事を増やす ・就職できる企業の育成 ・若者が農家を継げる対策 ・大学の研究機関の誘致	・図書館や大きめの公園の設置 ・グリーン人材営農センター	・都会のような遊園地をつくる ・スパバー、デパートがあればよい

目標	目指すべき方向性	取り組みの内容	具体的な取り組み	支援の仕組み	現況・課題 (意見)
◎情報インフラを枯かそう	情報の共有	・官民の情報一本化	・情報網の運営は民間主導(横の情報網)		・官と民と一緒にする
	情報を自分でつくって自分で発信する	・ネットワークの構築	・ロコミ ・インターネットによるロコミ ・朝市や商店街の活用 ・住民自らが地域のイメージアップに取り組む	・カリスマ森の市民 ・携帯電話 ・「聞け聞け丹波」の看板を掲げる	・活動グループ間の情報が不足している ・知りたい情報が入ってこない ・情報が未端まで行き渡らない ・会議に出席する人が限られている。誰でも出席できるように

目標	目指すべき方向性	取り組みの内容	具体的な取り組み	支援の仕組み	現況・課題（意見）
◎情報インフラを 活かそう	・情報を自分でつくって自分で発信する	・地元からの情報発信と出会いの場づくり	・ホームベージュア ドレス一覧の公開		・活動する人材をコーデイネートする必要がある ・住民運動が丹波には育っていない ・個々の人が協力して取り組むことが必要 ・自分たちが決めたことは自分たちが責任を持つ自覚が大
	・豊かな自然を活かす(地価が低い)	・ITの活用	・SOHO、e-コマース	・空き家バンク	・SOHO、e-コマースは森や里山に囲まれてこそ輝きを増す
	・人、モノ、情報が行き交う ・広報の方法を考える	・メディアを生かして丹波をPR ・情報を自分で作って、自分で発信 ・情報返信もする	・IT (情報技術) の活用 ・インターネットによるロココミ	・インターネット伝言板 ・パソコンの活用 ・ケーブテレレビ ・携帯電話 (i モード、E Z ウェア)	・IT者との情報の共有・連携が必要 ・24時間情報発信・情報公開 ・ITの活用で都市と農村の格差が広がらないように

目標	目指すべき方向性	取り組みの内容	具体的な取り組み	支援の仕組み	現況・課題（意見）	
◎丹波フアスの 「わ」を広げよう	・既存の施設（地域資源）の活用	・丹波の森公苑を使いまくる ・交流基盤 ・公共施設の改善	・丹波の森公苑の機能拡充 ・このどりの会でゴールインした人の結婚式場 ・酒蔵見学、競技会、スポーツ合宿、学生ボランティア等の受入 ・ハブ機能を付与し集まりやすく		・むやみに都会化しない ・仕事は都会、休みは自然に触れると割り切ればよい	
	・活動拠点づくり	・人、モノ、情報を循環させる拠点 ・行政の枠組みを越えた観光交流拠 点づくり ・丹波フアス倶楽部	・空き地開発 ・丹波の産物で埋め尽くされた百貨店 ・都市住民が丹波を知るための拠点 ・丹波の窓口づくり ・常駐スタッフによる会員登録、相談、倶楽部大賞（陶芸・利き酒体験等）の贈呈、ホームベージュ開設	・地域の魅力を集めた百貨店 ・観光村 ・貸し出し自転車を増やす ・丹波観光連盟の設置 ・丹波の案内宿		
	・行事の開催地を町の中から外へ	・行事の出前システム	・小学校区単位で出張行事			
	・地元の人が気付かない丹波の魅力再発見(都市住民のふるさと作り)	・都市住民の視点で丹波の魅力を探る	・都市住民が丹波の体験ツアーを企画(グリーンツーリズム・エコツーリズム)		・どっぷり丹波！特派員ツアー	
	・地域の人材・特産物の活用	・地域の付加価値を付けながら都市と農村の交流 ・地元からの情報発信と出会いの場づくり ・里山を中心に都市住民との交流	・地元の元気人や特産物の発表会 ・ホームベージュア ドレス一覧の公開 ・食べ物、自然をテーマに交流		・元気印丹波村夢まつり ・どっぷり丹波！特派員	
	・交通基盤の整備	・鉄道網の整備 ・道路網の整備 ・交通手段の充実	・福知山線の複線化 ・国道ハイパスの早期完成 ・コミュニティバス・コミュニティタクシ			
・豊かな自然を活かす(地価が低い)	・都市からの移住等	・定年退職者の移住(丹波人になった丹波フアス) ・週末丹波で暮らし、平日は都市部で働く丹波人 ・丹波フアス ・休日名産市・郡民(丹波フアス)				

いのち(自然)・ひと(人間)・ひと(産業)をはぐくみ、より有機的に結びつけるためには、

新しい視点と柔軟な仕組み、支援の体制が必要です。

目標	目指すべき方向性	取り組みの内容	具体的な取り組み	支援の仕組み	現況・課題 (意見)
◎「お」をつなぐ 仕組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な活動主体を媒介する仕組みをつくる</li> <li>行政と想いを持った人とのパートナーシップを確立する</li> <li>住民参加の丹波の森づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夢ビジョンの推進組織をつくる</li> <li>住民の意見を行政が吸い上げるシステムづくり</li> <li>行政の総合化</li> <li>住民活動のリーダー育成(カリスマ森の市民)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO法人としての「たんばぐみ」の結成</li> <li>住民主導の活動形態の強化(自治能力の向上、学習機会の創出)</li> <li>夢ビジョン推進員</li> <li>協賛金を受け付ける</li> <li>丹波の森夢21委員会がつなぎ役になる</li> <li>協賛金を受け付ける</li> <li>行政は福祉以外に高齢者担当課を設置</li> <li>人材バンク</li> <li>人材コーディネート</li> <li>年代・立場・分野ごとの団体が丹波の森協会を活用</li> <li>各種推進会議</li> <li>情報公開</li> <li>定期的な行政と住民の意見交換会</li> <li>県市町職員が連携する「たんばぐみ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>たんばぐみ</li> <li>グリーン人材営業センター</li> <li>条例による役割の裏付け</li> <li>ポスト丹波の森夢21委員会</li> <li>たんばぐみ</li> <li>森の市民公務員</li> <li>カリスマ森の市民</li> <li>丹波の森支援アドバイザー</li> <li>丹波の森協会、丹波の森公園</li> <li>森の市民公務員、夢ビジョン</li> <li>地域課題の検討、調整、取組</li> <li>各課題担当大臣の設置</li> <li>情報発信する「たんばぐみ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジョン策定に参画していない住民とともに夢ビジョンを実行に移していくか</li> <li>活動グループ間の情報が不足している</li> <li>知りたい情報が入らない</li> <li>住民の公的活動が低調</li> <li>活動の際、行政との連携が図りにくい</li> <li>本音で語り合う場が必要</li> <li>夢ビジョンを推進する新しい組織には魅力付けが必要</li> <li>夢ビジョン独自のモノと仕組みが必要</li> <li>夢ビジョン推進や課題解決の合意システムづくりが必要</li> <li>行政は住民運動を積極的に育てていく姿勢が必要</li> <li>行政には、相談などで住民を気軽に受け入れる体制を整えるべき</li> <li>県・市は、意見を聞く場を持ち、意思決定までの経緯を説明する必要がある</li> <li>行政がやるべきこと以外は自分たちでして欲しいという気運を高める</li> <li>官と民が一緒にする</li> </ul>
・点から面へ活動を広げる			<ul style="list-style-type: none"> <li>個人がつながりが維持できる組織の再結集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリスマ森の市民</li> <li>携帯電話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動グループ間の情報が不足している</li> <li>知りたい情報が入ってこない</li> <li>情報が末端まで行き渡らない</li> <li>会議に出席する人が限られている。誰でも出席できるように</li> <li>活動する人材をコーディネートする必要がある</li> <li>住民運動が丹波には育っていない</li> <li>この人が協力して取り組むことが必要</li> <li>自分たちが決めたことは自分たちが責任を持つ自覚が大仕事</li> </ul>
・やる気のある人の結集		<ul style="list-style-type: none"> <li>丹波を良くしたいという人々の組織化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集落単位の団体からやる気のあがる人の集団へ</li> <li>元気な高齢者の組織化</li> <li>ドリカム丹波の組合化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドリカム丹波(夢会議)の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰もが能力を発揮できる組織を立ち上げる必要がある</li> </ul>

## おわりに 丹波の森夢 2 1 委員からのメッセージ

「丹波らしさ」「丹波の魅力」とは何でしょうか？

丹波の森夢ビジョンを考えると、私たちは常にこのことを問いかけてきました。

多自然、田園風景、栗、まつたけ・・・ん？ 他になくて丹波にあるもの・・・？

話し合いを重ねていくうちに、ひょっとすると「丹波らしさ」「丹波の魅力」とは、単に目に映る丹波地域の姿ではなくて、丹波に住む私たち、それぞれ皆さんの個性や地域を思う心のこともかもしれないと思えてきました。

この「みんなで丹波の森」は地域を思う心のかたまりです。そしてこれを「森の市民」になって実践していくとき、一人ひとりの個性が活かされ、地域も輝くのです。その輝きは、きっと子どもたちに希望と勇気を与えるでしょう。

ただ、この夢ビジョンを良いものにしようと思えるだけの努力を私たちは重ねてきましたが、大切な終章、完結には至りませんでした。

「よき意図があっても山を動かすことはできない」という格言があります。この夢ビジョンがまとまったとしても、それはよき意図があるというだけです。夢ビジョンを完成させるためには、丹波に住むすべての人々や丹波ファンの協力が必要です。これを読み終えた今、あなたから行動を始めてみてください。私たちも始めます。仲間がたくさんいます。こんな想いでこの夢ビジョンをまとめた私たち丹波の森夢 2 1 委員の今の気持ちをメッセージに託します。

### 丹波の森夢 2 1 委員



楽しい、有意義な、着実な、夢のある、各々の顔が見える丹波ならではの「夢」を「実現」へ



丹波の豊かさを発信し、かつ、丹波らしさを追求する「たんばぐみ」の設立を！



丹波人からいつも元気をもっている丹波ファンとして、「もうひとつのふるさと」丹波をつくっていききたい。もちろん「みんなで丹波の森づくり！」応援団を増やしましょう。



いのちの源である自然は万物共有の財産。丹波の人だけでなく、皆で丹波の自然を守って欲しい・・・。



美しい丹波の自然に抱かれている喜びを 2 1 世紀の子ども達に伝えたいですね。



「丹波の森」の実情を理解し、人のつながりを育み、実践し、魅力ある丹波にしよう。



丹波の森の土から生まれ、愛しき丹波の夢をはぐくみ、丹波の森の土に戻る。親も私もそして子どもらも・・・



このような素晴らしい夢の実現に向けて、少しでも参加させていただいたことに感謝します。今後もますますの発展を期待しております。



丹波の森の現状を理解し、丹波の森を守るのはあなたです。期待します。丹波ファンの方々のご協力もお願いします。魅力ある丹波のために！



京阪神の扇の要・丹波、県人口率わずか日々の2%の丹波人のチャレンジが社会への夢をもたらすでしょう。



デジタル化した世の中の落とし物と忘れ物。おさがしものはまだこの丹波にあります。



日々の暮らしが安心して快適にできる様なまちづくりのためには、開発しても、間違いだったらコンクリートを剥がしてもう一度もとに戻すくらいの勇気を行政も民間人も持つような、たくましい元気な丹波になって欲しい。



明日の丹波への素晴らしい架け橋が完成しました。意識をせずに渡れる橋であって欲しいと願います。



たくさんの夢を集めて、元気で優しいみんなの“まち”づくり。「夢ビジョン」が大きな力になってくれると思っています。



自然豊かなこの地域で、色んな世代の人達が、支え合い、協力し合って、心豊かに生きていける・・・そんな21世紀であってほしい。



丹波地域の個人やグループの活動をつないで、市民活動の大きなうねりにしていきたい。





丹波の森夢ビジョンは、市民がまとめたものだ。舌足らずで表現不足の点もあるけれど、少なくとも絵そら言ではなく、市民が何をやるかはっきり記載されているはず。責任は重い。



少子高齡化いなるさとの波の中、環境・福祉・文化・教育等マッチした様々な人々が活動する丹波づくりを。



「新しい酒は新しい革袋に！」 「新しい世紀には新しい丹波夢ビジョンを！」夢の実現を夢見ています。



丹波の森構想のもと、21世紀を人と自然と文化、産業の調和した地域づくり、景観形成を「森の市民」が中心となって築こう！



震災後、丹波に移り住み、新しいパワーをもらいました。豊かな自然、あたたかい人、無限の可能性を秘めた「丹波の森」に乾杯！！



自らが変わらなければ、他人も丹波も変わらない。変わろう！変えよう！丹波の森の市民へ。我、輪、環、和、羽・・・丹波。



豊かで魅力ある丹波の森のこれからについて考えず、語らず、何もしないことは、この森に原子爆弾を落とすようなものだと思う。

## 丹波の森夢ビジョン検討プロジェクトチーム



成長しつづけるってすごいこと。どう成長するかは丹波人一人ひとりにかかっている。どこにいてもなんだか丹波が気になる、そんな私も丹波人。



したい～みんながそう思える素敵な丹波を、守り、はぐくみ、伝えていきましょう。



ここから始まりです。丹波に住む人、関わる人から一人でも多くの「森の市民」が誕生するよう、人と人をつなげて行きたい。



私自身が「森の市民」であり続けるためにも、身近なところから“わ”を拡げ、「森の市民」にかこまれ、「森の市民」と共に生きていこう。おそらくはそれが、「森の市民」の理想の姿であり、「森の市民」という理念の意味するところのように思われるから・・・。



「高齢者の夢」がやはり大変重要な部分を占めるのではないかと思う。その面で、今までの経験を生かしていきたい。



このP Jにあたり、たくさんの人に合い、話を聞きました。丹波の人は、みんなあたたかでした。ありがとう。



遊び場であり、恐ろしいところでもあった森。老杉の樹陰で休み、心のふるさとが保たれている悠長さが味わえる丹波でありたい。



夢ビジョンで生まれた「たんばぐみ」を核として、丹波の夢を実現しよう！



時代の流れに流されず、時代の流れに乗っていき、時代を見つめて進んでいく、みんなでつくろう丹波の森を！



夢ビジョンをもとに、丹波らしさの追求をし、住民それぞれの夢を実現させるため、がんばりましょう。



丹波で生まれ育った子どもたちが、将来、住んでみたい、住んで良かったといえる丹波にぜひしたい。



“たんば”に秘められた可能性は無限大です。みんなで“たんばの夢”づくりに挑戦してみませんか。



みんなで小さな木を植えよう。すぐには大きくならないけれど、そしてみんなで見守ろう。おおきな森に育つまで



丹波の森夢ビジョンをもとに、だれもが住みつづけたい「ふるさと丹波」となるよう、丹波人の一人として微力を尽くしたい。



夢は実現させるためにあるのだ。



清らかな自然をキャンパスに夢多き森の市民が集い、ふれ愛、語りあう丹波を目指す。



活きた丹波の情報発信が、人・物・地域の輪として広がり交わることに期待します。



夢ビジョンを基本理念とし、実行（実現）は、“時代の流れに柔軟で、すばやく対応できる”ことをめざしたい。



「夢」から次のステップへ。夢の実現は難しいけど、ぼちぼち歩いて行きましょう。決してあせらず・・・・・・・・

## ドリカムたんば（丹波の森夢会議・丹波の森夢ビジョン推進ネットワーク会議）に 参加し、夢を語り合った皆さん （順不同・敬称略）

大新屋花菖蒲育成グループ シルバー園芸同好会 花を愛する会 母坪花の会 あぐり研究会 春日町エコの会  
春日町森林同好会 下三井庄花の会 多利クリーンボランティア 花と緑の会 氷上農の会 えこらんど市島  
農友苑梶原 梶花家族友の会 梶自然愛好会 山南町子ども会花づくりグループ 星空愛好会 北御油幸生会  
丹波木炭クラブ 遠阪花づくり会 今田花愛好会 大山下フラワークラブ 小坂花づくりグループ 丹南味間  
北花づくりグループ シャクナゲを育てる会 花と緑の会 花のサークル こころ豊かな花づくりの会 篠山市  
花卉園芸協議会 後川上ノ西集落果樹づくりグループ 丹南有機農業実践会 たんば「地球村」 由利山緑化グ  
ループ 川代ダム野鳥愛護協会 西光寺愛好会 篠山産業高等学校丹南分校ホテル研究会 篠山天文同好会 水  
辺クラブ 丹南桜協会 日本野外生活推進協議会篠山支部 下滝フラワークラブ 篠山市身体障害者福祉協議会  
武庫川ネットワーク 氷上郡いずみ会 企業ボランティアリオプラン 氷上郡身体障害者福祉団体連合会 氷  
上郡保健衛生推進協議会 丹波地区商工会青年部連絡協議会 氷上郡連合婦人会 氷上郡医師会 香良病院 青  
田神楽保存会 おもちゃライブラリー“ドリーム” 市島町朗読ボランティアひばり 稲塚村おこし研究会 市  
島シニアクラブ 市島町和光会連合会 えびすクラブ ふるさと市島未来塾 丹波栗 ねんりん氷上 マジック  
クラブ 手話サークルおやゆび姫 保月会 山南町ボランティア連絡協議会 柏原町老人給食ボランティア 宅  
老所介助ボランティア ガイドヘルパークラブ四つ葉 よみきかせグループ「たからばこ」 サマリーかすが  
春日経営研究会 山南町つくし会 コープコーベ丹波コープ委員会 サークルふれんど HANAグローブ 篠  
山市住山さつき会 西吹フラワーズ 丹南文化協会 フルヤ工業(株) 今田を語る会 (株)小林食品 平和  
発條(株)丹南製作所 (株)ニッコー今田プラント 黄桜酒造 テクノワーク (株)カサタニ丹南工場 篠  
山市首地中ほたる愛護会 山野草に親しむ会 篠山かるた協会 西紀手話サークル「ほたる」 朗読ボランティ  
ア「ひまわり」 朗読ボランティア山うぐいす ディスカバーささやまグループ 青垣いきものふれあいの里友  
の会 青垣町女性連絡会 青垣町歴史を考える会 丹波布技術保存会 (株)丹波ケーブル 丹波地区商工会連  
絡協議会 井上電気(株) 丹波ひかみ農協 清住村づくり実行委員会 垣本建設工業(株) 鴨庄地区中山間  
活性化推進委員会 (株)西山酒造場 (株)大塚工場 市島区振興会 市島産業(株) 国際葛グリーン作戦  
山南 あおぞら文庫 ひょうごCSRクラブ丹波支部 明治ナショナル春日工場 丹波新聞社 兵庫バルブ 栢  
野花の会 篠山商工会青年部 氷上町区長会 市島町区長会 氷上郡連合婦人会 田季晴 赤井紀男 佐々木恭  
介 足立さつき 橋本真弥 笹倉鉄平 前田尋 高見幸子 岩槻邦雄 北村昌美 桂文珍 南条好輝 大村崑  
篠山小学校 雲部小学校 西紀南小学校 大山小学校 今田小学校 新井小学校 東小学校 神楽小学校 大路  
小学校 久下小学校 鴨庄小学校 篠山中学校 篠山東中学校 西紀中学校 丹南中学校 今田中学校 柏原中  
学校 氷上中学校 青垣中学校 春日中学校 山南中学校 和田中学校 市島中学校 篠山市立養護学校 柏原  
高等学校 氷上西高等学校 氷上高等学校 篠山鳳鳴高等学校 篠山産業高等学校 篠山産業高等学校東雲分校  
篠山産業高等学校丹南分校 アメリカ合衆国ワシントン州ワラワラ市 ケント市 オーストリア・ウィーン市  
13区 フランス・フォンテーヌブローの森 日本語ボランティア教室「うりぼう」 篠山市初田地区 氷上青  
年会議所 篠山青年会議所 市島町中村地区 手話サークルたんばぼ フィンガーサークル 柏原日本語教室  
「こんにちは」 氷上地区更正保護婦人会 丹波の森公苑 篠山市文化協会 青垣町公民館 花みどり会 兵庫  
県看護協会摂丹支部 丹波木の家研究会 中央地区自治振興会 丹南点訳アイ・愛 栢野あゆみ会 丹波かいば  
らふるさとガイドクラブ 村上環境住宅研究所 篠山国際理解センター 水辺クラブ みつばちグループ 紙芝  
居グループ まどかの会 丹波篠山観光連盟 氷上郡社会体育協会 栗柄ボランティアグループ ひだまりハウ  
スボランティア 友愛グループやまびこ (株)オオツキ 丹南つくし会 篠山白美会 氷上郡消防協会 氷上  
郡工業会 青垣町少年少女合唱団 りんどう エルムいちじま 本荘しんこう会 柳瀬(株)篠山工場 篠山市  
こんだ愛育班 (株)日本電気化学兵庫事業所 篠山市社会福祉協議会 やまゆり会 丹波史懇話会 氷上郡医  
師会 氷上郡歯科医師会 丹波合唱の会 沼・北御油ボランティア 今田若い仲間会 氷上郡中学校長会 青  
垣自然探訪クラブ 篠山市歯科医師会 コスモス配送グループ 給食調理グループコスモス 丹南やまびこ 山  
南町おもちゃライブラリーぴょんぴょん あかつき会 丹波ささやまふるさと産品ネットワーク研究会 丹波の  
森協会 青葉荘 青葉荘デイスサービスセンター 山路園在宅介護支援センター 山路園デイスサービスセンター  
どんぐり ローカルアジェンダ21氷上フォーラム クレッシュェンド・プレス 丹波地域さわやかな環境づくり  
行動会議 山南ステージスタッフ 春日戦国太鼓 氷の川太鼓 大名草三国太鼓 たんなん樽太鼓 山南エアロ  
サークル モーニングおばさん 上久下おかめ組 市島町有機農業推進協議会 井上養蜂場 (株)やながわ  
丹波マルコウ 氷上町つたの会 春日町多利つたの会 ワーキングたんば ハートフルたんば 小川亭 市島  
あらりん 市島町商工会青年部有志 篠山チルドレンズミュージアム 子育てネット環境学習部 東木之部小地  
域福祉活動 Tプラス・ファミリーサポートセンター 市島町観光協会 総合情報管理科学 菓膳料理研究会  
篠山市100人委員会 こころ豊かな人づくり500人委員会修了者 ふるさとひょうご創生塾生 これらの団  
体・グループをはじめとする丹波に関わる多くの皆さん